

関門地域の斜面地の住民生活と社会関係
—下関市上新地地区・北九州市八幡西区丸山地区の住民生活調査から—

叶 堂 隆 三
加 来 和 典
横 田 尚 俊
速 水 聖 子

関門地域研究 Vol. 21

2012年3月発行

関門地域共同研究会
北九州市立大学・下関市立大学

関門地域の斜面地の住民生活と社会関係

—下関市上新地地区・北九州市八幡西区丸山地区の住民生活調査から—

叶堂 隆三 加来 和典 横田 尚俊 速水 聖子

はじめに

関門地域を形成する下関市と北九州市には、明治期以降、急激な都市化・産業化によって大規模な人口が流入している。関門海峡をはさむ急峻な地形の両市では、臨海地域に大規模な事業所・商業施設が立地したため、両市への流入人口のかなりは工場地帯・中心市街地の後背地の丘陵や山の斜面地、工業地帯から少し離れた周辺の農村地域に居住することになる。さらに第二次世界大戦後・高度経済成長期、丘陵や斜面地に新しい団地が造成され、斜面地に居住する住民が増加することになる。

平成 23 年度の関門共同研究は、前年度（22 年度）に引き続き、両市における斜面地居住の実情を把握することを目的に「関門地域における斜面地居住の課題と可能性」にテーマを設定した。そして、平成 22 年度・23 年度の 2 年間におよび本研究の第一の関心である関門地域の斜面地居の歴史的展開を 2011 年に「下関市・北九州市における斜面地居住の形成と展開」（『関門地域研究』20 号所収）で明らかにしている。

本研究の第二の関心は、地域社会の高齢化や地方経済の衰退状況が見られる中、斜面地住民の生活と社会関係の状況を把握することである。この関心に対応して、2011 年 1 月に下関市上新地地区および北九州市八幡東区丸山地区で調査票調査を実施した。研究 2 年目の成果といえる本稿は、両地域におけるこの調査票調査の結果の分析にもとづくものである。

（1）平成 22 年度・23 年度関門共同研究の目的

一般に、今日の地方の臨海工業都市では、都市の発展にともなって流入した人口の受け皿の住宅地である急傾斜丘陵地域（いわゆる「斜面地」）において住民の高齢化（とそれともなう身体機能の低下）、居住世帯の家族規模の縮小、地区の平地部分に立地する商店街等の衰退等の状況が発生して、住民の生活条件の不利性が加速度的に進行している。

平成 22 年度・23 年度関門共同研究（「関門地域における斜面地居住の課題と可能性」）は、第一に、下関市・北九州市に特徴的な斜面地居住の社会的経緯—斜面地居住の誕生と展開、自治会等の地域組織の活動・行政の地域政策等—を明らかにし、第二に、斜面地の住民の生活や社会状況を把握することを目的にしている。そして、二つの研究目的の達成を通して、都市地域の斜面地居住に伴う居住条件の不利性を契機として、コミュニティが維持・再生していく可能性と条件を探ることを希求している。

本稿は、このうち第二の目的に関して、地域住民の高齢化（とそれに伴う身体機能の低下）や世帯規模の縮小という社会状況が進行する中、斜面地居住という地理的不利性が、住民生活と住民の社会関係にどのように影響を及ぼしているのかを調査票調査の結果の分析を通して明らかにするこ

とを目的にしている。

(2) 調査・研究の方法・研究組織

関門共同研究の研究目的・研究課題にしたがって、2010年10月以降、下関市における斜面地として上新地地区(4・5丁目)、北九州市における斜面地として八幡東区丸山地区を事例に選定して、以下の調査を実施している。

1. 斜面地を含む地区の20歳以上の住民を対象にした住民生活および住民の社会関係把握のための住民調査(調査票調査)の実施

2. 自治会をはじめとする住民組織、行政機関への聞き取り調査の実施

なお、事例の選定に関して、斜面地の地理的不利性の影響を把握する目的に沿って、平地と斜面地から構成される自治会を選定の要件とした。

そして、下関市立大学の叶堂隆三・加来和典、そして地域共創センター委嘱研究員の山口大学人文学部教授横田尚俊・准教授速水聖子によって研究組織を構成した。なお、すでに記しているように、本研究の第一の目的に関して、平成22年度関の『関門地域研究』20号に「下関市・北九州市における斜面地居住の形成と展開」を叶堂隆三が執筆をしている。

本稿は、第Ⅰ部を下関市上新地地区における調査票調査の結果の分析にあて、第1節の住民生活を横田尚俊が担当し、第2節の住民の社会関係を速水聖子が担当する。次に、第Ⅱ部を北九州市八幡東区丸山地区における調査票調査の結果の分析にあて、第3節の住民生活を加来和典が担当し、第4節の住民の社会関係を叶堂が担当する。最後に、まとめを叶堂・加来・横田・速水の4人共同で担当する。

(3) 調査概要

最後に、下関市上新地地区・北九州市八幡東区丸山地区における調査票調査の概要を記しておく。

調査期間：2011年1月

調査対象地：下関市上新地4・5丁目(以下上新地)

北九州市八幡東区東丸山・西丸山(以下丸山)

調査対象者：20歳以上で住民登録をしている人

抽出台帳：住民基本台帳

抽出数：上新地400、丸山400

抽出方法：系統抽出法

配票回収方法：郵送配布・訪問回収

有効回収数：上新地305(76.3%)、丸山218(54.5%)

I 下関市上新地地区

第Ⅰ部は、下関市上新地地区(上新地4・5丁目)住民を対象に実施した調査票調査の結果を二分して、第1節で日常生活と生活環境、第2節で社会関係の内容を分析する。なお、調査対象地区

における町丁の地番（街区）を、地形にそって「平地」、「斜面地下」、「斜面地上」という3つのタイプに区分した。その結果、表1.1のように、回答者の居住地分布はほぼ等しい度数と比率で三分される形となった（表中括弧内の数値は回答者の実数である）。

表1.1 上新地4・5丁目の地区類型と回答者の構成比

地区類型・構成比	上新地4丁目	上新地5丁目
平地 35.2%(107)	4丁目1・2・3・4・7番地（街区）	5丁目1・2番地（街区）
斜面地下 32.9%(100)	4丁目5・6・8番地（街区） 4丁目9・15番地（街区）	5丁目7・8・9・10・11・12番地（街区）
斜面地上 31.9%(97)	4丁目10・11・12・13・ 14・15番地（街区）	5丁目3・4・5番地（街区） 5丁目13番地（街区）

1. 住民生活

(1) 回答者の属性

まず、調査に回答した人たちの基本属性と世帯類型などを概観し、そこから地区類型ごとの住民特性も明らかにする。

① 本人の年齢、性別、職業の有無、世帯収入

・回答者の年齢

全体では70代、60代が約2割（前者が20.8%、後者が19.5%）を占め、50代が14.9%とこれに続く。30代以下の若い層は2割に満たない。地区別に見ると、平地と斜面地では回答者の年齢層に大きな相違があり、平地では50代以下の層が約6割を占めるのに対して、斜面地では高齢者層が多いという傾向が見られる。特に斜面地下で高齢者層がきわだって多く、65歳以上の高齢者の割合を地区別に算出すると、平地では3割弱、斜面地上では約4割であるのに対して、斜面地下では6割近く（57.0%）を占めている（表1.2）。

表1.2 地区別の高齢化率

	64歳以下	65歳以上	計
平地	72.0	28.0	100.0 (107)
斜面地下	43.0	57.0	100.0 (100)
斜面地上	60.4	39.6	100.0 (96)
計	58.7	41.3	100.0 (303)

単位は%、（ ）内は実数

・回答者の性別

男性回答者の比率が4割強（42.1%）、女性が6割弱（57.9%）と、女性の回答者がやや多くなっている。地区ごとの差異はほとんど見られない。

・回答者の職業従事状況

全体では、仕事に従事している者と従事していない者との比率はほぼ半々だが、高齢者率と連動する形で、地区ごとに大きな違いが見られる。平地では約6割（61.2%）が就業しているのに対して、斜面地上では半数以上（54.7%）が、斜面地下ではほぼ6割（60.2%）が、無職となっている（表1.3）。

表1.3 地区別職業への従事状況

	有職	無職	計
平地	61.2	38.8	100.0 (103)
斜面地下	39.8	60.2	100.0 (98)
斜面地上	45.3	54.7	100.0 (95)
計	49.0	51.0	100.0 (296)

単位は%、（ ）内は実数

・回答者の主な収入

全体では、「給与・自営等の収入のみ」と「年金のみ」がほぼ4割ずつで、二分されるが、高齢者率や就業率と相関して、平地では前者が約6割（60.4%）を占めるのに対して、斜面地下では後者が逆に6割近く（58.2%）を占めるという対照的な結果になっている（表1.4）。

表1.4 地区別の主な収入

	給与・自営等	年金のみ	給与等と年金	その他	計
平地	60.4	26.0	7.3	6.2	100.0 (96)
斜面地下	28.6	58.2	8.2	5.1	100.0 (98)
斜面地上	45.7	41.3	3.3	9.8	100.0 (92)
計	44.8	42.0	6.3	7.0	100.0 (286)

単位は%、（ ）内は実数

・回答者の職業

仕事に従事している人の職業では、パート・アルバイト（22.8%）と専門・管理・経営（22.1%）がそれぞれ約2割を占め、生産労働（13.1%）、事務（10.3%）がこれに続いている。地区別に見ると、平地ではパート・アルバイトが約3割（30.2%）と多く、斜面地下では生産労働の比率が他より高い（23.1%）という傾向が見られる。

仕事に従事していない人には前職を尋ねているが、全体では無職・主婦が最も多く（27.2%）、専門・管理・経営、販売・サービス、事務、パート・アルバイトがそれぞれ1割強を占めている。

地区ごとにごく大まかな特徴を述べると、平地では専門・管理・経営や事務、販売・サービスなどの職に就いている人が平均程度いる一方で、パート・アルバイトの比率が高くなっており、ホワイトカラー層と家計補助的主婦層、あるいは非正規就労層とが混在しているようである。これに対して、斜面地下は高齢無職層（年金生活者）とブルーカラー層が相対的に多い地区であり、斜面地上はホワイトカラー層と専業主婦層の比率がやや高い地区だという傾向がうかがえる。

② 同居者のデータから見た世帯類型

世帯類型では、夫婦と未婚の子からなる世帯が3分の1強（34.9%）を占め最も多い。次いで、夫婦のみ（少なくとも片方が65歳以上）が17.6%、高齢者の一人暮らしが12.2%、夫婦のみ（とも64歳以下）が8.8%と続く。64歳以下の者も含めた一人暮らしはちょうど2割ほどである。

地区別に見ると、回答者の年齢層を反映して、平地では夫婦と未婚の子からなる世帯の割合が半数近く（46.1%）ときわだって高く、斜面地下では夫婦のみ（少なくとも片方が65歳以上）が約4分の1（24.2%）、高齢者の1人暮らしが15.2%と、高齢者を含む夫婦世帯や高齢者単身世帯の割合が相対的に高くなっている。また、斜面地上では、夫婦と未婚の子からなる世帯の割合が他地区より小さく、代わりに三世代同居世帯が10.6%と相対的に高くなっている（表1.5）。

世帯人数では、2人が37.0%と最も多く、次いで1人が約2割（19.9%）、さらに3人と4人がそれぞれ2割弱（18%前後）となっている。地区別では、上記の世帯特性を反映して、平地で4人世帯の比率が高い点（24.2%）、斜面地下では1人世帯と2人世帯の割合が高く双方を併せると3分の2近く（64.0%）を占める点、斜面地上では5人以上の世帯が約13%と平均の約2倍の比率を示している点などが目につく。

平地には若年層の核家族世帯が一定の割合で存在するのに対して、斜面地下には高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯が集積していることがうかがわれる。

表1.5 地区別の世帯類型

	1人(64以下)	1人(65以上)	夫婦(64以下)	夫婦(一方が65以上)	夫婦と親	夫婦と親(65以上)	夫婦と未婚の子	三世代同居	その他	計
平地	11.8	6.9	9.8	13.7	2.9	0.0	46.1	1.0	7.8	100.0(102)
斜面地下	8.1	15.2	9.1	24.2	1.0	3.0	31.3	5.1	3.0	100.0(99)
斜面地上	3.2	14.9	7.4	14.9	6.4	2.1	26.6	10.6	13.8	100.0(94)
計	7.8	12.2	8.8	17.6	3.4	1.7	34.9	5.4	8.1	100.0(295)

単位は%、()内は実数

③ 別居の子どもに関する状況

・別居の子ども数

1人または夫婦のみで暮らしている人に別居している子供の有無について尋ねると、別居子がいる者（48.2%）といない者（51.8%）とが全体ではほぼ半々の割合となった。地区別では、平地では別居子がない者が7割近く（68.5%）を占めるのに対して、斜面地上、斜面地下では、いずれも別居子がいる者が過半数に達している（いずれも56%台）。地区ごとの年齢層や世帯タイプの分布に対応してこのような相違が生じたと考えられよう。

別居子がいる場合の人数を尋ねると、1人と2人がほぼ4割ずつを占めた。地区別では、斜面地上で1人の事例がきわだって多い点が目につく（57.7%）。

・別居の子どもとの同居予定の有無

別居している子どもの中に、同居予定の者がいるかどうか尋ねたところ、「なし」が6割近く(58.0%)を占め、「わからないが」3分の1強(36.2%)という結果になった。「ある」という回答はわずか5.8%に過ぎない。なかでも斜面地下では、「ある」という回答が皆無であった。

④ 住宅の形態

・住宅の所有形態

全体では、約6割(59.3%)が土地・建物ともに所有しており、次いで借家が約4分の1(24.3%)、借地で建物を所有が1割強(11.7%)という結果になった。

地区別に見ると、斜面地下で土地・建物ともに所有の割合が、三地点で唯一、5割を割っており(45.0%)、借地(23.0%)、借家(29.0%)の割合が高くなっている(表1.6)。とりわけ、他地区に比べて、借地の割合がきわだって高い。

表 1. 6 地区別の住宅所有形態

	土地建物所有	借地建物所有	借家	その他	計
平地	66.0	6.8	23.3	3.9	100.0 (103)
斜面地下	45.0	23.0	29.0	3.0	100.0 (100)
斜面地上	67.0	5.2	20.6	7.2	100.0 (97)
計	59.3	11.7	24.3	4.7	100.0 (300)

単位は%、()内は実数

・建物の形態

全体では、一戸建てが約6割で、棟続きの住宅(長屋など)と集合住宅がほぼ2割ずつという割合だが、ここでも地区ごとの差異がきわだっている。平地ではマンション形式の集合住宅の割合(47.6%)が最も高いのに対して、斜面地上では一戸建ての比率が8割強(83.3%)と圧倒的な割合を占めている。他方で、斜面地下では一戸建てが7割近く(68.4%)と最も多いものの、長屋形式の棟続き住宅が3割を占めている点は他地区にない特徴といえる(表1.7)。

なお、マンション形式の集合住宅は平地以外の斜面地ではほとんど見られない。

表 1. 7 地区別の住宅形態

	一戸建て	棟続き住宅	集合住宅	その他	計
平地	32.4	20.0	47.6	0.0	100.0 (105)
斜面地下	68.4	30.6	0.0	1.0	100.0 (98)
斜面地上	83.3	9.4	5.2	2.1	100.0 (96)
計	60.5	20.1	18.4	1.0	100.0 (299)

単位は%、()内は実数

⑤ 本人の健康状態

「健康である」が約6割で、「健康に不安がある」と「健康状態に問題がある」がほぼ2割ずつというのが全体の分布であるが、やはり地区ごとに大きな相違が見られる。平地では「健康である」が7割台と圧倒的多数を占めているが、斜面地下では健康な者は半数を切っており（45.5%）、「不安である」と「問題がある」がそれぞれ4分の1強ずつを占めている。斜面地上の回答分布は両者のちょうど中間である（表1.8）。

高齢者層、特に高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯が多い斜面地下で、健康状態に不安や問題を抱えている者が多いことがうかがわれる。

表1.8 地区別回答者の健康状態

	健康	健康に不安	健康に問題	その他	計
平地	75.0	13.5	10.4	1.0	100.0 (96)
斜面地下	45.5	27.3	27.3	0.0	100.0 (88)
斜面地上	57.0	24.7	18.3	0.0	100.0 (93)
計	59.6	21.7	18.4	0.4	100.0 (277)

単位は%、()内は実数

(2) 外出時の移動とその負担感

① 日常的な外出時の移動方法

買い物など日常的な外出時の最も主要な移動方法を尋ねたところ、自家用車を選んだ者が最も多く5割を占め、次いで徒歩と回答した者が約4分の1を占めた。

地区別では、平地と斜面地上では自家用車がともに6割近くを占めているのに対して、斜面地下では自家用車が約3分の1（33.0%）に減り、徒歩の方が多い（34.0%）という結果になった（表1.9）。道路事情の問題もあろうが、自家用車を所有しない人や、高齢化と健康面の問題により運転できない人が、斜面下居住者に多いのではないかと推測される。

表1.9 地区別の日常外出方法

	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	その他	計
平地	17.8	7.5	1.9	58.9	6.5	1.9	5.6	100.0 (107)
斜面地下	34.0	9.0	5.0	33.0	6.0	9.0	4.0	100.0 (100)
斜面地上	24.2	6.3	2.1	57.9	4.2	1.1	4.2	100.0 (95)
計	25.2	7.6	3.0	50.0	5.6	4.0	4.6	100.0 (302)

単位は%、()内は実数

② 坂道や階段の上り下りの負担感

坂道や階段の上り下りについて、「日常的な上り下り」、「天候の悪い時」、「荷物を持っている時」、「病気や体調の悪い時」という4つの場面ごとに、その負担感を尋ねた。

表 1. 10 地区別に見た日常的な坂道・階段の上り下り

	上り下りとも負担	上りが負担	下りが負担	負担に感じない	上り下りをしていない	計
平地	18.9	10.4	0.0	62.3	8.5	100.0(106)
斜面地下	40.4	23.2	2.0	32.3	2.0	100.0(99)
斜面地上	29.9	28.9	0.0	37.1	4.1	100.0(97)
計	29.5	20.5	0.7	44.4	5.0	100.0(302)

単位は%、()内は実数

表 1. 11 地区別に見た天候が悪い時の坂道・階段の上り下り

	上り下りとも負担	上りが負担	下りが負担	負担に感じない	上り下りをしていない	計
平地	26.4	3.8	1.9	59.4	8.5	100.0(106)
斜面地下	53.5	12.1	1.0	28.3	5.1	100.0(99)
斜面地上	46.3	14.7	3.2	31.6	4.2	100.0(95)
計	41.7	10.0	2.0	40.3	6.0	100.0(300)

単位は%、()内は実数

表 1. 12 地区別に見た荷物を持っている時の坂道・階段の上り下り

	上り下りとも負担	上りが負担	下りが負担	負担に感じない	上り下りをしていない	計
平地	30.5	8.6	1.0	51.4	8.6	100.0(105)
斜面地下	52.1	17.7	1.0	24.0	5.2	100.0(96)
斜面地上	42.7	28.1	0.0	25.0	4.2	100.0(96)
計	41.4	17.8	0.7	34.0	6.1	100.0(297)

単位は%、()内は実数

表 1. 13 地区別に見た病気・体調の悪い時の坂道・階段の上り下り

	上り下りとも負担	上りが負担	下りが負担	負担に感じない	上り下りをしていない	計
平地	34.3	10.5	0.0	45.7	9.5	100.0(105)
斜面地下	56.6	15.2	1.0	21.2	6.1	100.0(99)
斜面地上	56.8	16.8	0.0	17.0	8.4	100.0(95)
計	48.8	14.0	0.3	28.8	8.0	100.0(299)

単位は%、()内は実数

当然ながら、どの場合でも、平地の回答者に「負担に感じない」割合が最も高くなっているが、「日常的な上り下り」以外では、3割以上が「上り下り」や「上り」の際に負担を感じている。平地居住者でも、(どの場面においても)「上り下りをしない」という人は1割に満たず、何らかの生活上の必要から急傾斜地を移動する機会が少なくないということだろう。

また、病気の時以外では、斜面上よりもむしろ斜面下の回答者で、「上り下り」や「上り」で負担を感じる割合が高くなっている点が目につく。斜面下回答者では、「日常的な上り下り」も含め、負担を感じる者の割合がコンスタントに60%台後半から70%台に達している（表1.10～1.13）。こうした結果には、先に見たように、外出時に自家用車を利用できる者の多寡が反映していると考えられよう。

そのほか、居住地区の如何にかかわらず、どの場面においても「下り」を負担に感じる人がほとんどいない点、場面別ではやはり「病気や体調の悪い時」、次いで「荷物を持っている時」に、斜面地居住者の負担感が重い点も、データからうかがえる。

（3）日常生活サービスの利便性

日常生活サービスの利便性、およびその利便性が10年前と比べてどう変化したかを、6項目にわたって尋ねた。その結果を表1.14と1.15にまとめた。以下で、項目ごとのデータを分析する。

表 1.14 地区別に見た日常生活の利便性

		全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
食料品の購入	便利	44.9 (131)	62.1	34.0	37.0
	不便	25.0 (73)	14.6	33.0	28.3
病院・診療所	便利	67.8 (200)	75.0	59.6	68.5
	不便	14.2 (42)	10.6	18.2	14.1
デイ・サービス	便利	53.7 (36)	62.5	50.0	52.4
	不便	22.4 (15)	18.8	26.7	19.0
銀行・郵便局	便利	62.5 (182)	65.0	57.7	64.8
	不便	14.1 (41)	11.7	14.4	16.5
保育所・幼稚園・学校	便利	72.9 (62)	68.6	72.7	78.6
	不便	4.7 (4)	5.7	9.1	0.0
ごみ出し	便利	70.2 (207)	79.6	65.3	64.9
	不便	16.3 (48)	6.8	19.4	23.4

「どちらともいえない」は不掲載。「デイ・サービス」と「保育所・幼稚園・学校」については、「利用していない」という回答を除外した数値を100%として、その割合を掲載している。単位は%、（ ）内は実数。

表 1.15 地区別に見た日常生活の利便性（10年前）（1）

		全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
食料品の購入	便利	53.3 (138)	67.0	44.3	48.2
	不便	20.5 (53)	10.2	28.4	22.9
病院・診療所	便利	68.7 (184)	74.4	59.1	72.9
	不便	14.9 (40)	11.1	20.4	12.9
デイ・サービス	便利	41.3 (26)	50.0	36.7	40.0
	不便	22.2 (14)	11.1	30.0	20.0
銀行・郵便局	便利	64.7 (167)	68.2	58.2	68.3
	不便	13.2 (34)	9.4	16.5	13.4

「どちらともいえない」は不掲載。なお、全項目について、「住んでいなかった、または利用していなかった」という回答を除外した数値を100%として、その割合を掲載している。単位は%、（ ）内は実数。

表 1.15 地区別に見た日常生活の利便性（10 年前）（2）

		全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
保育所・幼稚園 ・学校	便利	67.0 (61)	68.8	62.1	70.0
	不便	3.3 (3)	0.0	6.9	3.3
ごみ出し	便利	74.8 (199)	78.4	72.5	73.6
	不便	15.8 (42)	11.4	16.5	19.5

「どちらともいえない」は不掲載。なお、全項目について、「住んでいなかった、または利用していなかった」という回答を除外した数値を100%として、その割合を掲載している。単位は%、（ ）内は実数。

① 食料品の購入

食料品の購入に関しては、4割以上が便利だと回答し、どちらともいえないが3割（30.1%）、不便が約4分の1という割合になった。但し、地区ごとの差異が大きく、平地では6割以上が便利と回答しているのに対して、斜面地では上でも下でも便利という者は3割台で、不便、どちらともいえないという回答もほぼ同じくらいの割合となり、評価が三分されている。

10年前については、平地居住者ではその頃も便利であったという回答が3分の2（67.0%）を占めているが、斜面地居住者では同様な回答が半数弱であり、逆に「不便であった」の割合が2割台と、平地居住者の2倍以上から3倍近くを占めている。

回答の割合を単純に比較すると、平地居住者では「便利」の回答が10年前とさほど変わらないが、斜面地居住者では10%ほど減少している。10年という時間の経過とともに、両者の間で利便性格差が拡大しているように見える。近くの商店街が衰退傾向にあることや、高齢化にともない斜面地居住者の移動面での制約がより厳しくなったことなども原因と考えられる。

② 病院・診療所の利用

病院・診療所の利用に関しては、3分の2以上（67.8%）の人が便利だと回答しており、おしなべて利便性への評価が高い。とはいえ、ここでも地区ごとに差異があり、平地居住者の4分の3（75.0%）が便利だと回答しているのに対して、斜面地下の居住者では6割弱（59.6%）の回答率にとどまっている。

10年前についても、便利だという回答の割合は同様な傾向を示しており（全体で68.7%、斜面地下のみ6割弱）、大きな違いは見られない。

③ デイサービス（福祉）の利用

デイサービスに関しては、「利用していない」が回答総数の4分の3以上（76.8%）を占めているが、その回答を除外して再計算し、地区別に見ると、斜面地では平地に比べて、便利だと回答した者の割合がやや低くなっており、とりわけ斜面地下では不便だという回答比率が他地区よりも高くなっている。

10年前の利便性評価と比べると、おしなべて現在の方が評価が高いが、地区別の回答傾向に大きな違いは見られない。

④ 金融サービス（銀行・郵便局）の利用

銀行・郵便局といった金融機関の利用に関しては、6割以上（62.5%）が便利だと回答しており、おおむね利便性への評価は高いが、ここでも斜面地下居住者のそのように回答した割合は6割に満たず（57.7%）、他地区居住者よりも7%程度低くなっている。

10年前についても、ほぼ同様な回答傾向が認められる。

⑤ 保育所・幼稚園・学校

利用していない人が回答総数の約7割（70.6%）を占めているため、その回答を除外して再計算し、地区別に見ると、ここでは平地よりも斜面地で便利だという回答の割合がやや高くなっている。特に斜面地上でその回答が8割近く（78.6%）に及んでいる点が目につく。

10年前と比べると、利便性評価がやや上昇している。

⑥ ごみ出しについて

約7割（70.2%）が便利だと回答し、全項目の中で最も利便性評価が高い。地区別に見ると、平地で便利だと回答した者の割合は約8割に達するのに対して、斜面地上下ではいずれも65%程度であり、不便との回答も2割程度存在する。

10年前と現在とを比較すると、斜面地居住者で便利だとする者の割合が減少し、不便だという回答が微増している。分別回収が細かく指定されるようになり、高齢化とともにそうした回収システムに対応するのが難しい人が増えつつあるという可能性も考えられる。

全体に、買い物や病院・診療所の利用、ごみ出しでは平地居住者で便利だという回答の比率が高く、斜面地居住者との間で利便性評価に格差が見られる。特に買い物では、平地と斜面地との格差がかなり大きいことがうかがわれる。また全体的に、斜面地下の居住者で、日常生活での利便性評価がやや低い傾向が見られる。

（4）地域の居住環境評価と住み心地

① 居住環境の快適性

上新地地区の居住環境で快適だと感じられる点について、複数回答で尋ねた。回答結果は表1.16の通りである。

全体に回答の多い項目は、「閑静な環境」35.5%、「商業施設・病院・金融機関等を利用しやすい」33.2%、「交通の便がいいこと」29.6%、「市の中心部であること」22.0%、などである。市街地の利便性と閑静な住宅地としての環境が両立している点が、快適性のコアを構成しているようである。

これに対して、地域のまとまり（人間関係）のよさや地域行事の活発度、地域のことへの住民のかかわり方（住民自治文化）といったコミュニティ・モラルやコミュニティの文化的成熟にかかわる項目をあげる者はきわめて少ない。

地区別に見ると、平地では、中心市街地に位置することによって交通や施設・機関の利便性を享

受できる点に回答が集まっている。これに対して、斜面地では、下から上へと進むにしたがって、利便性への評価は概して低下するものの、閑静さや空気・眺望のよさといったアメニティの快適さが強く感じられているようである。

なお、1人あたり回答項目数の平均値を算出すると、平地、斜面地上では2.1個であるのに対して、斜面地下では1.8個にとどまっている（全体平均では2.0個）。斜面地下では他地区に比べ、快適だと感じられる項目数が少ないという結果になっている。

表 1.16 居住環境で快適だと感じる点（複数回答）

	全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
眺望のよさ	17.1 (52)	17.8	11.0	22.7
閑静な環境	35.5 (108)	21.5	39.0	47.4
空気がきれい	15.5 (47)	5.6	16.0	25.8
高台である	19.4 (59)	22.4	13.0	22.7
中心部である	22.0 (67)	31.8	12.0	21.6
施設の利便性	33.2 (101)	37.4	34.0	27.8
交通の利便性	29.6 (90)	47.7	22.0	17.5
職住近接	13.2 (40)	12.1	16.0	11.3
住民自治文化	2.3 (7)	1.9	1.0	4.1
地域のまとまり	10.9 (33)	8.4	14.0	10.3
教育熱心	0.0 (0)	0.0	0.0	0.0
地域行事が盛ん	1.3 (4)	0.0	4.0	0.0
その他	1.6 (5)	2.8	1.0	1.0

単位は%、()内は実数

② 地区の居住環境で不便・不安な点

上新地地区の居住環境について不便である点、不安である点について、複数回答で尋ねた。回答結果は表 1.17 に掲げた通りである。

表 1.17 地区の居住環境で不便・不安な点（複数回答）

	全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
坂道・階段きつい	41.4 (126)	27.1	53.0	45.4
坂道・階段が危険	24.3 (74)	14.0	36.0	23.7
災害が心配	35.9 (109)	21.5	49.0	38.1
自家用車利用難	24.0 (73)	16.8	28.0	27.8
交通事故が心配	11.5 (35)	6.5	17.0	11.3
公共交通不便	20.7 (63)	8.4	28.0	26.8
商店街の衰退	32.6 (99)	28.0	30.0	40.2
住民の高齢化	41.4 (126)	33.6	41.0	50.5
小中学校統廃合	11.2 (34)	10.3	9.0	14.4
子どもの環境	6.3 (19)	10.3	3.0	5.2
空き家の増加	37.2 (113)	35.3	38.0	38.1
その他	3.6 (11)	3.7	1.0	6.2

単位は%、()内は実数

全体に回答の多い項目は、「坂道や階段の昇降がきついこと」と「子供や若い世代が少なく、住民が高齢化していること」がともに41.4%で、以下、「空き家・空き地が増加していること」37.2%、「地震・台風・火災等の災害が心配なこと」35.9%、「市場・商店街が衰退していること」32.6%、「坂道や階段の昇降が危険なこと」24.3%、「道路事情・駐車事情が悪く、自家用車を利用しにくいこと」24.3%、「タクシーやバスが利用しにくいこと」（公共交通不便）20.7%、と続く。

地域社会の持続可能性（子供や若い世代が少なく、住民が高齢化していること、空き家・空き地が増加していること）や、急傾斜市街地という立地にもなる生活環境問題（階段や坂道の昇降がきついこと、それらの昇降が危険なこと）、生活サービスの低下（商店街が衰退していること）、災害への不安（地震・台風・火災等の災害が心配なこと）などが、大きな問題だと見なされているといえよう。

地区別に1人あたりの回答項目数の平均値を算出すると、平地では2.2個であるのに対して、斜面地上では3.3個、斜面地下では3.6個という結果になった（全体平均は2.9個）。平地に比べ、斜面地で平均回答項目数が顕著に多く、生活上の不便や不安が大きいことがうかがえる。

先に分析した居住環境の快適性と比較すると、平地では快適性にかかわる平均回答項目数（2.1個）と居住環境への不満・不安のそれ（2.2個）とがほぼ同数であるのに対して、斜面地上では後者（3.3個）が前者（2.1個）の約1.6倍、斜面地下では2倍（快適性が1.8項目、不満・不安が3.6項目）を数えるに至っている。斜面地下で居住環境の剥奪感が非常に強いことがうかがえるが、特に生活安全面への不安や立地の厳しさへの不満が大きい点が特徴的である。すでに何度か触れたように、地形上・立地面での問題に加えて、斜面地下には高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯が多く、また自家用車などの移動手段を利用できない人が多いという地域特性が、このような不安や不満の背景になっていると考えられよう。

③ 住み心地のよさ

全体的に見て、上新地地区の住み心地はどうかと尋ねたところ、「大変よい」が5.1%、「どちらかといえばよい」が74.5%で、「どちらかといえばよくない」は15.0%、「よくない」は5.4%という結果となった。これらを、あえて「よい」と「よくない」という2つの回答に集約すると、およそ8割の回答者（79.6%）が、上新地地区を住み心地のよいところだと見ていることになる。

表 1. 18 地区別に見た住み心地

	たいへんよい	どちらかといえ ばよい	どちらかといえ ばよくない	よくない	計
平 地	6.5	86.0	5.6	1.9	100.0 (107)
斜面地下	4.2	69.5	18.9	7.4	100.0 (95)
斜面地上	4.3	66.3	21.7	7.6	100.0 (92)
計	5.1	74.5	15.0	5.4	100.0 (294)

単位は%、（ ）内は実数

地区別に見ると、平地では9割を超える人たちが「よい」と見なしているのに対して、斜面地では上でも下でも「よい」が7割台前半であり、4分の1以上の人は「よくない」と回答していることがわかる（表1.18）。両者における違いは、表1.17の居住環境に対する不満・不安の格差の裏返しであるといえよう。

④ 地区の居住環境水準を高めるために取り組むべき対応

上新地地区の居住環境水準を高めるために行政や地域で取り組むべき対応について、複数回答で尋ねたところ、表1.19のような結果が得られた。

回答の多い順に内訳を見ると、「石段や坂道に手すりを取り付ける」が35.5%、「空き家に新しい住民が居住できるようにする」27.6%、「防災活動を活発にして、災害に対応できるようにする」27.0%、「道路を整備し、自動車を利用しやすくする」24.3%、「道路事情にあった消防・救急車両や機器を配備する」19.7%、「地域住民のきずなを強めて、助け合いのまちづくりをめざす」19.4%、などという結果になった。おもに安全面での対策強化が優先されていることがうかがわれる。

地区別に見ると、平地よりも斜面地（とりわけ斜面地下）で、そのような対策の強化を求める人が多い。ここでも平均回答項目数を算出してみると、平地では1.7項目、斜面地上では2.1項目、斜面地下では2.3項目（全体平均では2.0項目）となり、上記のような傾向をある程度裏付ける結果となった。

表1.19 地区の居住環境水準を高めるための取り組み（複数回答）

	全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
昇降補助機器	12.2 (37)	20.6	5.0	10.3
手すり設置	35.5 (108)	20.6	56.0	30.9
自動車道路整備	24.3 (74)	20.6	22.0	30.9
集合住宅の建設	14.8 (45)	13.1	17.0	14.4
共同建て替え	7.2 (22)	11.2	4.0	6.2
災害対応強化	27.0 (82)	16.8	36.0	28.9
消防救急車配備	19.7 (60)	12.1	28.0	19.6
空き家の再生	27.6 (84)	29.0	27.0	26.8
観光名所化	2.0 (6)	2.8	1.0	2.1
助け合いの居住	19.4 (59)	15.0	20.0	23.7
集会施設の建設	8.2 (25)	6.5	6.0	12.4
その他	3.9 (12)	3.7	3.0	5.2

単位は%、()内は実数

(5) 現住地および現在の住居に住むようになった経緯・理由

① 現在の住居に入居した経緯

現在の住居に入居した経緯に関しては、「結婚後、現在の地区に住んだ」が約半数（50.3%）で最も多く、次いで、「現在住んでいる地区で生まれた」が2割強（22.3%）を占める。

地区別に見ると、平地では「現在住んでいる地区で生まれた」人が17.1%と全体平均より5ポイントほど低くなっている。集合住宅居住者および若年層の多い平地の方が、地区での居住年数が相対的に短い人が多いと推測される(表1.20)。

これに対して、斜面地上では、上新地地区で生まれた人が3割近くを占め、他地区に比べてその割合が高い。子どもの頃転居してきた人も含め、地区への居住年数が長いと予想される人の割合を見ると、斜面地上で約4割(39.6%)、斜面地下で3割強(同32.3%)、平地で2割強(21.9%)となる。

表1.20 地区別に見た入居の経緯

	地区で 生まれた	子どもの頃 転居	成人後転居	結婚後転居	その他	計
平地	17.1	4.8	11.4	50.5	16.2	100.0(105)
斜面地下	21.2	11.1	6.1	54.5	7.1	100.0(99)
斜面地上	29.2	10.4	6.3	45.8	8.3	100.0(96)
計	22.3	8.7	8.0	50.3	10.7	100.0(300)

単位は%、()内は実数

② 現住地に居住するようになった理由

現在地で生まれた人以外を対象に、転居してきた理由について尋ねたところ、表1.21のような結果になった。全体では、「手ごろな価格で住宅を購入できた」(22.7%)、「配偶者の家があった」(21.9%)という2つの回答がともに2割強で、以下、「自分または配偶者の仕事の都合」(14.6%)、「親族が近くにいた」(11.6%)、「便利で暮らしやすかった」(10.7%)、「家賃・地代が安かった」(10.3%)と続く。

地区別に見ると、平地では、「手ごろな価格で住宅を購入できた」が約3割(29.9%)で、「自分または配偶者の仕事の都合」が約2割(19.5%)、「便利で暮らしやすかった」が約15%と、斜面地居住者に比べて住宅価格や仕事上の都合、生活の利便性を理由に転居してきた人が多い。平地には、マンションなど集合住宅に住む若年層の住民が多く、職場との距離や家計、利便性などを勘案しつつ、現住地への居住を選択した人が多いのであろう。

これに対して、斜面地では「配偶者の家があった」が最も多く、次いで斜面地上では「手ごろな価格で住宅を購入できた」、斜面地下では「地代・家賃が安かった」という居住コストにかかわる理由があげられている。そのほか、斜面地下では「自分または配偶者の仕事の都合」という回答の割合も高いが、斜面地上でそのような理由をあげる者は少なく、むしろ「親族が近くにいた」という理由が3番目に多い点が特徴的である。

表 1. 21 現住地に居住するようになった理由（複数回答）

	全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
親の仕事の都合	7.3 (17)	5.7	10.3	5.9
自分の仕事都合	14.6 (34)	19.5	15.4	7.4
親族が居住	11.6 (27)	12.6	7.7	14.7
同郷人が居住	0.4 (1)	1.1	0.0	0.0
職場の紹介	3.0 (7)	2.3	5.1	1.5
安価で住宅購入	22.7 (53)	29.9	14.1	23.5
安価な家賃・地代	10.3 (24)	8.0	15.4	7.4
教育環境が良好	3.0 (7)	3.4	2.6	2.9
便利で住みよい	10.7 (25)	14.9	7.7	8.8
治安が良好	1.3 (3)	1.1	1.3	1.5
静かな環境	5.6 (13)	2.3	9.0	5.9
地域イメージ良	2.6 (6)	3.4	2.6	1.5
配偶者の家あり	21.9 (51)	17.2	23.1	26.5
その他	7.3 (17)	4.6	9.0	8.8

単位は%、（ ）内は実数

③ 転居してきた人の前住地

転居してきた人の前住地を見ると、新地地区内での移動は12.4%ほどだが、それも含めた旧下関市内からの移動が7割近く（68.2%）を占め圧倒的に多い。

地区別では、斜面地上で、新地地区内から転居した者が約2割（19.1%）を占め、他地区よりも多いのが目につく。

④ 居住の時期

居住の時期については、表 1. 22 に見られるように、地区別での差異がきわだつ結果となった。

表 1. 22 地区別の居住時期

	第二次 大戦前	S20 年代	S30 年代	S40 年代	S50 年代	S60～ H6年	H7～ 16年	H17年 以降	計
平 地	7.7	8.7	4.8	5.8	15.4	5.8	37.5	14.4	100.0 (104)
斜面地下	5.1	16.2	15.2	15.2	20.2	15.2	7.1	6.1	100.0 (99)
斜面地上	12.5	8.3	10.4	10.4	20.8	13.5	9.4	14.6	100.0 (96)
計	8.4	11.0	10.0	10.4	18.7	11.4	18.4	11.7	100.0 (299)

単位は%、（ ）内は実数

まず平地では、平成7年以降の居住者が半数を超えており（51.9%）、比較的新しい転入者が多いことが明瞭である。昭和30年代以前からの居住者は2割あまり（21.2%）に過ぎない。他方、斜面地では、前者は1～2割台（下13.2%、上24.0%）であるのに対して、後者が3割台（下36.5%、上31.2%）を占めている。（1）でも指摘したが、平地よりも長く居住している人が多いといえる。

さらに、斜面地上と斜面地下とを比較すると、戦前からの居住者は「上」の方が多いが（上 12.5%、下 5.1%）、平成以降に転居してきた新来住者層の割合もやはり「上」の方が高いという傾向が見られる。このデータによりここ 20 年ほどの動向をうかがうならば、斜面地上には一定の人口流入・移動が生じているが、「下」ではそうした動きが乏しいと見なすことができる。

（6）居住継続と転居の意向

① 居住継続の意向

今後も現在の住居で生活を続けたいかという設問に対しては、4分の3以上（76.0%）の人がそうしたいと回答しており、この点について地区ごとの目立った差異は認められない。但し、細かく見ると、斜面地上で転居したいという人が4人に1人の割合（24.2%）を占めており、他地区に比べてやや（6～7%ほど）高い。斜面地上の転居希望者のうち約6割は、新地地区以外の下関市内を希望転居先にあげている。

① 転居の意向とその理由

表 1. 23 は、転居を希望する回答者（72 名）にその理由を尋ねた結果である。どの地区でも家屋の老朽化をあげる者が最も多いが、斜面地下では特にその回答の割合が高い。

表 1. 23 現住の家から転居したい理由（転居希望者対象、複数回答）

	全 体	平 地	斜面地下	斜面地上
家屋の老朽化	45.8 (33)	40.9	56.5	40.7
住宅が狭い	25.0 (18)	27.3	21.7	25.9
住居設備に不満	29.2 (21)	36.4	30.4	22.2
自家用車利用難	15.3 (11)	4.5	26.1	14.8
建て替え困難	23.2 (16)	22.7	30.4	14.8
災害への不安	19.4 (14)	9.1	30.3	18.5
上り下りが負担	30.6 (22)	22.7	34.8	33.3
身体の弱化	19.4 (14)	9.1	26.1	22.2
通勤・通学に不便	4.2 (3)	0.0	8.7	3.7
買い物・通院不便	19.4 (14)	9.1	30.4	18.5
公共交通利用難	8.3 (6)	4.5	8.7	11.1
同居の勧めあり	0.0 (0)	0.0	0.0	0.0
治安・防犯に不安	5.6 (4)	4.5	4.3	7.4
その他	13.9 (10)	22.7	4.3	14.8

単位は%、（ ）内は実数

回答の傾向を見ると、地区によって転居希望理由にやや違いが見られる。平地では、家屋の老朽化のほかに住宅設備に不満がある、住宅が狭いといった住宅の機能面での問題が主な理由であるのに対して、斜面地ではやはり坂道・階段の上り下りがたいへんという地形・立地上の理由をあげる人も多く、3割以上がその回答を選んでいる。また、斜面地下では、建て替えが困難である点や災

害への不安、買い物や通院に不便、自家用車を利用しにくいといった安全性、生活の利便性などにかかわる理由をあげる人も多く、転居希望が（住宅機能の問題にとどまらない）複合的な生活上の諸要因に基づいているようである。

（7）地域の現状と将来像

① 地域の人口減少への対応

「A 少子高齢化が進み、地域の人口が減少していくのは仕方がないことである。B 地域の人口を維持するために、上新地地区で生まれ育った若者が戻ってきたり、新住民が転入できるように何か対策をとるべきだ」という二つの見解に対する賛意を尋ねたところ、A（Aに近い・どちらかというAに近い）が59.3%、B（どちらかというBに近い・Bに近い）が40.7%で、現状を仕方がないものとして受け入れるAの見解に同意する回答が約6割を占めて、何か対策を講ずるべきだというBを上回った。

地区別に見ると、平地ではAとBがほぼ半数ずつで拮抗しているのに対して、斜面地下ではAが7割近く（68.4%）を占め、現状を「仕方がない」と受け入れる傾向が他地区よりも強い（表1.24）。

表1.24 地区の将来人口についての考え方

	Aに近い	どちらかというA	どちらかというB	Bに近い	計
平地	29.5	21.0	22.9	26.7	100.0 (105)
斜面地下	28.6	39.8	21.4	10.2	100.0 (98)
斜面地上	33.7	26.1	20.7	19.6	100.0 (92)
計	30.5	28.8	21.7	19.0	100.0 (295)

単位は%、（ ）内は実数

② 地域における空き家増加への対応

空き家が増えていることに関して、「A 上新地地区に住みたいと希望する地区外の人たちに、空き家の情報を提供したり、あっせんをしたりするようなくみをつくるべきだ。B 土地や地形などの条件から考えて、空き家が増えるのは仕方がないことであり、時代の流れにまかせるべきだ」という二つの見解に対する賛意を尋ねたところ、A（Aに近い・どちらかというAに近い）が52.6%、B（どちらかというBに近い・Bに近い）が47.4%で、両者の回答率が拮抗する結果となった。

地区別では、平地ではBが過半数（56.3%）を占め、空き家の増加を時代の趨勢として受け入れる回答が多いが、斜面地においては、逆にAを支持する人の割合が高く（斜面地下57.8%、斜面地上57.3%）、空き家再生の取り組みを進めるべきだと考える人の方が多い（表1.25）。①の人口減少への対応とは真逆の回答傾向となっているが、家屋の老朽化や空き家の増加は斜面地の方で顕著であり、それゆえこの問題に対する住民の意識もよりセンシティブなのであろう。

表 1. 25 空き家増加についての考え方

	Aに近い	どちらかという とA	どちらかという とB	Bに近い	計
平地	17.5	26.2	23.3	33.0	100.0 (103)
斜面地下	18.6	39.2	18.6	23.7	100.0 (97)
斜面地上	19.1	38.2	20.2	22.5	100.0 (89)
計	18.3	34.3	20.8	26.6	100.0 (289)

単位は%、()内は実数

③ 住みやすい地域にするための対応

住みやすい地域にするために必要なこととして、「A 地域を住みやすくするためには、住民みんなが地域のことに関心を持ち、協力し合うことが大切だ。B 地域を住みやすくするためには、地域のことをよく知っている熱心で有能な人たちにまかせておいた方がよい」という二つの見解に対する賛意を尋ねたところ、A (Aに近い・どちらかというとAに近い) が61.0%、B (どちらかというとBに近い・Bに近い) が39.0%と、AがBを上回り、リーダー任せにするよりも住民の関心と参加が必要という住民の意識が明らかになった。

地区別に見ると、平地ではAとBがほぼ半々の回答となっているが、斜面地ではAが多く、特に斜面地下ではAの回答がほぼ7割(69.4%)を占めている(表1.26)。斜面地下では他地区に比べ、高齢者世帯の増加や生活環境の剥奪状況が顕著であり、そのような地域の問題状況に対する危機感が回答傾向にも現れているように思われる。

表 1. 26 住みやすい地域づくりについての考え方

	Aに近い	どちらかという とA	どちらかという とB	Bに近い	計
平地	22.3	29.1	20.4	28.2	100.0 (103)
斜面地下	29.6	39.8	19.4	11.2	100.0 (98)
斜面地上	30.8	31.9	15.4	22.0	100.0 (91)
計	27.4	33.6	18.5	20.5	100.0 (292)

単位は%、()内は実数

2. 住民の社会関係

(1) 他出子との社会関係—他出子との行き来と交流の内容

住民の他出子との社会関係について見ていこう。

表2. 1は他出している子どもが回答者の自宅を訪問する頻度を示したものである。全体でみると、「週1回以上」16.9%、「月に2、3回程度」15.4%、「月に1回程度」13.2%、「2カ月に1回程度」5.9%、「季節に1回程度」6.6%、「お盆や正月」31.6%、「ほとんど来ない」4.4%であった。このうち、「週に1回以上」と「月に2、3回程度訪問する」を合計すると32.4%である。つまり、上新地地区における他出子の訪問は、比較的日常的な訪問(「月2、3回以上訪問する」と、イベントとしての訪問(「お盆や正月に訪問する」)がそれぞれ3割ずつであることがわかる。

表 2.1 別居の子どもがお宅を訪問する頻度

	週に1回 程以上、家 に来る	月に2、3 回程度、家 に来る	月に1回 程度、家に 来る	2ヶ月に 1回程度、 家に来る	季節に1 回程度、家 に来る	お盆や正 月に家に 来る	ほとんど 家に来な い	その他	合 計
平地	8 27.6%	4 13.8%	2 6.9%	0 0.0%	2 6.9%	9 31.0%	1 3.4%	3 10.3%	29 100.0%
斜面地下	9 16.4%	11 20.0%	9 16.4%	3 5.5%	4 7.3%	14 25.5%	4 7.3%	1 1.8%	55 100.0%
斜面地上	6 11.5%	6 11.5%	7 13.5%	5 9.6%	3 5.8%	20 38.5%	1 1.9%	4 7.7%	52 100.0%
全体	23 16.9%	21 15.4%	18 13.2%	8 5.9%	9 6.6%	43 31.6%	6 4.4%	8 5.9%	136 100.0%

立地別にみると、「月に2、3回以上の頻度で他出子が訪問する」（「週に1回以上」と「月に2、3回程度」の合計）という割合は、平地41.4%、斜面下36.4%、斜面上23.1%で、平地が斜面地を上回っている。また、斜面地上は「お盆や正月の訪問」が38.5%と他地域よりもとりわけ高く、他出子の訪問が他地域よりも少ない傾向にある。

表2.2は、他出子が訪問した際に一緒にすることや手伝ってくれることを示したものである。複数回答で、1人平均2.7個の回答があった。全体で見ると、「食事・飲酒」71.3%、「孫との交流」53.7%、「買い物」47.8%、「墓参り」39.7%の順で多く、以下に「掃除・洗濯」16.2%、「娯楽やドライブ」16.2%、「家の修理・点検」10.3%と続いている。

表 2.2 別居の子どもが訪問して一緒にすること、手伝ってくれること (MA) (1)

	食事・飲酒	孫との交流	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通院・ 通所の介助	墓参り
平地	23 79.3%	11 37.9%	12 41.4%	6 20.7%	2 6.9%	1 3.4%	11 37.9%
(斜面地下)	33 60.0%	34 61.8%	24 43.6%	9 16.4%	5 9.1%	4 7.3%	16 29.1%
(斜面地上)	41 78.8%	28 53.8%	29 55.8%	7 13.5%	7 13.5%	5 9.6%	27 51.9%
実数	97	73	65	22	14	10	54
百分率	71.3%	53.7%	47.8%	16.2%	10.3%	7.4%	39.7%

表 2.2 別居の子どもが訪問して一緒にすること、手伝ってくれること (MA) (2)

	親戚・他の友人の訪問	近所への挨拶	娯楽やドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
平地	4 13.8%	1 3.4%	6 20.7%	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	29 100.0%
(斜面地下)	2 3.6%	4 7.3%	7 12.7%	1 1.8%	2 3.6%	0 0.0%	55 100.0%
(斜面地上)	1 1.9%	1 1.9%	9 17.3%	2 3.8%	1 1.9%	0 0.0%	52 100.0%
実数	7	6	22	4	3	0	136
百分率	5.1%	4.4%	16.2%	2.9%	2.2%	0.0%	1.0

立地別にみると、1人平均の回答数は平地2.68、斜面地下2.56、斜面地上3.0で、斜面地上で他出子訪問時に一緒にすることや手伝ってくれることが多いことがわかる。回答を整理すると、「孫との交流」(平地37.9%、斜面地下61.8%、斜面地上53.8%)、「買い物」(平地41.3%、斜面地下43.6%、斜面地上55.8%)、「家の修理・点検」(平地6.9%、斜面地下9.1%、斜面地上13.5%)、「墓参り」(平地37.9%、斜面地下29.1%、斜面地上51.9%)などの項目において、平地よりも斜面地での割合が高い。また、「親戚・他の友人の訪問」(平地13.8%、斜面地下3.6%、斜面地上1.9%)、「娯楽やドライブ」(平地20.7%、斜面地下12.7%、斜面地上17.3%)では平地のほうが斜面地よりも割合が高い。全体で見ても、立地別に見ても、他出子が訪問した際の活動は「食事・飲酒」や「孫との交流」「買い物」などの楽しみとしての活動が多いことが分かる。

表2.3は他出子宅への訪問頻度である。全体を見ると、「週に1回以上」6.6%、「月に2,3回訪問」5.9%、「月に1回程度訪問」8.1%、「2カ月に1回程度訪問」2.9%、「季節に1回程度訪問」5.1%、「年に1,2回訪問」30.9%、「ほとんど訪問しない」が32.4%となっている。他出子からの訪問に比べると、回答者からの訪問はかなり少ないことが分かる。

表 2.3 別居の子ども宅への訪問頻度 (1)

	週に1回以上、訪問する	月に2,3回程度、訪問する	月に1回程度、訪問する	2ヶ月に1回程度、訪問する	季節に1回程度、訪問する
平地	1 3.4%	1 3.4%	1 3.4%	1 3.4%	2 6.9%
(斜面地下)	6 10.9%	5 9.1%	8 14.5%	1 1.8%	3 5.5%
(斜面地上)	2 3.8%	2 3.8%	2 3.8%	2 3.8%	2 3.8%
全体	9 6.6%	8 5.9%	11 8.1%	4 2.9%	7 5.1%

表 2.3 別居の子ども宅への訪問頻度（2）

	年に1、2回、 訪問する	ほとんど訪問 しない	その他	無回答	合 計
平地	9 31.0%	11 37.9%	0 0.0%	3 10.3%	29 100.0%
(斜面地下)	16 29.1%	13 23.6%	0 0.0%	3 5.5%	55 100.0%
(斜面地上)	17 32.7%	20 38.5%	1 1.9%	4 7.7%	52 100.0%
全 体	42 30.9%	44 32.4%	1 0.7%	10 7.4%	136 100.0%

立地別にみると、平地と斜面地上は「年に1、2回訪問」が約3割、「ほとんど訪問しない」が4割強となっている。これに対して、斜面地下は「週1回以上訪問」10.9%、「月に2、3回訪問」9.1%、「月に1回以上訪問」14.5%であり、他地区に比べて他出子宅への訪問頻度が高くなっている。

表 2. 4は、他出子宅に訪問した際に一緒にすることや手伝っていることを示したものである。複数回答で、1人平均1.7個の回答があった。全体でみると、「食事・飲酒」55.1%、「孫との交流」51.5%、「買い物」30.9%、「娯楽やドライブ」15.4%、「掃除・洗濯」8.1%となっている。

表 2.4 別居の子ども宅に訪問して一緒にすること、手伝っていること (MA)

	食事・飲酒	孫との交流	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	孫の通学・ 通園
平地	15 51.7%	12 41.4%	6 20.7%	3 10.3%	1 3.4%	0 0.0%
(斜面地下)	30 54.5%	30 54.5%	20 36.4%	4 7.3%	0 0.0%	1 1.8%
(斜面地上)	30 57.7%	28 53.8%	16 30.8%	4 7.7%	2 3.8%	2 3.8%
実数	75	70	42	11	3	3
百分率	55.1%	51.5%	30.9%	8.1%	2.2%	2.2%
	近所への挨拶	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
平地	2 6.9%	7 24.1%	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	29 100.0%
(斜面地下)	1 1.8%	6 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.6%	55 100.0%
(斜面地上)	0 0.0%	8 15.4%	2 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	52 100.0%
実数	3	21	3	0	2	136
百分率	2.2%	15.4%	2.2%	0.0%	1.5%	100.0%

立地別にみると、1人平均の回答数は平地1.62、斜面下1.70、斜面上1.77で、斜面地区のほう
が若干ではあるが、一緒にすることや手伝っていることが多くなっている。内容をみると、斜面地
下・斜面地上では多い項目の順に、「食事・飲酒」がそれぞれ54.5%、57.7%、「孫との交流」がそ
れぞれ54.5%、53.8%、「買い物」が36.4%、30.8%であり、全体の傾向とほぼ同じである。平地
では、「食事・飲酒」51.7%、「孫との交流」41.4%、「娯楽やドライブ」24.1%、「買い物」20.7%
なのであることが分かる。

表2.5は他出している子どもと連絡を取り合う頻度を示している(電話や手紙、電子メール等)。
全体を見ると、「月に1回以上」32.4%、「週に1回以上」30.9%、「ほぼ毎日」14.7%、「半年に1
回以上」8.8%となっている。「1年に1回」「ほとんど連絡を取り合わない」は全体で1.4%(2名)
とごく少数であり、全体で45%が週に1回以上連絡を取り合っていることが分かる。

表2.5 別居子との通信頻度

	ほぼ毎日	週に 1回以上	月に 1回以上	半年に 1回以上	年に 1回程度	ほとんど連 絡を取り合 わない	無回答	合 計
平地	7 24.1%	9 31.0%	5 17.2%	4 13.8%	0 0.0%	0 0.0%	4 13.8%	29 100.0%
(斜面地下)	7 12.7%	19 34.5%	20 36.4%	3 5.5%	1 1.8%	1 1.8%	4 7.3%	55 100.0%
(斜面地上)	6 11.5%	14 26.9%	19 36.5%	5 9.6%	0 0.0%	0 0.0%	8 15.4%	52 100.0%
全体	20 14.7%	42 30.9%	44 32.4%	12 8.8%	1 0.7%	1 0.7%	16 11.8%	136 100.0%

立地別にみると、平地では「週に1回以上」31%、「ほぼ毎日」24.1%、「月に1回以上」17.2%、
「半年に1回以上」13.8%であり、6割弱が週に1回以上連絡を取り合っていることが分かる。一
方、斜面地区では多い順に、「月に1回以上」(斜面地下36.4%、斜面地上36.5%)、「週に1回以上」
(斜面地下34.5%、斜面地上26.9%)、「ほぼ毎日」(斜面地下12.7%、斜面地上11.5%)となっ
ており、平地のほうが連絡を取り合う頻度が高くなっていることが分かる。

(2) 親戚との社会関係—親戚との行き来と交流の内容

次に親戚(子ども以外)との社会関係について見よう。

表2.6は親戚が居住する地理的範囲を示したものである(複数回答)。全体で見ると、「旧下関
市内」57.2%、「山口県内」24.0%、「福岡県」20.4%、「新地地区」17.1%、「その他」12.2%、「平
成合併前下関市内」10.9%、「中国地方」8.9%となっている。

立地別に見ると、平地は割合が高い順に、「旧下関市内」60.7%、「福岡県」20.6%、「平成合併前
下関市内」「山口県内」がそれぞれ17.8%、「新地地区」「中郷地方」がそれぞれ10.3%となってい

る。斜面地下は、「旧下関市内」48%、「山口県内」32%、「新地地区」17%の順に高く、斜面上は「旧下関市内」62.9%、「新地地区」24.7%、「福岡県」23.7%、「山口県内」22.7%の順となっている。斜面地上では、平地や斜面地下よりも「新地地区」「旧下関市内」の割合が高く、比較的近場に親戚が居住していることがわかる。

表 2.6 親戚の住所

	新地地区	旧下関市内	平成合併前 下関市内	山口県内	中国地方	福岡県	その他	合計
平地	11 10.3%	65 60.7%	19 17.8%	19 17.8%	11 10.3%	22 20.6%	12 11.2%	107 100.0%
(斜面地下)	17 17.0%	48 48.0%	7 7.0%	32 32.0%	10 10.0%	17 17.0%	13 13.0%	100 100.0%
(斜面地上)	24 24.7%	61 62.9%	7 7.2%	22 22.7%	6 6.2%	23 23.7%	12 12.4%	97 100.0%
実数	52	174	33	73	27	62	37	304
百分率	17.1%	57.2%	10.9%	24.0%	8.9%	20.4%	12.2%	100.0%

表 2. 7は、親戚が回答者宅を訪問する頻度を示したものである。全体で見ると、「ほとんど家に来ない」40%、「お盆や正月に来る」20.3%、「月に1回程度来る」9.2%、「月に2、3回程度来る」7.8%、「週に1回以上来る」7.5%、「2カ月に1回程度来る」「季節に1回程度来る」が7.1%ずつとなっている。全体の4割は親戚からの訪問はほとんど無く、お盆や正月の交流が2割であることが分かる。一方で、「月に1回以上の訪問がある」(月に1回程度、月に2、3回程度、週に1回以上)割合は、全体の24.4%である。

立地別に見ると、「ほとんど家に来ない」は平地48.1%、斜面地下34%、斜面地上37.4%で平地が最も高い。「月に1回以上」の訪問を比較すると、平地18.3%、斜面地下24%、斜面地上31.9%で斜面地区のほうが親戚の訪問が多く、特に斜面地上の割合が高いことが分かる。

表 2.7 親戚がお宅を訪問する頻度

	週に1回 程以上、家 に来る	月に2、3 回程度、家 に来る	月に1回 程度、家に 来る	2ヶ月に 1回程度、 家に来る	季節に1 回程度、家 に来る	お盆や正 月に家に 来る	ほとんど 家に来な い	その他	合計
平地	8 7.7%	3 2.9%	8 7.7%	4 3.8%	7 6.7%	21 20.2%	50 48.1%	3 2.9%	104 100.0%
(斜面地下)	10 10.0%	7 7.0%	7 7.0%	15 15.0%	7 7.0%	20 20.0%	34 34.0%	0 0.0%	100 100.0%
(斜面地上)	4 4.4%	13 14.3%	12 13.2%	2 2.2%	7 7.7%	19 20.9%	34 37.4%	0 0.0%	91 100.0%
実数	22	23	27	21	21	60	118	3	295
百分率	7.5%	7.8%	9.2%	7.1%	7.1%	20.3%	40.0%	1.0%	100.0%

表2. 8は親戚が訪問した時に一緒に行うことや手伝ってくれることの内容を示したものである(複数回答)。全体で見ると、「食事・飲酒」46.1%、「茶飲み話」41.8%が突出して高く、以下に「墓参り」19.7%、「買い物」15.1%、と続いている。

立地別に見ても、「食事・飲酒」と「茶飲み話」が平地・斜面下・斜面上のいずれの地区でも4～5割に近づいている。次いで、割合が高いのは「買い物」(平地14.0%、斜面地下19%、斜面地上12.4%)、「墓参り」(平地13.1%、斜面地下20.0%、斜面地上26.8%)である。

表2.8 親戚が訪問した時に行なう活動

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	墓参り
平地	51 47.7%	44 41.1%	15 14.0%	6 5.6%	4 3.7%	4 3.7%	14 13.1%
(斜面地下)	42 42.0%	41 41.0%	19 19.0%	2 2.0%	2 2.0%	6 6.0%	20 20.0%
(斜面地上)	47 48.5%	42 43.3%	12 12.4%	1 1.0%	6 6.2%	0 0.0%	26 26.8%
実数 百分率	140 46.1%	127 41.8%	46 15.1%	9 3.0%	12 3.9%	10 3.3%	60 19.7%
	他の親戚・ 友人の訪問	近所への挨拶	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
平地	1 0.9%	0 0.0%	7 6.5%	2 1.9%	0 0.0%	2 1.9%	107 100.0%
(斜面地下)	5 5.0%	2 2.0%	5 5.0%	1 1.0%	1 1.0%	3 3.0%	100 100.0%
(斜面地上)	2 2.1%	0 0.0%	2 2.1%	1 1.0%	0 0.0%	3 3.1%	97 100.0%
実数 百分率	8 2.6%	2 0.7%	14 4.6%	4 1.3%	1 0.3%	8 2.6%	304 100.0%

表2. 9は親戚と連絡を取り合う頻度を示したものである(電話や手紙、電子メール等)。全体で見ると、「月に1回以上」25.8%、「半年に1回以上」17%、「週に1回以上」14.8%、「年に1回程度」12.4%、「ほぼ毎日」6.0%となっており、「ほとんど連絡を取り合わない」が24.0%と4分の1を占めている。

立地別にみると、平地は「ほとんど連絡を取り合わない」が約3分の1(31.0%)と他地区よりも高い(斜面地下21.1%、斜面地上19.3%)。また、「頻繁に連絡を取る」(月に1回以上、週に1回以上、ほぼ毎日)割合を比較すると、平地42.0%、斜面地下48.4%、斜面地上50.0%となり、斜面地区のほうが連絡を取り合う頻度が高いことが分かる。

表 2.9 親戚との通信頻度

	ほぼ毎日	週に 1回以上	月に 1回以上	半年に 1回以上	年に 1回程度	ほとんど連 絡を取り合 わない	無回答	合 計
平地	10 10.0%	12 12.0%	20 20.0%	15 15.0%	12 12.0%	31 31.0%	0 0.0%	100 100.0%
(斜面地下)	4 4.2%	14 14.7%	28 29.5%	16 16.8%	13 13.7%	20 21.1%	0 0.0%	95 100.0%
(斜面地上)	3 3.4%	16 18.2%	25 28.4%	17 19.3%	10 11.4%	17 19.3%	0 0.0%	88 100.0%
全体	17 6.0%	42 14.8%	73 25.8%	48 17.0%	35 12.4%	68 24.0%	0 0.0%	283 100.0%

(3) 近隣との社会関係—近隣との行き来と交流の内容

次いで、近隣住民との行き来と交流について見よう。

表 2. 10は近隣住民（上新地地区）が回答者宅を訪問する頻度を示している。全体で見ると、「ほとんど家に来ない」43.8%が最も多く、次いで「月に1回程度家に来る」10.1%、「週に1度程度家に来る」9.0%、「月に2回程度家に来る」8.3%、「週に2,3回家に来る」7.3%となっている。「頻繁に訪問がある」（週に1回以上を合計）割合は全体の20.8%にすぎず、4割強は近所からの訪問が乏しいことが分かる。

全体で見たこのような傾向は、立地別にみた場合でも同様である。最も割合が高いのは、「ほとんど家に来ない」であり、平地55.9%、斜面地下33.3%、斜面地上41.1%と平地では5割を超えている。「頻繁な訪問」（週に1回以上を合計）については、平地16.7%、斜面地下30.2%、斜面地上15.6%であり、最も割合が高い斜面地下でやっと3割に達する程度である。

表 2.10 近隣の訪問頻度（1）

	ほぼ毎日、家 に来る	週に2、3回程 度、家に来る	週に1回程 度、家に来る	月に2回程 度、家に来る	月に1回程 度、家に来る	2ヶ月に1回程 度、家に来る
平地	4 3.9%	8 7.8%	5 4.9%	5 4.9%	7 6.9%	3 2.9%
(斜面地下)	7 7.3%	9 9.4%	13 13.5%	14 14.6%	6 6.3%	6 6.3%
(斜面地上)	2 2.2%	4 4.4%	8 8.9%	5 5.6%	16 17.8%	3 3.3%
実数	13	21	26	24	29	12
百分率	4.5%	7.3%	9.0%	8.3%	10.1%	4.2%

表 2.10 近隣の訪問頻度（2）

	季節に1回程 度、家に来る	お盆や正月に 家に来る	ほとんど家に 来ない	その他	合 計
平地	4 3.9%	5 4.9%	57 55.9%	4 3.9%	102 100.0%
(斜面地下)	5 5.2%	4 4.2%	32 33.3%	0 0.0%	96 100.0%
(斜面地上)	5 5.6%	5 5.6%	37 41.1%	5 5.6%	90 100.0%
実数	14	14	126	9	288
百分率	4.9%	4.9%	43.8%	3.1%	100.0%

表 2. 1 1 は近隣住民が訪問した時に一緒にすること、手伝ってくれることの内容を示したものである（複数回答）。全体で見ると、回答数の平均は1人あたり0.97個と1以下であった。割合が高い順に、「おすそわけ・おみやげ」36.8%、「茶飲み話」30.9%、「食事・飲酒」6.3%、「買い物・相談事」がそれぞれ4.9%であった。

表 2.11 近隣が訪問時に行う活動(MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	墓参り
平地	6 5.6%	30 28.0%	4 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	30 28.0%
(斜面地下)	10 10.0%	40 40.0%	7 7.0%	2 2.0%	0 0.0%	6 6.0%	42 42.0%
(斜面地上)	3 3.1%	24 24.7%	4 4.1%	1 1.0%	0 0.0%	2 2.1%	40 41.2%
実数	19	94	15	3	0	9	112
百分率	6.3%	30.9%	4.9%	1.0%	0.0%	3.0%	36.8%
	他の親戚・ 友人の訪問	近所への挨拶	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
平地	0 0.0%	4 3.7%	1 0.9%	3 2.8%	0 0.0%	3 2.8%	107 100.0%
(斜面地下)	2 2.0%	10 10.0%	3 3.0%	6 6.0%	1 1.0%	2 2.0%	100 100.0%
(斜面地上)	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	6 6.2%	97 100.0%
実数	2	15	4	10	1	11	304
百分率	0.7%	4.9%	1.3%	3.3%	0.3%	3.6%	100.0%

立地別にみると、回答数の平均は、平地0.76、斜面地下1.31、斜面地上0.84となり、斜面地下が最も高い。内容を見ると、平地は「おすそわけ・おみやげ」と「茶飲み話」が28.0%、「食事・飲酒」が5.6%である。斜面地下は「おすそわけ・おみやげ」が42.0%、「茶飲み話」が40.0%、「食

事・飲酒」が10.0%、斜面地上は「おすそわけ・おみやげ」が41.2%、「茶飲み話」24.7%である。平地地区における近隣の交流は、回答数・割合からみても他地区よりも少ないことが分かる。

表2. 12は近隣との接触頻度を示したものである。具体的には、自宅以外で、日常生活で近隣住民に会ったり、回答者が近隣住民を訪問して会うなどの頻度を表している。全体で見ると、「ほとんど会っていない」が最も高く42.1%、次いで「ほぼ毎日家に来る」13.6%、「週に1回程度家に来る」11.7%、「週に2,3回家に来る」9.5%となっている。近隣住民と「ほとんど会わない」が全体の4割に上っている一方で、「週に1回以上の接触がある」層が全体の34.8%である。近隣住民との接触頻度は乏しい層と、比較的頻繁に交流がある層に2極化していることがわかる。

立地別に見ると、「ほとんど会っていない」は、平地50.0%、斜面地上41.6%とかなり高いことが分かる。この2地区は、週に1回以上の接触頻度も平地30.0%、斜面地上31.5%と低調である。斜面地下地区のみが、「ほとんど会っていない」35.1%に対して、「週に1回以上」の接触頻度が42.6%と上回っている。

表2.12 近隣との接触頻度

	ほぼ毎日、家 に来る	週に2、3回程 度、家に来る	週に1回程 度、家に来る	月に2回程 度、家に来る	月に1回程 度、家に来る	2ヶ月に1回程 度、家に来る
平地	14 15.6%	8 8.9%	5 5.6%	1 1.1%	3 3.3%	2 2.2%
(斜面地下)	18 19.1%	9 9.6%	13 13.8%	6 6.4%	4 4.3%	6 6.4%
(斜面地上)	5 5.6%	9 10.1%	14 15.7%	3 3.4%	9 10.1%	2 2.2%
実数	37	26	32	10	16	10
百分率	13.6%	9.5%	11.7%	3.7%	5.9%	3.7%
	季節に1回程 度、家に来る	お盆や正月に 家に来る	ほとんど家に 来ない	その他	合計	
平地	3 3.3%	1 1.1%	45 50.0%	8 8.9%	90 100.0%	
(斜面地下)	2 2.1%	1 1.1%	33 35.1%	2 2.1%	94 100.0%	
(斜面地上)	6 6.7%	2 2.2%	37 41.6%	2 2.2%	89 100.0%	
実数	11	4	115	12	273	
百分率	4.0%	1.5%	42.1%	4.4%	100.0%	

表2. 13は、近隣住民と自宅以外で会ったときに一緒に行くことや手伝っていることの内容を示している（複数回答）。全体で見ると、1人あたりの回答数は0.73であり、1以下である。内容は、割合が高い順に、「茶飲み話」26.0%、「おすそわけ・おみやげ」17.4%、「その他」9.5%、「買い物」6.3%などとなっている。

立地別に見ると、回答数の平均は、平地0.59、斜面地下0.96、斜面地上0.66であり、斜面地下が最も高いものの、これも1以下である。内容を見ると、平地は、「茶飲み話」22.4%、「その他」15.0%、「おすそわけ・おみやげ」10.3%となっている。斜面地下は、「茶飲み話」34.0%、「おすそわけ・おみやげ」22.0%、「買い物」10.0%となっている。斜面地上では、「茶飲み話」21.6%、「おすそわけ・おみやげ」20.6%、「その他」6.2%、「買い物」5.2%となっている。平地と斜面地上では、回答数・割合の両方で交流は低調であることが分かる。斜面地下は、他地区に比較すると交流があるが、とても活発であるとはいえない。

表 2.13 近隣住民と自宅以外で行う活動 (MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・点検	通勤・通所の介助	おすそわけ・おみやげ
平地	0 0.0%	24 22.4%	4 3.7%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%	11 10.3%
(斜面地下)	6 6.0%	34 34.0%	10 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 5.0%	22 22.0%
(斜面地上)	3 3.1%	21 21.6%	5 5.2%	1 1.0%	0 0.0%	2 2.1%	20 20.6%
実数 百分率	9 3.0%	79 26.0%	19 6.3%	2 0.7%	0 0.0%	8 2.6%	53 17.4%
	親戚・他の友人の訪問	相談ごと	娯楽やドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
平地	1 0.9%	3 2.8%	0 0.0%	3 2.8%	0 0.0%	16 15.0%	107 100.0%
(斜面地下)	1 1.0%	4 4.0%	0 0.0%	6 6.0%	1 1.0%	7 7.0%	100 100.0%
(斜面地上)	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	3 3.1%	2 2.1%	6 6.2%	97 100.0%
実数 百分率	2 0.7%	8 2.6%	0 0.0%	12 3.9%	3 1.0%	29 9.5%	304 100.0%

(4) 友人との社会関係—友人との行き来と交流の内容

次に、上新地地区外に居住する友人との社会関係について見よう。

表 2.14 は友人が居住する地理的範囲を示したものである。全体で見ると、「旧下関市内」が最も多く 64.1%、次いで「山口県内」18.1%、「新地地区」17.1%、「福岡県」11.8%、「平成合併前下関市内」11.2%となっている。

立地別に見ても、「旧下関市内」が最も多くて、平地69.2%、斜面地下57.0%、斜面地上66.0%となっている。次いで、「山口県内」は、平地16.8%、斜面地下20.0%、斜面地上17.5%、「新地地区」は、平地14.0%、斜面地下21.0%、斜面地上16.5%、「福岡県内」は平地12.1%、斜面地下10.0%、斜面地上13.4%となっている。友人の地理的な散らばりは、立地とは関係なく、「旧下関市内」を中心として、「山口県内」から「福岡県」に至る広範囲であることが分かる。

表 2.14 近隣以外の友人の住所

	新地地区	旧下関市内	平成合併前 下関市内	山口県内	中国地方	福岡県	その他	合計
平地	15 14.0%	74 69.2%	14 13.1%	18 16.8%	5 4.7%	13 12.1%	6 5.6%	107 100.0%
(斜面地下)	21 21.0%	57 57.0%	6 6.0%	20 20.0%	4 4.0%	10 10.0%	5 5.0%	100 100.0%
(斜面地上)	16 16.5%	64 66.0%	14 14.4%	17 17.5%	3 3.1%	13 13.4%	6 6.2%	97 100.0%
実数	52	195	34	55	12	36	17	304
百分率	17.1%	64.1%	11.2%	18.1%	3.9%	11.8%	5.6%	100.0%

表 2.15 は、近隣以外の友人が回答者宅を訪問する頻度を示している。全体で見ると、「ほとんど家に来ない」が最も多くて 52.4%、次いで「季節に 1 回程度」10.3%、「月に 1 回程度」10.0%、「お盆や正月に家に来る」6.9%となっている。半数強において、友人の訪問がほとんどないという結果であり、交流は非常に少ないといえよう。

立地別に見ても、友人との交流は低調である。「ほとんど家に来ない」の割合は、平地では 64.1% に達しており、斜面地下 49.5%、斜面地上 42.2% であることが分かる。次いで割合が比較的高いものを見ると、「月に 1 回程度」が平地 11.7%、斜面地下 4.1%、斜面地上 14.4%、「季節に 1 回程度」は平地 6.8%、斜面地下 13.4%、斜面地上 11.1% などとなっている。「頻繁な訪問」(週 1 回以上)の割合で比較すると、斜面地下が最も高く 16.5%、斜面地上が 8.9%、平地が 6.8% であり、友人の訪問は極めて少ない。

表 2.15 近隣以外の友人がお宅を訪問する頻度 (1)

	ほぼ毎日、家 に来る	週に 2、3 回程 度、家に来る	週に 1 回程 度、家に来る	月に 2 回程 度、家に来る	月に 1 回程 度、家に来る	2ヶ月に 1 回程 度、家に来る
平地	1 1.0%	2 1.9%	4 3.9%	2 1.9%	12 11.7%	4 3.9%
(斜面地下)	0 0.0%	8 8.2%	8 8.2%	4 4.1%	4 4.1%	6 6.2%
(斜面地上)	0 0.0%	3 3.3%	5 5.6%	3 3.3%	13 14.4%	6 6.7%
全体	1 0.3%	13 4.5%	17 5.9%	9 3.1%	29 10.0%	16 5.5%

表 2.15 近隣以外の友人がお宅を訪問する頻度（2）

	季節に1回程度、家に来る	お盆や正月に家に来る	ほとんど家に来ない	その他	合計
平地	7 6.8%	3 2.9%	66 64.1%	2 1.9%	103 100.0%
(斜面地下)	13 13.4%	5 5.2%	48 49.5%	1 1.0%	97 100.0%
(斜面地上)	10 11.1%	12 13.3%	38 42.2%	0 0.0%	90 100.0%
全体	30 10.3%	20 6.9%	152 52.4%	3 1.0%	290 100.0%

表 2. 16 は、近隣以外の友人が回答者宅を訪問するときに、一緒に行くことや手伝ってくれることの内容を示している。全体で見ると、1人あたりの回答数は1.39個であり、割合が高い順に、「茶飲み」話 43.4%、「食事・飲酒」37.5%、「おすそわけ・おみやげ」17.4%、「買い物」12.2%となっている。友人との交流は、生活上の有益性を高めるものや機能的な役割ではなく、もっぱら親睦のためのもの、あるいは儀礼的なものであるといえよう。

表 2.16 地区外の友人の訪問時の活動（MA）

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・点検	通勤・通所の介助	おすそわけ・おみやげ
平地	42 39.3%	41 38.3%	9 8.4%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%	12 11.2%
(斜面地下)	32 32.0%	45 45.0%	16 16.0%	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	18 18.0%
(斜面地上)	40 41.2%	46 47.4%	12 12.4%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	23 23.7%
全体	114 37.5%	132 43.4%	37 12.2%	3 1.0%	0 0.0%	2 0.7%	53 17.4%
	親戚・他の友人の訪問	相談ごと	娯楽やドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
平地	2 1.9%	7 6.5%	8 7.5%	8 7.5%	0 0.0%	5 4.7%	107 100.0%
(斜面地下)	1 1.0%	9 9.0%	9 9.0%	6 6.0%	2 2.0%	4 4.0%	100 100.0%
(斜面地上)	1 1.0%	2 2.1%	6 6.2%	8 8.2%	2 2.1%	2 2.1%	97 100.0%
全体	4 1.3%	18 5.9%	23 7.6%	22 7.2%	4 1.3%	11 3.6%	304 100.0%

立地別に見ると、回答数の平均は、平地 1.27、斜面地下 1.44、斜面地上 1.47 である。割合の多いものを見ると、平地では「食事・飲酒」39.3%、「茶飲み話」38.3%、「おすそわけ・おみやげ」

11.2%、「買い物」8.4%であり、斜面地下では「茶飲み話」45.0%、「食事・飲酒」32.0%、「おすそわけ・おみやげ」18.0%、「買い物」16.0%の順、斜面地上では「茶のみ話」47.4%、「食事・飲酒」41.2%、「おすそわけ・おみやげ」23.7%、「買い物」12.4%となっている。平地に比較すると、斜面地のほうが交流は頻繁であることが分かるが、内容は全体で見たものと同じく親睦・儀礼的なものであることが見て取れる。

表2. 17は、近隣以外の友人に会っている頻度を示したものである。全体で見ると、割合が高い順に、「ほとんど会っていない」21.2%、「季節に1回程度」15.8%、「月に1回程度」14.0%、「週に1回程度」11.3%、「週に2,3回程度」9.2%、「月に2回程度」8.2%となっている。「頻繁な交流（週に1回以上会う）の割合は25.7%となり、「ほとんど会っていない」（21.2%）との二極分化がここにも垣間見られる。

表2.17 近隣以外の友人との接触頻度

	ほぼ毎日、家に来る	週に2,3回程度、家に来る	週に1回程度、家に来る	月に2回程度、家に来る	月に1回程度、家に来る	2ヶ月に1回程度、家に来る
平地	3 2.9%	7 6.8%	10 9.7%	11 10.7%	18 17.5%	2 1.9%
(斜面地下)	8 8.2%	12 12.4%	9 9.3%	7 7.2%	11 11.3%	4 4.1%
(斜面地上)	4 4.3%	8 8.7%	14 15.2%	6 6.5%	12 13.0%	9 9.8%
実数	15	27	33	24	41	15
百分率	5.1%	9.2%	11.3%	8.2%	14.0%	5.1%
	季節に1回程度、家に来る	お盆や正月に家に来る	ほとんど会っていない	その他	合計	
平地	15 14.6%	6 5.8%	29 28.2%	2 1.9%	103 100.0%	
(斜面地下)	16 16.5%	6 6.2%	20 20.6%	4 4.1%	97 100.0%	
(斜面地上)	15 16.3%	9 9.8%	13 14.1%	2 2.2%	92 100.0%	
実数	46	21	62	8	292	
百分率	15.8%	7.2%	21.2%	2.7%	100.0%	

立地別に見ると、平地では「ほとんど会っていない」が28.2%にも達しており、「次いで月に1回程度」17.5%、「季節に1回程度」14.6%、「月に2回程度」10.7%、「週に1回程度」9.7%となっている。斜面地下においても、割合が最も高いのは、「ほとんど会っていない」20.6%であり、次いで「季節に1回程度」16.5%、「週に2,3回」12.4%、「週に1回程度」9.3%の順である。斜面地上のみ、最も多いのは、「季節に1回程度」16.3%、次いで「週に1回程度」15.2%、「ほとんど会っていない」14.1%、「2カ月に1回程度会う」「お盆や正月に会う」が9.8%、「週に2,3回会う」

8.7%となっている。立地で比較すると、友人と会う頻度は斜面地上が最も高く、平地が最も低調であることが分かる。「頻繁な交流」（週に1回以上会う）で見ると、平地19.4%、斜面地下29.9%、斜面地上28.3%であり、ここでも友人との交流は平地で少ないことが見て取れる。

表2. 18は、近隣以外の友人に会ったときに一緒に行くことや手伝ってくれることの内容を示したものである。全体で見ると、1人あたりの回答数は1.65個であり、割合が高い順に、「食事・飲酒」54.3%、「茶飲み話」47.0%、「買い物」15.8%、「おすそわけ・おみやげ」12.2%、「娯楽やドライブ」10.9%となっている。

立地別にみると、回答数の平均は平地1.62、斜面地下1.65、斜面地上1.68となっている。割合が高いものについて、内容を見よう。平地では、「食事・飲酒」62.6%、「茶飲み話」43.0%、「買い物」15.9%、「娯楽やドライブ」11.2%、「おすそわけ・おみやげ」8.4%となっている。斜面地下では、「茶飲み話」53.0%、「食事・飲酒」43.0%、「買い物」19.0%、「おすそわけ・おみやげ」13.0%、「娯楽やドライブ」10.0%となっている。斜面地上では、「食事・飲酒」56.7%、「茶飲み話」45.4%、「おすそわけ・おみやげ」15.5%、「趣味・教養」13.4%、「買い物」12.4%、「娯楽やドライブ」11.3%の順となっている。

表 2.18 地区外の友人と会った時の活動 (MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	おすそわけ・ おみやげ
平地	67 62.6%	46 43.0%	17 15.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 8.4%
(斜面地下)	43 43.0%	53 53.0%	19 19.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.0%	13 13.0%
(斜面地上)	55 56.7%	44 45.4%	12 12.4%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 15.5%
全 体	165 54.3%	143 47.0%	48 15.8%	1 0.3%	0 0.0%	2 0.7%	37 12.2%
	親戚・他の友 人の訪問	相談ごと	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
平地	1 0.9%	7 6.5%	12 11.2%	7 6.5%	5 4.7%	3 2.8%	107 100.0%
(斜面地下)	3 3.0%	9 9.0%	10 10.0%	9 9.0%	3 3.0%	1 1.0%	100 100.0%
(斜面地上)	1 1.0%	6 6.2%	11 11.3%	13 13.4%	5 5.2%	0 0.0%	97 100.0%
全 体	5 1.6%	22 7.2%	33 10.9%	29 9.5%	13 4.3%	4 1.3%	304 100.0%

表2. 19は、近隣以外の友人と連絡を取り合う頻度を示したものである（電話や手紙、電子メール等での連絡）。全体で見ると、「月に1回以上」28.1%、「週に1回以上」24.9%、次いで「ほとんど連絡を取り合わない」15.1%となっている。連絡を取り合う頻度は、「月1回」と「週に1回」のそれぞれが3分の1弱ずつという分布になっており、この傾向は立地別に見ても同様である。

立地別にみると、平地では「月に1回以上」28.6%、「週に1回以上」28.6%、斜面地下では「月に1回以上」28.1%、「週に1回以上」24.0%、斜面地上では「月に1回以上」27.5%、「週に1回以上」22.0%となっている。

表 2.19 近隣以外の友人との通信頻度

	ほぼ毎日	週に1回以上	月に1回以上	半年に 1回以上	年に1回程度	ほとんど連絡を 取り合わない	合 計
平地	6 6.1%	28 28.6%	28 28.6%	9 9.2%	11 11.2%	16 16.3%	98 100.0%
(斜面地下)	7 7.3%	23 24.0%	27 28.1%	10 10.4%	12 12.5%	17 17.7%	96 100.0%
(斜面地上)	8 8.8%	20 22.0%	25 27.5%	20 22.0%	8 8.8%	10 11.0%	91 100.0%
全 体	21 7.4%	71 24.9%	80 28.1%	39 13.7%	31 10.9%	43 15.1%	285 100.0%

(5) 地域活動団体への参加について

表2. 20は、地域活動団体への参加率について示したものである。全体で見ると、1人あたりの平均は0.61であり、団体参加は極めて低調である。最も参加率が高いのは「自治会」の31.3%、次いで「PTA」4.9%、「その他」3.6%、「老人クラブ」3.3%となっている。

立地別に見ても、最も参加率が高いのは「自治会」であり、平地31.8%、斜面地下36.0%、斜面地上25.8%である。それに次いで、平地では「PTA」9.3%、斜面地下では「老人クラブ」6.0%、斜面地上では「檀家・氏子組織」5.2%となっている。各地区とも団体参加は活発であるとはいえないが、地区住民の人口・年齢構成を反映した参加状況であるといえよう。

表 2.20 地域活動団体への参加（1）

	自治会	老人クラブ	婦人会・婦人 防火クラブ	PTA	青少年育成協 議会	消防団	文化・教養サ ークル
平地	34 31.8%	2 1.9%	0 0.0%	10 9.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.9%
斜面地下	36 36.0%	6 6.0%	1 1.0%	2 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.0%
斜面地上	25 25.8%	2 2.1%	2 2.1%	3 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.1%
合計	95 31.3%	10 3.3%	3 1.0%	15 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	8 2.6%

表 2.20 地域活動団体への参加（2）

	スポーツ団体	学校の同窓会	職場のOB会	社会福祉協議会	福祉ボランティア団体	美化・環境・リサイクルのボランティア団体	青年会
平地	2 1.9%	3 2.8%	2 1.9%	2 1.9%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%
斜面地下	4 4.0%	1 1.0%	1 1.0%	0 0.0%	3 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
斜面地上	3 3.1%	4 4.1%	3 3.1%	0 0.0%	2 2.1%	2 2.1%	1 1.0%
合計	9 3.0%	8 2.6%	6 2.0%	2 0.7%	6 2.0%	2 0.7%	1 0.3%
	交通安全団体	防犯組織	まちづくり団体	檀家・氏子組織	その他	合計	
平地	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.9%	2 1.9%	107 100.0%	
斜面地下	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	2 2.0%	4 4.0%	100 100.0%	
斜面地上	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	5 5.2%	5 5.2%	97 100.0%	
合計	1 0.3%	1 0.3%	1 0.3%	9 3.0%	11 3.6%	304 100.0%	

II 北九州市八幡東区丸山地区

第II部は、北九州市八幡東区丸山の住民を対象に実施した調査票調査の結果を二分して、第3節で日常生活と生活環境、第4節で社会関係の内容を分析する。なお、調査対象地を地形によって町丁単位で「平地」（西丸山1丁目6、2～5丁目、東丸山2～4、5～7丁目）、「斜面地下」（西丸山9、13～16丁目、東丸山9、14、20丁目）、「斜面地上」（西丸山10～12、17～18丁目）という3地区に区分している。以下、この地域区分と各項目とのクロス集計を検討することによって、住民の生活と社会関係に関する回答が地区によってどのように異なるのかを分析していく。

3. 住民生活

(1) 回答者の属性

① 本人の年齢、性別、職業の有無、世帯収入

・回答者の年齢

回答者全体では、10歳ごとの年齢分布で多い順にあげれば、「70-79歳」26.0%、「60-69歳」22.8%、「80-89歳」15.3%となる。平均年齢は63.9歳であり、丸山の高齢化が著しく進んでいることが窺われる。

表3.1で地区ごとにみると、斜面地下が、いくぶん高齢層が多いと思われる。ちなみに平均年齢を計算してみると、平地62.7歳、斜面地下66.0歳、斜面地上63.5歳である。

表 3.1 年齢 (10 歳区分)

		20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳	80-89 歳	90-99 歳	合計
平地	度数	8	6	8	14	20	27	16	-	99
	%	8.1%	6.1%	8.1%	14.1%	20.2%	27.3%	16.2%	-	100%
斜面地下	度数	2	5	2	7	16	20	9	2	63
	%	3.2%	7.9%	3.2%	11.1%	25.4%	31.7%	14.3%	3.2%	100%
斜面地上	度数	2	2	2	2	10	7	5	-	30
	%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%	33.3%	23.3%	16.7%	-	100%
合計	度数	12	13	12	23	46	54	30	2	192
	%	6.3%	6.8%	6.3%	12.0%	24.0%	28.1%	15.6%	1.0%	100%

・回答者の性別

回答者全体では、男性 46.1%、女性 53.9%といくぶん女性の比率が高い。

表 3. 2 で地区ごとにみると、平地 48.5%、斜面地下 57.8%、斜面地上 63.3%と、標高が高くなるにつれ女性比率が高くなっていることが分かる。

表 3.2 性別

		男性	女性	合計
平地	度数	51	48	99
	%	51.5%	48.5%	100%
斜面地下	度数	27	37	64
	%	42.2%	57.8%	100%
斜面地上	度数	11	19	30
	%	36.7%	63.3%	100%
合計	度数	89	104	193
	%	46.1%	53.9%	100%

・回答者の職業従事状況

表 3.3 就業状況

		有職	無職	合計
平地	度数	42	54	96
	%	43.8%	56.3%	100%
斜面地下	度数	24	37	61
	%	39.3%	60.7%	100%
斜面地上	度数	9	18	27
	%	33.3%	66.7%	100%
合計	度数	75	109	184
	%	40.8%	59.2%	100%

回答者全体では、有職 41.7%、無職 53.7%である。

表 3. 3 で無職の比率を地区ごとにみると、平地 56.3%、斜面地下 60.7%、斜面地上 66.7%と高くなる。女性比率との関連が考えられる。

・回答者の主な収入

回答者全体では、「給与・自営等の収入のみ」35.9%、「年金のみ」46.6%、「給与等と年金」12.1%、「その他」5.3%となっている。高齢層が多い地域状況を反映している。

表 3. 4 で地区ごとにみると、「年金のみ」が、斜面地下で 57.4%にも上っていることが分かる。また、斜面地上では、年金を受給しながら働いている層が 1/4 を占めている。

表 3.4 収入

		給与・自営等の 収入のみ	年金のみ	給与等と年金	その他	合計
平地	度数	36	43	9	8	96
	%	37.5%	44.8%	9.4%	8.3%	100%
斜面地下	度数	16	35	7	3	61
	%	26.2%	57.4%	11.5%	4.9%	100%
斜面地上	度数	6	14	7	-	27
	%	22.2%	51.9%	25.9%	-	100%
合計	度数	58	92	23	11	184
	%	31.5%	50.0%	12.5%	6.0%	100%

・回答者の職業

表 3.5 職業

		度数	%	有効%
有効	専門・管理・経営	14	6.4	15.4
	事務	8	3.7	8.8
	生産労働	10	4.6	11.0
	販売・サービス	11	5.0	12.1
	自営業	17	7.8	18.7
	農林漁業	1	.5	1.1
	パート・アルバイト	21	9.6	23.1
	その他	6	2.8	6.6
	無回答	3	1.4	3.3
	合計	91	41.7	100.0
欠損値	非該当	127	58.3	
合計		218	100.0	

表3. 5に、有職者全体について職業構成を示した。もっとも多いのは、「パート・アルバイト」23.1%、ついで「自営業」18.7%、「専門・管理・経営」15.4%、「販売・サービス」12.1%、「生産労働」11.0%などとなっている。

表3. 6で地区ごとの違いをみてみる。斜面地上は回答者が少ないので、平地と斜面地下を比較すると、平地では「専門・管理・経営」が相対的に多く、斜面地下では「事務」「販売・サービス」が相対的に多いことが分かる。

表3.6 職業

		専門・管理・ 経営	事務	生産労働	販売・ サービス	自営業
平地	度数	10	1	5	3	10
	%	23.8%	2.4%	11.9%	7.1%	23.8%
斜面地下	度数	2	3	3	4	6
	%	8.3%	12.5%	12.5%	16.7%	25.0%
斜面地上	度数	1	2	-	-	1
	%	11.1%	22.2%	-	-	11.1%
合計	度数	13	6	8	7	17
	%	17.3%	8.0%	10.7%	9.3%	22.7%
		農林漁業	パート・アル バイト	その他	無回答	合計
平地	度数	-	8	3	2	42
	%	-	19.0%	7.1%	4.8%	100%
斜面地下	度数	1	5	-	-	24
	%	4.2%	20.8%	-	-	100%
斜面地上	度数	-	3	1	1	9
	%	-	33.3%	11.1%	11.1%	100%
合計	度数	1	16	4	3	75
	%	1.3%	21.3%	5.3%	4.0%	100%

②居者のデータから見た世帯類型

表3. 7は、回答者全体の世帯類型を示したものである。もっとも多いのは「夫婦のみ（どちらかが65歳以上）」で27.0%、ついで「夫婦と未婚の子（ひとり親世帯を含む）」25.6%、「一人暮らし（65歳以上）」13.3%などとなる。三世代世帯は9.0%であり、多くの高齢者が単身または夫婦のみで生活していると推測される。

高齢者のいる世帯に着目して、表3. 8をみると、斜面地下では「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦のみ（どちらかが65歳以上）」を合わせると過半数になることが分かる。ちなみに、「夫婦と未婚の子（ひとり親世帯を含む）」が相対的に多いのは平地で、29.5%となっている。

表 3.7 世帯類型

	度数	%	有効%
有効 一人暮らし (64 歳以下)	9	4.1	4.3
一人暮らし (65 歳以上)	28	12.8	13.3
夫婦のみ (ともに 64 歳以下)	14	6.4	6.6
夫婦のみ (どちらかが 65 歳以上)	57	26.1	27.0
夫婦と親の同居 (夫婦ともに 64 歳以下)	6	2.8	2.8
夫婦と親の同居 (夫婦どちらかが 65 歳以上)	5	2.3	2.4
夫婦と未婚の子 (ひとり親世帯を含む)	54	24.8	25.6
三世帯同居	19	8.7	9.0
その他	19	8.7	9.0
合計	211	96.8	100.0
欠損値 無回答	7	3.2	
合計	218	100.0	

表 3.8 世帯類型

	一人暮らし (64 歳以下)	一人暮らし (65 歳以上)	夫婦のみ(ともに 64 歳以下)	夫婦のみ(どちら かが 65 歳以上)	夫婦と親の同居 (夫婦ともに 64 歳以下)
平地	度数 2 % 2.1%	13 13.7%	5 5.3%	27 28.4%	4 4.2%
斜面地下	2 3.1%	14 21.9%	5 7.8%	19 29.7%	- -
斜面地上	2 6.9%	1 3.4%	2 6.9%	6 20.7%	2 6.9%
合計	6 3.2%	28 14.9%	12 6.4%	52 27.7%	6 3.2%
	夫婦と親の同居 (夫婦どちらか が 65 歳以上)	夫婦と未婚の子 (ひとり親世帯 を含む)	三世帯同居	その他	合計
平地	1 1.1%	28 29.5%	8 8.4%	7 7.4%	95 100%
斜面地下	2 3.1%	14 21.9%	3 4.7%	5 7.8%	64 100%
斜面地上	1 3.4%	5 17.2%	6 20.7%	4 13.8%	29 100%
合計	4 2.1%	47 25.0%	17 9.0%	16 8.5%	188 100%

③ 別居の子どもに関する状況

・別居の子どもに関する状況

別居者がいる人の比率は、全体では69.1%である。この比率は地区ごとでは、平地64.8%、斜面地下72.7%、斜面地上77.3%である。別居者がいる人について、平均別居子数を計算してみると、全体1.76人、平地1.68人、斜面地下1.76人、斜面地上2人となる。

表3.9は、地区ごとの別居子数の分布を示したものである。斜面地上では、3人いるという回答者が約1/3であり、他の2地区に比べ高い比率を示す。

表3.9 別居子人数

		1	2	3	4	合計
平地	度数	24	27	4	1	56
	%	42.9%	48.2%	7.1%	1.8%	100%
斜面地下	度数	18	14	5	2	39
	%	46.2%	35.9%	12.8%	5.1%	100%
斜面地上	度数	6	5	6	-	17
	%	35.3%	29.4%	35.3%	-	100%
合計	度数	48	46	15	3	112
	%	42.9%	41.1%	13.4%	2.7%	100%

・別居の子どもとの同居予定の有無

では、別居者がいる人で今後同居予定がある回答者はどれくらいいるだろうか。全体では、「予定あり」は7.2%に過ぎない。「予定なし」が53.6%と半数を越える。

表3.10で地区ごとの違いをみると、斜面地下では「予定あり」という回答者はいなかった。また、平地では相対的に若い層が多いためか、「分からない」が45.5%と多い。

表3.10 別居子同居予定

		予定あり	予定なし	分からない	合計
平地	度数	4	14	15	33
	%	12.1%	42.4%	45.5%	100%
斜面地下	度数	-	17	8	25
	%	-	68.0%	32.0%	100%
斜面地上	度数	1	4	3	8
	%	12.5%	50.0%	37.5%	100%
合計	度数	5	35	26	66
	%	7.6%	53.0%	39.4%	100%

④ 住宅の形態

・住宅の所有形態

回答者全体についてみると、住宅の所有形態は、「土地・建物ともに所有」が71.1%と大半を占め

ている。「借家」は17.6%である。

表3. 11に、地区ごとの集計を示した。これによれば、地区によってそれほど差はないことが分かる。

表3.11 住宅所有

		土地・建物と もに所有	借地で建物 を所有	借家である	その他	合計
平地	度数	69	7	14	4	94
	%	73.4%	7.4%	14.9%	4.3%	100%
斜面地下	度数	44	7	10	-	61
	%	72.1%	11.5%	16.4%	-	100%
斜面地上	度数	19	2	4	2	27
	%	70.4%	7.4%	14.8%	7.4%	100%
合計	度数	132	16	28	6	182
	%	72.5%	8.8%	15.4%	3.3%	100%

・住宅の形態

全体では、「一戸建て」73.2%、「集合住宅」20.2%、「棟続きの住宅」6.6%となっている。

表3. 12に示すように、地区ごとには若干の違いがある。「集合住宅」の比率が相対的に高いのは平地で約3割を占めている。「棟続きの住宅」の比率が相対的に高いのは斜面地下で1割強となっている。

表3.12 住宅形態

		一戸建て	棟続きの住宅	集合住宅	合計
平地	度数	62	4	27	93
	%	66.7%	4.3%	29.0%	100%
斜面地下	度数	47	7	3	57
	%	82.5%	12.3%	5.3%	100%
斜面地上	度数	21	1	3	25
	%	84.0%	4.0%	12.0%	100%
合計	度数	130	12	33	175
	%	74.3%	6.9%	18.9%	100%

・本人の健康状態

回答者全体では、「健康」とする人が多く61.0%である。「健康状態問題」は12.7%である。

表3. 13に示すように、地区ごとの違いはほとんどない。

表 3.13 健康状態

		健康	健康不安	健康状態問題	その他	合計
平地	度数	59	23	12	4	98
	%	60.2%	23.5%	12.2%	4.1%	100%
斜面地下	度数	35	17	8	2	62
	%	56.5%	27.4%	12.9%	3.2%	100%
斜面地上	度数	19	6	4	-	29
	%	65.5%	20.7%	13.8%	-	100%
合計	度数	113	46	24	6	189
	%	59.8%	24.3%	12.7%	3.2%	100%

(2) 外出時の移動とその負担感

①日常的な外出時の移動方法

表 3. 14 に示すように、地区ごとの違いはない。

全体では、「自家用車」50.7%、「徒歩」31.3%と、外出時の主な移動方法は2分している。「自転車」の利用は2.3%に過ぎない。

表 3.14 日常的な外出方法

		徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	その他	合計
平地	度数	32	2	0	50	8	5	3	100
	%	32.0%	2.0%	0.0%	50.0%	8.0%	5.0%	3.0%	100%
斜面地下	度数	20	2	1	29	2	6	3	63
	%	31.7%	3.2%	1.6%	46.0%	3.2%	9.5%	4.8%	100%
斜面地上	度数	9	1	-	16	1	2	1	30
	%	30.0%	3.3%	-	53.3%	3.3%	6.7%	3.3%	100%
合計	度数	61	5	1	95	11	13	7	193
	%	31.6%	2.6%	0.5%	49.2%	5.7%	6.7%	3.6%	100%

②坂道や階段の上り下りの負担感

表 3.15 坂道負担感

	日常	悪天候	荷物	病気
上り下りとも負担	36.3	54.1	50.2	56.9
上りが負担	24.1	11.7	22.2	11.4
下りが負担	3.8	2.0	.5	1.0
負担感がない	26.9	19.5	14.8	11.4
上り下りしない	9.0	12.7	12.3	19.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表3. 15は、坂道の上下りに関する負担感を、4つの場合についてそれぞれ尋ねた結果をまとめたものである。日常的には、「負担感がない」という人は26.9%で、7割以上がなんらかの負担を感じていることが示された。さらに、「負担感がない」人の割合を条件別にみれば、荷物を持っている場合14.8%、悪天候の場合12.7%、病気の場合11.4%となり、坂道の負担の大きさが分かる。

表3. 16はこれを地区別に示したものである。地区ごとの違いは明確ではないが、斜面地上では、「上下りしない」という人の比率はどの項目でも他の2地区に比べ低くなっている。悪い状況でも上下りしない訳にはいかない状況を示している。

表3.16 坂道負担感

		上下り とも負担	上りが 負担	下りが 負担	負担感 ない	上下り しない	合計
日常	平地	度数 31 %	26 26.8%	3 3.1%	27 27.8%	10 10.3%	97 100%
	斜面地下	度数 29 %	14 21.9%	1 1.6%	15 23.4%	5 7.8%	64 100%
	斜面地上	度数 10 %	5 17.9%	3 10.7%	10 35.7%	-	28 100%
悪天候	平地	度数 49 %	12 12.6%	2 2.1%	20 21.1%	12 12.6%	95 100%
	斜面地下	度数 35 %	5 8.2%	1 1.6%	11 18.0%	9 14.8%	61 100%
	斜面地上	度数 15 %	3 11.1%	1 3.7%	8 29.6%	-	27 100%
荷物	平地	度数 44 %	23 24.7%	-	16 17.2%	10 10.8%	93 100%
	斜面地下	度数 34 %	10 16.1%	-	9 14.5%	9 14.5%	62 100%
	斜面地上	度数 13 %	6 24.0%	1 4.0%	4 16.0%	1 4.0%	25 100%
病気	平地	度数 49 %	12 13.0%	-	13 14.1%	18 19.6%	92 100%
	斜面地下	度数 38 %	4 6.6%	-	6 9.8%	13 21.3%	61 100%
	斜面地上	度数 16 %	3 11.1%	2 7.4%	4 14.8%	2 7.4%	27 100%

(3) 日常サービスの利便性

本調査では、6種類のサービスに関して、世帯で利用する際の利便性を、現在と10年前の両方について尋ねてみた。

①現在

表3. 17は、現在の利便性に関して、全回答者の状況を示したものである。「便利」とする比率が高い順にあげると、「ごみ出し」79.9%、「金融機関」73.0%、「病院診療所」62.6%、「食料品購入」31.8%となる（「デイサービス」「保育園幼稚園」は利用率が低いのでここでは除外する）。「食料品購入」に関しては「不便」だという人が44.5%と高い割合である。生活の基盤という点からは、深刻な状況だと言えよう。

表3.17 利便性（現在）

	食料品 購入	病院 診療所	デイ サービス	金融機関	保育所 幼稚園	ごみ出し
便利	31.8	62.6	13.3	73.0	23.8	79.9
不便	44.5	17.5	6.7	10.2	8.3	11.7
どちらともいえない	23.7	19.9	4.1	16.7	8.8	8.4
利用していない	-	-	75.9	-	59.1	-
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表3. 18は、現在の利便性に関して、地区別にみたものである。標高の高い地区が利便性が低いとは限らない。例えば、「食料品購入」をみると、「便利」とする比率は、平地20.4%、斜面地下38.7%、斜面地上59.3%となっている。また、「病院診療所」については、「便利」とする比率は、斜面地下で55.6%だが、斜面地上では73.1%となっている。

表3.18 利便性（現在）（1）

		便利	不便	どちらとも いえない	利用してい ない	合計
食料品購入	平地	度数 20	50	28	-	98
		% 20.4%	51.0%	28.6%	-	100%
	斜面地下	度数 24	27	11	-	62
	% 38.7%	43.5%	17.7%	-	100%	
	斜面地上	度数 16	6	5	-	27
	% 59.3%	22.2%	18.5%	-	100%	
病院診療所	平地	度数 66	13	19	-	98
		% 67.3%	13.3%	19.4%	-	100%
	斜面地下	度数 35	16	12	-	63
	% 55.6%	25.4%	19.0%	-	100%	
	斜面地上	度数 19	4	3	-	26
	% 73.1%	15.4%	11.5%	-	100%	

表 3.18 利便性（現在）（2）

デイサービス	平地	度数 %	13 13.5%	4 4.2%	5 5.2%	74 77.1%	96 100%
	斜面地下	度数 %	8 14.5%	4 7.3%	2 3.6%	41 74.5%	55 100%
	斜面地上	度数 %	2 9.1%	1 4.5%	0 -	19 86.4%	22 100%
金融機関	平地	度数 %	79 79.0%	8 8.0%	13 13.0%	- -	100 100%
	斜面地下	度数 %	42 65.6%	10 15.6%	12 18.8%	- -	64 100%
	斜面地上	度数 %	22 81.5%	1 3.7%	4 14.8%	- -	27 100%
保育所幼稚園	平地	度数 %	20 22.5%	6 6.7%	10 11.2%	53 59.6%	89 100%
	斜面地下	度数 %	11 21.2%	4 7.7%	4 7.7%	33 63.5%	52 100%
	斜面地上	度数 %	6 31.6%	3 15.8%	- -	10 52.6%	19 100%
ごみ出し	平地	度数 %	86 86.0%	7 7.0%	7 7.0%	- -	100 100%
	斜面地下	度数 %	46 71.9%	13 20.3%	5 7.8%	- -	64 100%
	斜面地上	度数 %	22 84.6%	4 15.4%	- -	- -	26 100%

②10年前

表 3. 19 は、10 年前の利便性に関して、全回答者の状況を示したものである。「便利であった」とする比率が高い順にあげると、「ごみ出し」67.7%、「金融機関」65.4%、「食料品購入」62.1%、「病院診療所」56.8%となる。先ほどの表 3. 17 と比較すると、この10年間で、「食料品購入」の利便性に大きな低下があったと言えよう。

表 3.19 利便性（10年前）

	食料品 購入	病院 診療所	デイ サービス	金融機関	保育所 幼稚園	ごみ出し
便利	62.1	56.8	6.1	65.4	26.5	67.7
不便	10.8	13.2	8.6	10.1	7.4	13.4
どちらともいえない	17.4	18.4	9.2	16.0	12.3	10.8
利用していない	9.7	11.6	76.1	8.5	53.7	8.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 3.20 利便性 (10 年前)

			便利	不便	どちらとも いえない	利用してい ない	合計
食料品購入	平地	度数 %	71 73.2%	7 7.2%	16 16.5%	3 3.1%	97 100%
	斜面地下	度数 %	25 45.5%	12 21.8%	11 20.0%	7 12.7%	55 100%
	斜面地上	度数 %	14 58.3%	- -	4 16.7%	6 25.0%	24 100%
病院診療所	平地	度数 %	63 67.0%	9 9.6%	18 19.1%	4 4.3%	94 100%
	斜面地下	度数 %	25 46.3%	11 20.4%	10 18.5%	8 14.8%	54 100%
	斜面地上	度数 %	12 52.2%	2 8.7%	3 13.0%	6 26.1%	23 100%
デイサービス	平地	度数 %	5 6.2%	7 8.6%	8 9.9%	61 75.3%	81 100%
	斜面地下	度数 %	4 8.7%	3 6.5%	5 10.9%	34 73.9%	46 100%
	斜面地上	度数 %	- -	2 10.0%	- -	18 90.0%	20 100%
金融機関	平地	度数 %	73 78.5%	8 8.6%	11 11.8%	1 1.1%	93 100%
	斜面地下	度数 %	29 53.7%	8 14.8%	10 18.5%	7 13.0%	54 100%
	斜面地上	度数 %	12 54.5%	1 4.5%	3 13.6%	6 27.3%	22 100%
保育所幼稚園	平地	度数 %	25 29.8%	6 7.1%	11 13.1%	42 50.0%	84 100%
	斜面地下	度数 %	12 26.1%	3 6.5%	6 13.0%	25 54.3%	46 100%
	斜面地上	度数 %	3 17.6%	2 11.8%	- -	12 70.6%	17 100%
ごみ出し	平地	度数 %	72 78.3%	7 7.6%	11 12.0%	2 2.2%	92 100%
	斜面地下	度数 %	32 59.3%	13 24.1%	3 5.6%	6 11.1%	54 100%
	斜面地上	度数 %	14 63.6%	3 13.6%	- -	5 22.7%	22 100%

表 3.20 は、10 年前の利便性に関して、地区別にみたものである。現在の利便性と比較して大きな変化があったのは「食料品購入」である。「便利であった」とする比率は、平地 73.2%、斜面地下 45.5%、斜面地上 58.3% である。平地では、52.8 ポイントもの利便性低下である。この低下の要因は、本調査の直前に近所のスーパーが閉店したことにあると思われる。「食料品購入」以外では現

在とそれほど変化はなく、また、地区間の差異も小さい。

(4) 地域の居住環境評価と住み心地

①居住環境の快適性

本調査では、居住環境評価をプラスとマイナスの双方について尋ねた。プラス面、すなわち快適性については、13項目について、当てはまるものを複数回答してもらった。

表3.21は、その結果を地区ごとに示したものである。平地では、比率の高い順に、「商業施設等便利」59.8%、「閑静な環境」57.7%、「交通の便よい」48.5%、「眺望のよさ」34.0%、「人間関係よい」28.9%などとなっている。斜面地下では、「閑静な環境」58.6%、「眺望のよさ」48.3%、「商業施設等便利」36.2%、「空気きれい」31.0%、「市の中心部」29.3%などとなる。斜面地上では、「眺望のよさ」と「閑静な環境」が共に57.1%、「空気きれい」35.7%、「商業施設等便利」28.6%、「交通の便よい」25.0%などとなっている。平地では利便性が高いことが評価されており、斜面地では環境の良さが評価されていることが分かる。

表3.21 生活環境評価プラス（複数回答）

	平地	斜面地下	斜面地上
眺望のよさ	34.0%	48.3%	57.1%
閑静な環境	57.7%	58.6%	57.1%
空気きれい	26.8%	31.0%	35.7%
高台である	10.3%	15.5%	21.4%
市の中心部	20.6%	29.3%	10.7%
商業施設等便利	59.8%	36.2%	28.6%
交通の便よい	48.5%	27.6%	25.0%
職場に近い	9.3%	8.6%	14.3%
地域のことに住民熱心	6.2%	3.4%	10.7%
人間関係よい	28.9%	17.2%	21.4%
教育熱心な雰囲気	1.0%	-	3.6%
祭りやイベント盛ん	9.3%	1.7%	10.7%
その他	1.0%	1.7%	-
合計	313.4%	279.3%	296.4%

%は有効回答者数に対するもの

②地区の居住環境で不便・不安な点

住環境のマイナス面、すなわち不便や不安を感じている点については、12項目について、当てはまるものを複数回答してもらった。

表3.22は、その結果を地区ごとに示したものである。平地では、比率の高い順に、「市場・商

店街衰退」70.4%、「坂道の昇降きつい」54.1%、「住民高齢化」53.1%、「空き家・空き地増加」33.7%、「自然災害心配」31.6%などとなっている。斜面地下では、「坂道の昇降きつい」70.5%、「住民高齢化」68.9%、「市場・商店街衰退」52.5%、「自然災害心配」49.2%、「空き家・空き地増加」44.3%などとなっている。斜面地上では、「住民高齢化」69.2%、「市場・商店街衰退」65.4%、「空き家・空き地増加」53.8%、「坂道の昇降きつい」46.2%、「自然災害心配」34.6%などとなっている。不便・不安な点の上位を占める項目は、3地区で共通であるが、順番は若干異なっていることが分かる。

なお、斜面地下では、「自家用車利用困難」が34.4%と他の2地区に比べて高い比率を示していることにも注意が必要である（平地19.4%、斜面地上11.5%）。このことと、「坂道の昇降きつい」の比率の抜きん出た高さ（70.5%）は表裏の関係にあるものと考えられる。

「空き家・空き地増加」は全国各地の斜面地に共通した課題であるが、本調査で示されたことは、標高の高い地域ほど問題化しているということである。

表 3.22 生活環境評価マイナス（複数回答）

	平地	斜面地下	斜面地上
坂道の昇降きつい	54.1%	70.5%	46.2%
坂道の昇降危険	26.5%	32.8%	23.1%
自然災害心配	31.6%	49.2%	34.6%
自家用車利用困難	19.4%	34.4%	11.5%
交通事故心配	6.1%	11.5%	19.2%
タクシーやバス利用困難	8.2%	23.0%	26.9%
市場・商店街衰退	70.4%	52.5%	65.4%
住民高齢化	53.1%	68.9%	69.2%
小中学校統廃合心配	5.1%	1.6%	3.8%
子供をとりまく環境心配	6.1%	4.9%	15.4%
空き家・空き地増加	33.7%	44.3%	53.8%
その他	2.0%	3.3%	-
合計	316.3%	396.7%	369.2%

%は有効回答者数に対するもの

③住み心地のよさ

全体的にみた丸山の住み心地を4段階で答えてもらった。回答者全体では、「大変よい」10.3%、「どちらかといえばよい」65.0%、「どちらかといえばよくない」20.6%、「よくない」4.2%であった。3/4の回答者が住み心地がよいと感じているようである。

表3.23は、地区別に示したものであるが、斜面地下では、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合計すると31.7%となり、他の2地区よりも10ポイント以上高い。

表 3.23 住み心地

		大変よい	どちらかとい えばよい	どちらかとい えばよくない	よくない	合計
平地	度数	14	67	14	3	98
	%	14.3%	68.4%	14.3%	3.1%	100%
斜面地下	度数	3	40	16	4	63
	%	4.8%	63.5%	25.4%	6.3%	100%
斜面地上	度数	5	18	4	2	29
	%	17.2%	62.1%	13.8%	6.9%	100%
合計	度数	22	125	34	9	190
	%	11.6%	65.8%	17.9%	4.7%	100%

④地区の居住環境水準を高めるために取り組むべき対応

居住環境水準を高めるために行政や地域が取り組むべき対応について複数回答で答えてもらった。項目数は12である。

表 3.24 居住環境改善策（複数回答）

	平地	斜面地下	斜面地上
階段に昇降機器取り付け	25.3%	37.3%	21.7%
石段や坂道に手すり取り付け	39.6%	28.8%	13.0%
道路整備	29.7%	30.5%	17.4%
平地に集合住宅建築	14.3%	28.8%	4.3%
共同建て替え推進	4.4%	1.7%	-
防災活動活発化	26.4%	16.9%	13.0%
消防・救急車両や機器配備	29.7%	18.6%	17.4%
空き家に新しい住民を招請	29.7%	33.9%	21.7%
魅力アピールし観光名所に	2.2%	1.7%	-
助け合いのまちづくり	27.5%	22.0%	30.4%
集会施設建設	6.6%	11.9%	13.0%
その他	5.5%	5.1%	17.4%
合計	240.7%	237.3%	169.6%

%は有効回答者数に対するもの

表 3.24 は、その結果を地区別に示したものである。平地では、7項目に対して30%前後の要望が寄せられたが、高いものからいくつかあげてみると、「石段や坂道に手すり取り付け」39.6%、「消防・救急車両や機器配備」と「空き家に新しい住民を招請」「道路整備」がそれぞれ29.7%、「助け合いのまちづくり」27.5%などとなっている。斜面地下では、「階段に昇降機器取り付け」37.3%、「空き家に新しい住民を招請」33.9%、「道路整備」30.5%、「石段や坂道に手すり取り付け」と「平地に

集合住宅建築」が28.8%などとなっている。斜面地上では、これら2地区に比べて要望数が少ない。上位からあげれば、「助け合いのまちづくり」30.4%、「階段に昇降機器取り付け」と「空き家に新しい住民を招請」が共に21.7%などとなっている。なお、斜面地上の「道路整備」の要望は17.4%で、他の2地区にくらべ10ポイント以上低い。

(5) 現住所および現在の住居に住むようになった経緯・理由

①現在の住居に入居した経緯

丸山地区の形成は八幡製鉄所の創業時に始まっており、住民層も、2代目3代目のいわば土着層に加え、自身が転入してきた層からなっている。調査票では、回答者自身の居住歴を尋ねた。全体では、「この地区で生まれた」17.9%、「子供の頃転居してきた」10.4%、「成人後転居してきた」11.8%、「結婚後転居してきた」44.8%、「その他」15.1%となっている。前2者を土着層、その次の2者を転入層とすれば、土着層が2割、転入層が6割となる。

表3.25は、それを地区ごとに示したものであるが、地区間にはそれほど大きな差異はないことが分かる。

表3.25 居住歴

		この地区で 生まれた	子供の頃転 居してきた	成人後転居 してきた	結婚後転居 してきた	その他	合計
平地	度数	17	13	11	46	12	99
	%	17.2%	13.1%	11.1%	46.5%	12.1%	100%
斜面地下	度数	13	4	9	25	11	62
	%	21.0%	6.5%	14.5%	40.3%	17.7%	100%
斜面地上	度数	5	2	4	13	3	27
	%	18.5%	7.4%	14.8%	48.1%	11.1%	100%
合計	度数	35	19	24	84	26	188
	%	18.6%	10.1%	12.8%	44.7%	13.8%	100%

②現住地に居住するようになった理由

転入層と「その他」の人（以下、転入層等と記述）に、現在の地区に住むことになった理由を複数回答で尋ねた。表3.26は、その結果を地区別に示したものである。表中の比率はいずれも該当者に対するものである。平地では、「配偶者の家あった」28.9%、「手ごろな価格で住宅購入」19.7%、「便利で暮らしやすかった」17.1%などとなっている。斜面地下では、「手ごろな価格で住宅購入」27.3%、「その他」22.7%、「静かで住み心地よかった」と「配偶者の家あった」が共に15.9%などとなっている。斜面地上では、「便利で暮らしやすかった」31.6%、「自分・配偶者の仕事の都合」26.3%、「静かで住み心地よかった」と「配偶者の家あった」が共に21.1%などとなっている。先に見たように、全回答者の44.8%は結婚を機に転入してきており、「配偶者の家あった」「自分・配偶者の仕事の都合」などが理由として上位を占めるのは理解できる。

表 3.26 居住理由（複数回答）

	平地	斜面地下	斜面地上
親の仕事の都合	10.5%	6.8%	21.1%
自分・配偶者の仕事の都合	11.8%	6.8%	26.3%
親族近くにいた	9.2%	6.8%	10.5%
同郷の人近くにいた	1.3%	-	-
職場からの紹介	-	2.3%	-
手ごろな価格で住宅購入	19.7%	27.3%	5.3%
家賃・地代安かった	6.6%	6.8%	5.3%
子供の教育環境よかった	10.5%	2.3%	10.5%
便利で暮らしやすかった	17.1%	4.5%	31.6%
治安よかった	5.3%	-	15.8%
静かで住み心地よかった	15.8%	15.9%	21.1%
地域のイメージよかった	3.9%	4.5%	10.5%
配偶者の家あった	28.9%	15.9%	21.1%
その他	11.8%	22.7%	5.3%
合計	152.6%	122.7%	184.2%

%は有効回答者数に対するもの

③前住地

転入層等はどこからやってきたのだろうか。前住地をみると、「丸山地区」8.0%、「八幡東区内」36.8%、「北九州市内」27.6%などとなっており、7割ほどは近くから転入したと言えるだろう。

表 3.27 前住地

		丸山 地区	八幡 東区内	北九州 市内	福岡 県内	九州	その他	無回答	合計
平地	度数	7	30	22	9	5	2	7	82
	%	8.5%	36.6%	26.8%	11.0%	6.1%	2.4%	8.5%	100%
斜面地下	度数	3	20	13	4	4	-	5	49
	%	6.1%	40.8%	26.5%	8.2%	8.2%	-	10.2%	100%
斜面地上	度数	2	5	6	3	4	-	2	22
	%	9.1%	22.7%	27.3%	13.6%	18.2%	-	9.1%	100%
合計	度数	12	55	41	16	13	2	14	153
	%	7.8%	35.9%	26.8%	10.5%	8.5%	1.3%	9.2%	100%

表 3.27 は、前住地を地区ごとに示したものであるが、これによれば、斜面地上では、転入者等の 18.2% が福岡県以外の「九州」を前住地としており、他の 2 地区に比べいくぶん遠方からの転入が多いようである。

④居住の時期

全回答者にいつから居住しているかを尋ねた。表3.28によれば、昭和50年より前から住んでいる回答者がおよそ半分である。また、調査時までの約6年間に住み始めた回答者は12.8%であり、入れ替わりもかなりあると推測できる。

表3.28 居住年

	度数	%	有効%	累積%
有効				
第二次世界大戦前	20	9.2	9.5	9.5
昭和20年代	21	9.6	10.0	19.4
昭和30年代	24	11.0	11.4	30.8
昭和40年代	38	17.4	18.0	48.8
昭和50年代	25	11.5	11.8	60.7
昭和60年代～平成6年	38	17.4	18.0	78.7
平成7年～平成16年	18	8.3	8.5	87.2
平成17年以降	27	12.4	12.8	100.0
合計	211	96.8	100.0	
欠損値				
無回答	7	3.2		
合計	218	100.0		

表3.29は、居住時期を地区ごとに示したものである。平地では昭和60年以降に居住を開始した人の比率が41.4%であるのに対し、斜面地下では36.1%、斜面地上では25.9%と、標高が高い地区ほど流動性が低いことが分かる。

表3.29 居住年

	第二次世界大戦前	昭和20年代	昭和30年代	昭和40年代	昭和50年代	昭和60年代～平成6年	平成7年～平成16年	平成17年以降	合計
平地	度数 11	12	11	16	8	23	9	9	99
	% 11.1%	12.1%	11.1%	16.2%	8.1%	23.2%	9.1%	9.1%	100%
斜面地下	度数 4	6	8	11	10	12	4	6	61
	% 6.6%	9.8%	13.1%	18.0%	16.4%	19.7%	6.6%	9.8%	100%
斜面地上	度数 4	3	3	6	4	1	2	4	27
	% 14.8%	11.1%	11.1%	22.2%	14.8%	3.7%	7.4%	14.8%	100%
合計	度数 19	21	22	33	22	36	15	19	187
	% 10.2%	11.2%	11.8%	17.6%	11.8%	19.3%	8.0%	10.2%	100%

(6) 居住継続と転居の意向

①居住継続の意向

この調査では、居住継続の意向を、「あなたは、今後も、今のお宅で生活をつづけたいとお考えですか」と聞いている。回答者全体では、「現在の家で生活」75.1%、「丸山地区内に転居」0.9%、「八幡東区内に転居」10.6%、「八幡東区外に転居」6.9%、「その他」5.5%となっており、居住継続の意向は高いと言える。また転居するにしても、区内を希望する人が1割程度いることにも注意したい。

表3.30は、これを地区ごとに示したものである。斜面地下では、「現在の家で生活」が66.1%と他の地区に比べいくぶん低く、転居を考える人が2割を越えている。

表3.30 永住意志

		現在の家で 生活	丸山地区内 に転居	八幡東区内 に転居	八幡東区外 に転居	その他	合計
平地	度数	77	1	9	7	4	98
	%	78.6%	1.0%	9.2%	7.1%	4.1%	100%
斜面地下	度数	39	1	8	4	7	59
	%	66.1%	1.7%	13.6%	6.8%	11.9%	100%
斜面地上	度数	25	-	1	3	-	29
	%	86.2%	-	3.4%	10.3%	-	100%
合計	度数	141	2	18	14	11	186
	%	75.8%	1.1%	9.7%	7.5%	5.9%	100%

②転居の意向とその理由

転居希望者と「その他」の人に、複数回答でその理由を尋ねた。

表3.31は、その結果を地区ごとに示したものである。平地では、比率の高いものから順に、「坂道・階段上り下り大変」55.0%、「家屋老朽化」45.0%、「家の建て替え困難」40.0%などとなっている。斜面地下では、「坂道・階段上り下り大変」が75.0%と高い比率で、「身体弱ってきた」と「家屋老朽化」が共に45.0%などとなっており、斜面地の特性が転居意向の要因であることが示唆される。

表 3.31 転居希望理由（複数回答）

	平地	斜面地下	斜面地上
家屋老朽化	45.0%	45.0%	—
住宅狭い	20.0%	5.0%	—
住居設備不満	20.0%	25.0%	—
自家用車利用困難	10.0%	30.0%	—
家の建て替え困難	40.0%	25.0%	33.3%
災害不安	30.0%	40.0%	33.3%
坂道・階段上り下り大変	55.0%	75.0%	33.3%
身体弱ってきた	20.0%	50.0%	—
通勤通学不便	5.0%	10.0%	—
買い物や通院等不便	20.0%	45.0%	—
公共交通等利用困難	5.0%	20.0%	—
親族に同居勧められ	10.0%	—	—
治安や防犯不安	—	10.0%	—
その他	15.0%	—	33.3%
合計	295.0%	380.0%	133.3%

%は有効回答者数に対するもの

（7）地域の現状と将来像

地域社会のあり方について、三つの間に答えてもらった。いずれの間にも、対照的なA、Bふたつの意見を示し、どちらにより近いかで回答してもらった。

①地域の人口減少への対応

丸山地区の人口について

A 少子高齢化が進み、地域の人口が減少していくのは仕方がないことである。

B 地域の人口を維持するために、丸山地区で生まれ育った若者が戻ってきたり、新住民が転入できるように何か対策をとるべきだ。

表3.32は、地区ごとにその結果を示したものである。平地では、A意見支持、B意見支持がほぼ拮抗している。斜面地下と斜面地上では、A意見を支持する層が6割弱を占めている。斜面地の厳しい状況を反映したものと考えられる。

表 3.32 人口について

		Aに近い	どちらかとい うとAに近い	どちらかとい うとBに近い	Bに近い	合計
平地	度数	26	20	28	21	95
	%	27.4%	21.1%	29.5%	22.1%	100%
斜面地下	度数	14	18	15	9	56
	%	25.0%	32.1%	26.8%	16.1%	100%
斜面地上	度数	8	7	7	4	26
	%	30.8%	26.9%	26.9%	15.4%	100%
合計	度数	48	45	50	34	177
	%	27.1%	25.4%	28.2%	19.2%	100%

②地域における空き家増加への対応

丸山地区で空き家が増えていることについて

A 丸山地区に住みたいと希望する地区外の人たちに、空き家の情報を提供したり、あつせんをしたりするようなくみをつくるべきだ。

B 土地や地形などの条件から考えて、空き家が増えるのは仕方がないことであり、時代の流れにまかせるべきだ。

表 3.33 でみると、平地と斜面地上ではA意見支持が6割前後であるが、斜面地下ではA意見支持とB意見支持が拮抗する。

表 3.33 空き家が増えていることについて

		Aに近い	どちらかとい うとAに近い	どちらかとい うとBに近い	Bに近い	合計
平地	度数	30	26	25	14	95
	%	31.6%	27.4%	26.3%	14.7%	100%
斜面地下	度数	9	18	16	12	55
	%	16.4%	32.7%	29.1%	21.8%	100%
斜面地上	度数	7	6	8	2	23
	%	30.4%	26.1%	34.8%	8.7%	100%
合計	度数	46	50	49	28	173
	%	26.6%	28.9%	28.3%	16.2%	100%

③住みやすい地域にするための対応

住みやすい地域にするために必要なことについて

A 地域を住みやすくするためには、住民みんなが地域のことに関心を持ち、協力し合うことが大切だ。

B 地域を住みやすくするためには、地域のことをよく知っている熱心で有能な人たちにまかせておいた方がよい。

表 3.34 でみると、いずれの地区もA意見支持が大半であるが、斜面地下ではA意見支持が85.1%

と他の地区よりも10ポイント前後高い。先にみた居住環境水準を高めるために取り組むべき対応のなかで、「助け合いのまちづくり」という選択肢があったが、これを選択した回答者の比率は、斜面地下では、むしろ他地区よりも低く、ここでの結果といくぶん異なっていた（平地 27.5%、斜面地下 22.0%、斜面地上 30.4%）。

表 3.34 住みやすい地域にするために

		Aに近い	どちらかとい うとAに近い	どちらかとい うとBに近い	Bに近い	合計
平地	度数	37	32	10	14	93
	%	39.8%	34.4%	10.8%	15.1%	100%
斜面地下	度数	20	26	4	4	54
	%	37.0%	48.1%	7.4%	7.4%	100%
斜面地上	度数	8	10	5	1	24
	%	33.3%	41.7%	20.8%	4.2%	100%
合計	度数	65	68	19	19	171
	%	38.0%	39.8%	11.1%	11.1%	100%

4. 住民の社会関係

(1) 近隣住民との社会関係—近隣住民の訪問と活動内容

住民の近隣との社会関係について見ていこう。

表4. 1は、近隣住民が回答者の自宅を訪問する頻度を示したものである。ほぼ毎日 3.8%、週に2、3回 10.3%、週に1回程度 19.5%、月に2回程度 16.8%、月に1回程度 14.1%、2ヶ月に1回程度 2.2%、季節に1回程度 3.2%、お盆やお正月 0.5%、ほとんど訪問がない 28.1%、その他 1.6%であった。このうちほぼ毎日、週に2、3回、週に1回程度訪問するを合計すると、丸山地区の3割強の住民に、近隣の住民が週に1回以上訪問している状況が分かる。さらに月に2回程度、月に1回程度を加えれば、丸山地区の約3分の2の住民で近隣住民が月に1回以上訪問している状況が分かる。その一方で、3割弱の住民が近隣の住民の訪問がほとんどないと回答している。

立地別に見ると、週に1回以上の頻度で近隣住民が訪問しているという回答の合計は、平地 36.5%、斜面地 30.3（斜面地下 29.5%、斜面地上 32.2%）で、平地が斜面地を上回っている。しかし、斜面地を上下に区分した上で、頻繁な交流（ほぼ毎日、週に2、3回程度の合計）について見れば、斜面地上 21.5%、平地 17.9%、斜面地下 4.9%の順となり、斜面地上の住民の間で頻繁な訪問が行なわれていることが分かる。一方、斜面地下の場合、週に1回以上が平地と斜面地上を上回っている。月に1回以上の頻度で近隣の住民が訪問しているという回答の合計は、平地 65.6%、斜面地下 60.6%、斜面地上 68.0%で、斜面地上・平地・斜面地下の順になっている。一方、ほとんど訪問がないという回答は、平地 28.1%、斜面地下 29.5%、斜面地上 25.0%で、斜面地下・平地・斜面地上の順である。

表4. 1 近隣の訪問頻度

	ほぼ毎日、家 に来る	週に2、3回、 家に来る	週に1回程 度、家に来る	月に2回程 度、家に来る	月に1回程 度、家に来る	2ヶ月に1回程 度、家に来る
実数	7	19	36	31	26	4
百分率	3.8	10.3	19.5	16.8	14.1	2.2
平地	5 5.2	12 12.5	18 18.8	13 13.5	15 15.6	2 2.1
斜面地	2 2.2	7 7.9	18 20.2	18 20.2	11 12.4	2 2.2
(斜面地下)	1 1.6	2 3.3	15 24.6	13 21.3	6 9.8	2 3.3
(斜面地上)	1 3.6	5 17.9	3 10.7	5 17.9	5 17.9	- -
	季節に1回程 度、家に来る	お盆や正月に 家に来る	ほとんど家に 来ない	その他	合計	
実数	6	1	52	3	185	
百分率	3.2	0.5	28.1	1.6	100.0	
平地	3 3.1	- -	27 28.1	1 1.0	96 100.0	
斜面地	3 3.4	1 1.1	25 28.1	2 2.2	89 100.0	
(斜面地下)	3 4.9	- -	18 29.5	1 1.6	61 100.0	
(斜面地上)	- -	1 3.6	7 25.0	1 3.6	28 100.0	

表4. 2は、近隣住民が訪問した時の活動内容である。複数回答で、一人平均1つの回答があった。回答内容を整理すれば、近隣の住民との交流・楽しみ（おすそわけ、茶飲み話、食事・飲酒、娯楽やドライブ、趣味・教養、スポーツ）85.0%、相談ごと7.7%、外出・外出介助（買い物、通院・通所の介助、親戚・他の友人の訪問）5.1%、家事の手伝い（掃除・洗濯、家の修理・点検）2.0%で、近隣住民が訪問した時には、交流や楽しみ、が行なわれていて、相談ごと、身体的な活動である外出・外出介助、家事手伝いは若干行なわれていることが分かる。

立地別では、一人平均の回答数は、平地1.1、斜面地下1.1、斜面地上0.8で、平地と斜面地下で近隣が訪問時の活動が多いことが分かる。整理した回答を示せば、近隣住民との交流・楽しみ（平地89.0%・斜面地下92.7%・斜面地上66.6%）、相談ごと（平地10.0%・斜面地下6.3%・斜面地上3.3%）、外出・外出介助（平地7.0%・斜面地下3.1%・斜面地上3.3%）、家事の手伝い（平地2.0%・斜面地下2.2%・斜面地上3.2%）で、近隣住民との交流・楽しみは、斜面地下と平地で約9割であるのに対して斜面地上では6割台、相談事と外出・外出介助は、平地・斜面地下・斜面地上の順、家事の手伝いは、比率が少ないものの、斜面地上、斜面地下、平地の順であった。

表4. 2 近隣が訪問したとき一緒にすること、手伝ってくれること (MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	おすそわけ・ おみやげ
実数	14	62	7	2	2	1	78
百分率	7.2	32.0	3.6	1.0	1.0	0.5	40.2
平地	8 8.0	34 34.0	5 5.0	1 1.0	1 1.0	1 1.0	42 42.0
斜面地	6 6.4	28 29.8	2 2.1	1 1.1	1 1.1	-	36 38.3
(斜面地下)	5 7.8	18 33.3	2 3.1	1 1.6	1 1.6	-	28 43.8
(斜面地上)	1 3.3	10 33.3	-	-	-	-	8 26.7
	親戚・他の友 人の訪問	相談ごと	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
実数	2	15	1	8	2	7	201
百分率	1.0	7.7	0.5	4.1	1.0	3.6	100.0
平地	1 1.0	10 10.0	-	5 5.0	-	4 4.0	112 100.0
斜面地	1 1.1	5 5.3	1 1.1	3 3.2	2 2.1	3 3.2	89 100.0
(斜面地下)	-	4 6.3	1 1.6	2 3.1	2 3.1	1 1.6	65 100.0
(斜面地上)	1 3.3	1 3.3	-	1 3.3	-	2 6.7	24 100.0

表4. 3は、回答者が近隣住民に、買い物のお店や道路、神社、各種施設で会ったり、近隣を訪問したりという自宅以外で会う頻度を示したものである。ほぼ毎日17.0%、週に2、3回17.0%、週に1回程度18.1%、月に2回程度9.3%、月に1回程度9.9%、2ヶ月に1回程度1.1%、季節に1回程度3.3%、お盆やお正月0.5%、ほとんど訪問がない22.0%、その他1.6%であった。このうちほぼ毎日、週に2、3回、週に1回程度訪問するを合計すると、丸山地区の5割強の住民で、近隣の住民と自宅外で会っている状況が分かる。さらに月に2回程度、月に1回程度を加えれば、丸山地区の約7割の住民で近隣住民が月に1回以上近隣住民に自宅外で会っている状況が分かる。その一方で、2割強の住民が近隣住民にほとんど会っていないと回答している。

立地別に見ると、週に1回以上の頻度で近隣住民と自宅外で会うという回答の合計は、平地52.1%、斜面地52.3%（斜面地下47.5%、斜面地上62.9%）で、斜面地が平地を上回っている。斜面地の比率は斜面地上の6割強という比率を反映したもので、斜面地上の住民の間で頻繁な訪問が行なわれていることが分かる。月に1回以上の頻度で近隣の住民と自宅以外で会うという回答の合計は、平地75.0%、斜面地下64.5%、斜面地上74.0%で、平地・斜面地上・斜面地下の順になっている。一方、ほとんど訪問がないという回答は、平地19.8%、斜面地下27.1%、斜面地上18.5%で、斜

面地下・平地・斜面地上の順である。

表 4. 3 近隣との接触頻度

	ほぼ毎日、家 に来る	週に2、3回程 度、家に来る	週に1回程 度、家に来る	月に2回程 度、家に来る	月に1回程 度、家に来る	2ヶ月に1回程 度、家に来る
実数	31	31	33	17	18	2
百分率	17.0	17.0	18.1	9.3	9.9	1.1
平地	22 22.9	18 18.8	10 10.4	10 10.4	12 12.5	1 1.0
斜面地	9 10.5	13 15.1	23 26.7	7 8.1	6 7.0	1 1.2
(斜面地下)	6 10.2	7 11.9	15 25.4	4 6.8	6 10.2	1 1.7
(斜面地上)	3 11.1	6 22.2	8 29.6	3 11.1	- -	- -
	季節に1回程 度、家に来る	お盆や正月に 家に来る	ほとんど会っ ていない	その他	合 計	
実数	6	1	40	3	182	
百分率	3.3	0.5	22.0	1.6	100.0	
平地	2 2.1	- -	19 19.8	2 2.1	96 100.0	
斜面地	4 4.7	1 1.2	21 24.4	1 1.2	86 100.0	
(斜面地下)	3 5.1	- -	16 27.1	1 1.7	59 100.0	
(斜面地上)	1 3.7	1 3.7	5 18.5	- -	27 100.0	

次に、表 4. 4 で、近隣住民と自宅外で会った時の活動に関して、近隣住民との交流・楽しみ（平地 80.0%・斜面地下 61.0%・斜面地上 69.9%）、相談ごと（平地 10.0%・斜面地下 1.6%・斜面地上 0.0%）、外出・外出介助（平地 13.0%・斜面地下 6.3%・斜面地上 10.0%）、家事の手伝い（平地 1.0%・斜面地下 1.6%・斜面地上 3.3%）で、ほぼ同様の数値であるものの、斜面地上が近隣住民との交流・楽しみで斜面地下を上回り、外出・外出介助の比率が高くなっている。

表4. 4 近隣住民と自宅以外で一緒にすること、手伝ってくれること (MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	おすそわけ・ おみやげ
実数	20	61	15	3	-	1	40
百分率	10.3	31.4	7.7	1.5	-	0.5	20.6
平地	13 13.0	33 33.0	10 10.0	1 1.0	- -	1 1.0	23 23.0
斜面地	7 7.4	28 29.8	5 5.3	2 2.1	- -	- -	17 18.1
(斜面地下)	6 9.4	15 23.4	4 6.3	1 1.6	- -	- -	12 18.8
(斜面地上)	1 3.3	13 43.3	1 3.3	1 3.3	- -	- -	5 16.7
	親戚・他の友 人の訪問	相談ごと	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
実数	4	10	5	11	3	25	198
百分率	2.1	5.2	2.6	5.7	1.5	12.9	100.0
平地	2 2.0	9 9.0	4 4.0	7 7.0	- -	15 15.0	118 100.0
斜面地	2 2.1	1 1.1	1 1.1	4 4.3	3 3.2	10 10.6	80 100.0
(斜面地下)	- -	1 1.6	- -	4 6.3	2 3.1	8 12.5	53 100.0
(斜面地上)	2 6.7	- -	1 3.3	- -	1 3.3	2 6.7	27 100.0

(2) 他出子との社会関係—他出子の訪問と活動内容

住民の他出子との社会関係について見ていこう。

表4. 5は、他出した子どもがいる住民に関して、他出子が回答者の自宅を訪ずれる頻度を示したものである。週に1回程度21.9%、月に2、3回程度9.6%、月に1回程度21.9%、2ヶ月に1回程度4.4%、季節に1回程度8.8%、お盆やお正月15.8%、ほとんど訪れない5.3%、その他1.8%であった。このうちほぼ週に1回程度、月に2、3回程度、月に1回程度訪問を合計すると、丸山地区の5割強の住民で、他出した子どもが月に1回以上訪ずれている状況が分かる。一方、ほとんど家に来ないという回答はわずかであった。

立地別に見ると、月に1回以上の頻度で訪れているという回答の合計は、平地56.2%、斜面地50.8(斜面地下50.0%、斜面地上52.9%)で、平地が斜面地を上回っている。しかし、斜面地を上下に区分した上で、頻繁な交流(週に1回以上)について見れば、平地24.6%、斜面地上23.5%、斜面地下17.5%の順となり、他出子への頻繁な訪問に関して平地と斜面地上で斜面地下を上回っている状況が分かる。

表4. 5 別居の子どもがお宅を訪問する頻度

	週に1回以上、家に来る	月に2、3回程度、家に来る	月に1回程度、家に来る	2ヶ月に1回程度、家に来る	季節に1回程度、家に来る
実数	25	11	25	5	10
百分率	21.9	9.6	21.9	4.4	8.8
平地	14 24.6	3 5.3	15 26.3	3 5.3	8 14.0
斜面地	11 19.3	8 14.0	10 17.5	2 3.5	2 3.5
(斜面地下)	7 17.5	6 15.0	7 17.5	1 2.5	2 5.0
(斜面地上)	4 23.5	2 11.8	3 17.6	1 5.9	- -
	お盆や正月に家に来る	ほとんど家に来ない	その他	無回答	合計
実数	18	6	2	12	114
百分率	15.8	5.3	1.8	10.5	100.0
平地	8 14.0	1 1.8	- -	5 8.8	57 100.0
斜面地	10 17.5	5 8.8	2 3.5	7 12.3	57 100.0
(斜面地下)	7 17.5	4 10.0	1 2.5	5 12.5	40 100.0
(斜面地上)	3 17.6	1 5.9	1 5.9	2 11.8	17 100.0

表4. 6は、他出子が訪問した時の活動内容である。複数回答で、一人平均2.7の回答があった。回答内容を整理すれば、近隣の住民との交流・楽しみ（食事・飲酒、孫との交流、娯楽やドライブ、趣味・教養、スポーツ）146.5%、外出・外出介助（買い物、通院・通所の介助、墓参り、親戚・他の友人の訪問）95.7%、家事の手伝い（掃除・洗濯、家の修理・点検）24.5%で、他出子が訪問した時には、交流や楽しみ、外出・外出介助が行なわれていて、また家事手伝いも一定数が行なわれている。

立地別では、一人平均の回答数は、平地3.1、斜面地下2.2、斜面地上2.4で、平地で他出子の訪問時の活動が多いことが分かる。整理した回答を示せば、他出子との交流・楽しみ（平地163.2%・斜面地下127.5%・斜面地上125.2%）、外出・外出介助（平地121.0%・斜面地下62.5%・斜面地上88.3%）、家事の手伝い（平地26.3%・斜面地下22.5%・斜面地上23.6%）で、他出子の交流・楽しみは、平地・斜面地下・斜面地上の順、外出・外出介助は、平地・斜面地上・斜面地下の順、家事の手伝いは、平地・斜面地上、斜面地下の順であった。

表4. 6 別居の子どもが訪問して一緒にすること、手伝ってくれること (MA)

	食事・飲酒	孫との交流	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通院・ 通所の介助	墓参り
実数	74	53	57	20	8	6	31
百分率	64.9	46.5	50.0	17.5	7.0	5.3	27.2
平地	41 71.9	28 49.1	34 59.6	10 17.5	5 8.8	4 7.0	20 35.1
斜面地	33 57.9	25 43.9	23 40.4	10 17.5	3 5.3	2 3.5	11 19.3
(斜面地下)	24 60.0	16 40.0	16 40.0	8 20.0	1 2.5	1 2.5	6 15.0
(斜面地上)	9 42.9	9 52.9	7 41.2	2 11.8	2 11.8	1 5.9	5 29.4
	親戚・他の友 人の訪問	近所への挨拶	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
実数	9	6	31	7	2	2	306
百分率	7.9	5.3	27.2	6.1	1.8	1.8	100.0
平地	6 10.5	5 8.8	20 35.1	3 5.3	1 1.8	1 1.8	178 100.0
斜面地	3 5.3	1 1.8	11 19.3	4 7.0	1 1.8	1 1.8	128 100.0
(斜面地下)	1 2.5	1 2.5	8 20.0	3 7.5	- -	1 2.5	86 100.0
(斜面地上)	2 11.8	- -	3 17.6	1 5.9	1 5.9	- -	42 100.0

表4. 7は、他出した子どもがいる住民に関して、回答者が他出子の家を訪問する頻度を示したものである。週に1回程度3.5%、月に2、3回程度7.0%、月に1回程度4.4%、2ヶ月に1回程度8.8%、季節に1回程度13.2%、年に1、2回18.4%、ほとんど訪問しない29.8%、その他3.5%であった。このうちほぼ週に1回程度、月に2、3回程度、月に1回程度訪問を合計すると、丸山地区の7分の1の住民が月に1回以上の比率で他出した子どもの家を訪問し、一方、ほとんど訪問しないも3割に及ぶことが分かった。

立地別に見ると、月に1回以上の頻度で訪れているという回答の合計は、平地56.2%、斜面地50.8(斜面地下50.0%、斜面地上52.9%)で、平地が斜面地を上回っている。しかし、斜面地を上下に区分した上で、頻繁な交流(週に1回以上)について見れば、平地24.6%、斜面地上23.5%、斜面地下17.5%の順となり、他出子への頻繁な訪問に関して平地と斜面地上で斜面地下を上回っている状況が分かる。

表 4. 7 別居の子ども宅への訪問頻度

	週に1回以上、訪問する	月に2、3回程度、訪問する	月に1回程度、訪問する	2ヶ月に1回程度、訪問する	季節に1回程度、訪問する
実数	4	8	5	10	15
百分率	3.5	7.0	4.4	8.8	13.2
平地	2 3.5	5 8.8	2 3.5	4 7.0	8 14.0
斜面地	2 3.5	3 5.3	3 5.3	6 10.5	7 12.3
(斜面地下)	2 5.0	1 2.5	1 2.5	3 7.5	7 17.5
(斜面地上)	- -	2 11.8	2 11.8	3 17.6	- -
	年に1、2回、訪問する	ほとんど訪問しない	その他	無回答	合計
実数	21	34	4	13	114
百分率	18.4	29.8	3.5	11.4	100.0
平地	14 24.6	14 24.6	3 5.3	5 8.8	57 100.0
斜面地	7 12.3	20 35.1	1 1.8	8 14.0	57 100.0
(斜面地下)	5 12.5	15 37.5	- -	6 15.0	40 100.0
(斜面地上)	2 11.8	5 29.4	1 5.9	2 11.8	17 100.0

表 4. 8 は、回答者が他出子を訪問した時の活動内容である。複数回答で、一人平均 1.6 の回答があった。回答内容を整理すれば、近隣の住民との交流・楽しみ（食事・飲酒、孫との交流、娯楽やドライブ、趣味・教養、スポーツ）107.9%、外出・外出介助（買い物、孫の通学・通園、近所への挨拶）36.0%、家事の手伝い（掃除・洗濯、家の修理・点検）12.3%で、他出子を訪問した時の活動の多くは交流や楽しみであり、他に外出・外出介助と家事手伝いが行なわれている。

立地別では、一人平均の回答数は、平地 1.9、斜面地下 1.2、斜面地上 1.5 で、平地で他出子を訪問した時の活動数が多い。整理した回答を示せば、他出子との交流・楽しみ（平地 126.4%・斜面地下 82.5%・斜面地上 105.9%）、外出・外出介助（平地 45.6%・斜面地下 27.5%・斜面地上 23.5%）、家事の手伝い（平地 15.8%・斜面地下 7.5%・斜面地上 8.4%）で、他出子の交流・楽しみは、平地・斜面地上・斜面地下の順、外出・外出介助は、平地・斜面地下・斜面地上の順、家事の手伝いは、平地・斜面地上、斜面地下の順であった。

表4. 8 別居の子ども宅に訪問して一緒にすること、手伝っていること (MA)

	食事・飲酒	孫との交流	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	孫の通学・ 通園
実数	53	44	35	9	5	6
百分率	46.5	38.6	30.7	7.9	4.4	5.3
平地	32 56.1	24 42.1	22 38.6	6 10.5	3 5.3	4 7.0
斜面	21 46.5	20 35.1	13 22.8	3 5.3	2 3.5	2 3.5
(斜面下)	15 37.5	13 32.5	9 22.5	2 5.0	1 2.5	2 5.0
(斜面上)	6 35.3	7 41.2	4 23.5	1 5.9	1 2.5	- -
	近所への挨拶	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
実数	-	20	4	2	3	181
百分率	-	17.5	3.5	1.8	2.6	100.0
平地	- -	14 24.6	1 1.8	1 1.8	0 0	107 100.0
斜面	- -	6 17.5	3 5.3	1 1.8	3 5.3	74 100.0
(斜面下)	- -	3 7.5	2 5.0	- -	1 2.5	48 100.0
(斜面上)	- -	3 17.6	1 5.9	1 5.9	2 11.8	26 100.0

表4. 9は、他出子との通信の頻度である。ほぼ毎日17.5%、週に1回以上28.1%、月に1回以上32.5%、半年に1回以上4.4%で、ほとんど連絡を取り合わない7.0%であった。ほぼ毎日と週に1回以上を頻繁な連絡とすれば、週に1回以上、他出子と頻繁に連絡をとっている住民が半数弱であることが分かる。この数値に月に1回以上を加えれば、約8割の住民が月に1回以上の連絡をとっていることが分かる。

立地別では、ほぼ毎日(平地14.0%・斜面地下20.0%・斜面地上23.5%)、週に1回以上(平地31.6%・斜面地下22.5%・斜面地上29.4%)、月に1回以上(平地35.1%・斜面地下29.8%・斜面地上27.5%)、半年に1回以上(平地3.5%・斜面地下5.3%・斜面地上7.5%)、ほとんど連絡を取り合わない(平地5.3%・斜面地下12.5%・斜面地上0.0%)であった。このうち他出子との頻繁な連絡(ほぼ毎日と週に1回以上の合計)は、斜面地上52.9%、平地45.6%、斜面地下42.5%の順で、斜面地上で頻繁な連絡がされていることが分かる。この数値に月1回以上を含めた場合も、斜面地上88.2%、平地80.7%、斜面地下70.0%の順で、斜面地上で他出子と頻繁に連絡をとっていることが分かる。

表 4. 9 別居子との通信頻度

	ほぼ毎日	週に1回以上	月に1回以上	半年に 1回以上	ほとんど連絡を 取り合わない	無回答	合 計
実数	20	32	37	5	8	12	114
百分率	17.5	28.1	32.5	4.4	7.0	10.5	100.0
平地	8	18	20	2	3	6	57
	14.0	31.6	35.1	3.5	5.3	10.5	100.0
斜面地	12	14	17	3	5	6	57
	21.1	24.6	29.8	5.3	8.8	10.5	100.0
(斜面地下)	8	9	11	3	5	4	40
	20.0	22.5	27.5	7.5	12.5	10.0	100.0
(斜面地上)	4	5	6	-	-	2	17
	23.5	29.4	35.3	-	-	11.8	100.0

(3) 親戚との社会関係—親戚の訪問と活動内容

親戚との社会関係についてみていくことにしよう。

表 4. 10 は、親戚の居住地を示したものである。親戚の居住地（複数回答）は一人平均 1.8 で、丸山地区 9.6%、八幡東区 28.7%、北九州市内 55.6%、福岡県内 31.5%、九州 32.0%、山口県 2.8%、その他 19.7%であった。回答内容を整理すれば、丸山地区を含む八幡東区内 38.2%、丸山地区・八幡東区を含む北九州市内 93.8%で、丸山地区の住民の 4 割弱に親戚が八幡東区内に居住し、住民の 9 割以上に親戚が北九州市内に居住していることが分かる。

表 4. 10 親戚の住所

	丸山地区	八幡東区	北九州市内	福岡県内	九州	山口県	その他	合計
実数	17	51	99	56	57	5	35	320
百分率	9.6	28.7	55.6	31.5	32.0	2.8	19.7	100.0
平地	9	28	62	32	29	4	22	186
	9.4	29.2	64.6	33.3	30.2	4.2	22.9	100.0
斜面地	8	23	37	24	28	1	13	134
	9.8	28.0	45.1	29.3	34.1	1.2	15.9	100.0
(斜面地下)	4	12	26	19	21	1	9	92
	6.8	20.3	44.1	32.2	35.6	1.7	15.3	100.0
(斜面地上)	4	11	11	5	7	-	4	42
	17.4	47.8	47.8	21.7	30.4	-	17.4	100.0

立地別では、平地の場合、一人平均 1.9 で、丸山地区 9.4%、八幡東区 29.2%、北九州市内 64.6%、福岡県内 33.3%、九州 30.2%、山口県 4.2%、その他 22.9%であった。斜面地下の場合、一人平均 1.8 で、丸山地区 6.8%、八幡東区 20.3%、北九州市内 44.1%、福岡県内 32.2%、九州 35.6%、山口県 1.7%、その他 15.3%であった。斜面地上の場合、一人平均 1.8 で、丸山地区 17.4%、八幡東

区 47.8%、北九州市内 47.8%、福岡県内 21.7%、九州 30.4%、山口県 0.0%、その他 17.4%であった。回答内容を整理すれば、丸山地区を含む八幡東区内は（平地 38.5%、斜面地下 27.1%、斜面地上 65.2%）、丸山地区・八幡東区を含む北九州市内（平地 103.1%、斜面地下 71.2%、斜面地上 113.0%）で、斜面地上の住民の場合、住民の3分の2の親戚が八幡東区内に居住し、住民の1人以上の親戚が北九州市内に居住していること、一方、斜面地下の住民の場合、住民の4分の1強の親戚が八幡東区内に居住し、住民の7割の北九州市内に居住している状況、そして、平地の場合、住民の5分の2弱の親戚が八幡東区内に居住し、1人の親戚が北旧市内に居住している状況が分かる。

表4. 11 親戚がお宅を訪問する頻度

	週に1回以上、家に来る	月に2、3回程度、家に来る	月に1回程度、家に来る	2ヶ月に1回程度、家に来る	季節に1回程度、家に来る
全体	14 7.9	17 9.6	24 13.5	6 3.4	21 11.8
平地	11 11.5	11 11.5	12 12.5	4 4.2	12 12.5
斜面地	3 3.7	6 7.3	12 14.6	2 2.4	9 11.0
(斜面地下)	2 3.4	5 8.5	8 13.6	-	7 11.9
(斜面地上)	1 4.3	1 4.3	4 17.4	2 8.7	2 8.7
	お盆や正月に家に来る	ほとんど家に来ない	その他	合計	
実数	44	40	12	178	
百分率	24.7	22.5	6.7	100.0	
平地	18 18.8	22 22.9	6 6.3	96 100.0	
斜面地	26 31.7	18 22.0	6 7.3	82 100.0	
(斜面地下)	20 33.9	12 20.3	5 8.5	59 100.0	
(斜面地上)	6 26.1	6 26.1	1 4.3	23 100.0	

表4. 11は、親戚が回答者の自宅を訪れる頻度を示したものである。週に1回程度7.9%、月に2、3回程度9.6%、月に1回程度13.5%、2ヶ月に1回程度3.4%、季節に1回程度11.8%、お盆やお正月24.7%、ほとんど訪れない22.5%、その他6.7%であった。このうちほぼ週に1回程度、月に2、3回程度、月に1回程度の訪問を合計すると、丸山地区の約3分の1の住民で、親戚が月に1回以上訪れている状況が分かる。一方、ほとんど家に来ないという回答も2割強あった。

立地別に見ると、月に1回以上の頻度で訪れているという回答の合計は、平地35.5%、斜面地25.6

(斜面地下 25.5%、斜面地上 26.0%) で、平地が斜面地を上回っている状況が分かる。

表 4. 1 2 は、親戚が訪問した時の活動内容である。複数回答で、一人平均 1.3 の回答があった。回答内容を整理すれば、親戚との交流・楽しみ（食事・飲酒、茶飲み話、娯楽やドライブ、趣味・教養、スポーツ）86.5%、外出・外出介助（買い物、通院・通所の介助、墓参り、親戚・他の友人の訪問）32.9%、家事の手伝い（掃除・洗濯、家の修理・点検）5.7%で、親戚が訪問した時には、交流や楽しみが行なわれていて、他に外出・外出介助が回答者の 3 分の 1 で行なわれていること、家事手伝いがわずかながら行なわれている状況が分かる。

表 4. 1 2 親戚が訪問した時に行なう活動(MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	墓参り
実数	89	54	29	7	4	2	29
百分率	45.9	27.8	14.9	3.6	2.1	1.0	14.9
平地	47 47.0	32 32.0	18 18.0	3 3.0	4 4.0	1 1.0	16 16.0
斜面地	42 44.7	22 23.4	11 11.7	4 4.3	- -	1 1.1	13 13.8
(斜面地下)	33 51.6	20 31.3	10 15.6	4 6.3	- -	1 1.6	8 12.5
(斜面地上)	9 30.0	2 6.7	1 3.3	- -	- -	- -	5 16.7
	他の親戚・ 友人の訪問	近所への挨拶	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合計
実数	4	-	20	3	2	4	247
百分率	2.1	-	10.3	1.5	1.0	2.1	100.0
平地	3 3.0	- -	9 9.0	3 3.0	1 1.0	3 3.0	140 100.0
斜面地	1 1.1	- -	11 11.7	- -	1 1.1	1 1.1	107 100.0
(斜面地下)	- -	- -	9 14.1	- -	- -	1 1.6	86 100.0
(斜面地上)	1 3.3	- -	2 6.7	- -	1 3.3	- -	21 100.0

立地別では、一人平均の回答数は、平地 1.4、斜面地 1.1（斜面地下 1.3、斜面地上 0.7）で、平地で親戚の訪問時の活動が多く、斜面地上の 2 倍での数値である。整理した回答を示せば、親戚との交流・楽しみ（平地 92.0%・斜面地下 97.0%・斜面地上 46.7%）、外出・外出介助（平地 38.0%・斜面地下 29.7%・斜面地上 28.3%）、家事の手伝い（平地 7.0%・斜面地下 6.3%・斜面地上 0.0%）で、親戚との交流・楽しみは、斜面地下・平地・斜面地上の順、外出・外出介助は、平地・斜面地

上・斜面地下の順、家事の手伝いは、平地・斜面地上、斜面地下の順であった。平地・斜面地下の住民に対して斜面地上の住民の場合、親戚訪問時の活動が、いずれの領域の活動においても低位であることが特徴的である。

表4. 13は、親戚との通信の頻度である。ほぼ毎日5.8%、週に1回以上20.8%、月に1回以上34.7%、半年に1回以上17.9%で、年に1回程度8.1%、ほとんど連絡を取り合わない12.7%であった。ほぼ毎日と週に1回以上を頻繁な連絡とすれば、親戚と週に1回以上、頻繁に連絡をとっている住民が4分の1いることが分かる。この数値に月に1回以上を加えれば、約6割の住民が親戚と月に1回以上の連絡をとっていることが分かる。

立地別では、ほぼ毎日(平地7.5%・斜面地下5.3%・斜面地上0.0%)、週に1回以上(平地23.7%・斜面地下19.3%・斜面地13.0%)、月に1回以上(平地29.0%・斜面地下40.4%・斜面地上43.5%)、半年に1回以上(平地19.7%・斜面地下15.8%・斜面地上17.4%)、年に1回程度(平地7.5%・斜面地下8.8%・斜面地上8.7%)、ほとんど連絡を取り合わない(平地12.9%・斜面地下10.5%・斜面地上17.4%)であった。このうち親戚との頻繁な連絡(ほぼ毎日と週に1回以上の合計)は、平地31.2%、斜面地上24.6%、斜面地下13.0%の順で、平地・斜面地上に対して斜面地下の数値が低いことが分かる。この数値に月1回以上の通信を含めた場合、斜面地上65.0%、斜面地下56.5%の順で、斜面地下が斜面地上・平地に比べて数値が低いことが分かる。

表4. 13 親戚との通信頻度

	ほぼ毎日	週に 1回以上	月に 1回以上	半年に 1回以上	年に 1回程度	ほとんど連 絡を取り合 わない	無回答	合 計
実数	10	36	60	31	14	22		173
百分率	5.8	20.8	34.7	17.9	8.1	12.7		100.0
平地	7 7.5	22 23.7	27 29.0	18 19.7	7 7.5	12 12.9		93 100.0
斜面地	3 3.8	14 17.5	33 41.3	13 16.3	7 8.8	10 12.5		80 100.0
(斜面地下)	3 5.3	11 19.3	23 40.4	9 15.8	5 8.8	6 10.5		57 100.0
(斜面地上)	- -	3 13.0	10 43.5	4 17.4	2 8.7	4 17.4		23 100.0

(4) (近隣以外の) 友人との社会関係—友人の訪問と活動内容

(近隣以外の) 友人との社会関係についてみていくことにしよう。

表4. 14は、(近隣以外の) 友人の居住地を示したものである。友人の居住地(複数回答)は一人平均1.8で、丸山地区12.2%、八幡東区54.3%、北九州市内64.6%、福岡県内29.9%、九州12.2%、山口県1.8%、その他3.7%であった。回答内容を整理すれば、丸山地区を含む八幡東区内66.5%、

丸山地区・八幡東区を含む北九州市内 131.1%、前者を含む福岡県内 161.0%で、丸山地区の住民の3分の2に八幡東区内に居住する友人がいること、北九州市内に居住する友人が丸山地区の住民一人当たり1.3人いることが分かる。

立地別では、平地の場合、一人平均1.8で、丸山地区8.0%、八幡東区59.8%、北九州市内64.6%、福岡県内26.4%、九州12.6%、山口県2.3%、その他4.6%であった。斜面地下の場合、一人平均1.9で、丸山地区15.4%、八幡東区46.2%、北九州市内73.1%、福岡県内32.7%、九州13.5%、山口県1.9%、その他3.8%であった。斜面地上の場合、一人平均1.6で、丸山地区20.0%、八幡東区52.0%、北九州市内48.0%、福岡県内36.0%、九州8.0%、山口県0.0%、その他0.0%であった。回答内容を整理すれば、丸山地区を含む八幡東区内は（平地67.8%、斜面地下61.5%、斜面地上72.0%）、丸山地区・八幡東区を含む北九州市内（平地132.2%、斜面地下134.6%、斜面地上120.0%）で、斜面地上の住民の7割、一方、斜面地下の住民の6割の友人が八幡東区内に居住している状況、そして、北九州市内に居住している友人がいる住民は、斜面地下・平地に比べて斜面地下が1割程度低くなっていることが分かる。

表4. 14 近隣以外の友人の住所

	丸山地区	八幡東区	北九州市内	福岡県内	九州	山口県	その他	合計
実数	20	89	106	49	20	3	6	293
百分率	12.2	54.3	64.6	29.9	12.2	1.8	3.7	100.0
平地	7	52	56	23	11	2	4	155
	8.0	59.8	64.4	26.4	12.6	2.3	4.6	100.0
斜面地	13	37	50	26	9	1	2	138
	16.9	48.1	64.9	33.8	11.7	1.3	2.6	100.0
(斜面地下)	8	24	38	17	7	1	2	97
	15.4	46.2	73.1	32.7	13.5	1.9	3.8	100.0
(斜面地上)	5	13	12	9	2	-	-	41
	20.0	52.0	48.0	36.0	8.0	-	-	100.0

表4. 15は、(近隣以外の)友人が回答者の自宅を訪ずれる頻度を示したものである。ほぼ毎日0.6%、週に2、3回程度1.7%、週に1回程度5.1%、月に2、3回程度9.1%、月に1回程度13.7%、2ヶ月に1回程度8.6%、季節に1回程度7.4%、お盆やお正月2.9%、ほとんど訪れない49.1%、その他1.7%であった。このうちほぼ毎日、週に2、3回程度、週に1回程度の頻繁な訪問を合計すれば(7.4%)、丸山地区の1割弱の住民に頻繁に自宅を訪問する友人がいること、さらに月に1回以上の訪問を合計すれば、3割の住民に月に1回以上、自宅を訪問する友人がいることが分かる。一方、ほとんど家に来ないという回答も半数あった。

立地別に見ると、週に1回以上の頻繁な訪問は、平地3.2%、斜面地12.5%(斜面地下9.1%、斜面地上20.0%)、さらに月に1回以上の訪問の合計は、平地27.4%、斜面地33.8%(斜面地下27.3%、斜面地上48.0%)で、斜面地上が平地・斜面地下を大きく上回っている状況が分かる。とりわけ、

ほぼ毎日・週に2・3回程度という非常に頻繁な訪問の比率が1割程度であり、友人が頻繁に自宅を訪問していることが分かる。

表 4.15 近隣以外の友人がお宅を訪問する頻度

	ほぼ毎日、家 に来る	週に2、3回、 家に来る	週に1回程 度、家に来る	月に2回程 度、家に来る	月に1回程 度、家に来る	2ヶ月に1回程 度、家に来る
実数	1	3	9	16	24	15
百分率	0.6	1.7	5.1	9.1	13.7	8.6
平地	-	-	3	10	13	10
	-	-	3.2	10.5	13.7	10.5
斜面地	1	3	6	6	11	5
	1.3	3.8	7.5	7.5	13.8	6.3
(斜面地下)	-	1	4	3	7	3
	-	1.8	7.3	5.5	12.7	5.5
(斜面地上)	1	2	2	3	4	2
	4.0	8.0	8.0	12.0	16.0	8.0
	季節に1回程 度、家に来る	お盆や正月に 家に来る	ほとんど家に 来ない	その他	合計	
実数	13	5	86	3	175	
百分率	7.4	2.9	49.1	1.7	100.0	
平地	10	2	45	2	95	
	10.5	2.1	47.4	2.1	100.0	
斜面地	3	3	41	1	80	
	3.8	3.8	51.3	1.3	100.0	
(斜面地下)	3	2	32	-	55	
	5.5	3.6	58.2	-	100.0	
(斜面地上)	-	1	9	1	25	
	-	4.0	36.0	4.0	100.0	

表4.16は、(近隣以外の)友人が回答者の自宅を訪問した時の活動内容である。複数回答で、一人平均1.1の回答があった。回答内容を整理すれば、親戚との交流・楽しみ(食事・飲酒、茶飲み話、おすそわけ・おみやげ、娯楽やドライブ、趣味・教養、スポーツ)89.8%、相談6.2%、外出・外出介助(買い物、通院・通所の介助、親戚・他の友人の訪問)10.8%、家事の手伝い(掃除・洗濯、家の修理・点検)1.0%で、友人が訪問した時に9割の回答者が友人と交流や楽しみを行っていること、他に外出・外出介助、相談、家事手伝いは1割程度以下である状況が分かる。

立地別では、一人平均の回答数は、平地1.3、斜面地0.8(斜面地下0.8、斜面地上1.0)で、平地で友人の訪問時の活動が多く、次いで斜面地上、斜面地下の順である。整理した回答を示せば、親戚との交流・楽しみ(平地109.0%・斜面地下62.6%・斜面地上83.7%)、相談(平地10.0%・斜面地下1.6%・斜面地上3.3%)、外出・外出介助(平地12.0%・斜面地下7.9%・斜面地上13.3%)、家事の手伝い(平地1.0%・斜面地下1.63%・斜面地上0.0%)で、友人との交流・楽しみと相談

が平地・斜面地上・斜面地下の順、外出・外出介助が斜面地上・平地・斜面地下の順であった。交流・相談・外出に関して平地と斜面地下の住民の間で数値に差があり、斜面地上は交流・相談で斜面地上がその中間の数値で、外出・外出介助で平地を上回る数値である。

表4. 16 地区外の友人が訪問したとき一緒にすること、手伝ってくれること (MA)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	おすそわけ・ おみやげ
実数	43	63	15	-	2	-	38
百分率	22.2	32.5	7.7	-	1.0	-	19.6
平地	27 27.0	44 44.0	10 10.0	- -	1 1.0	- -	22 22.0
斜面地	16 17.0	19 20.2	5 5.3	- -	1 1.1	- -	16 17.0
(斜面地下)	11 17.2	11 17.2	4 6.3	- -	1 1.6	- -	8 12.5
(斜面地上)	5 16.7	8 26.7	1 3.3	- -	- -	- -	8 26.7
	親戚・ 他の友人の訪	相談ごと	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
実数	6	12	7	17	6	2	211
百分率	3.1	6.2	3.6	8.8	3.1	1.0	100.0
平地	2 2.0	10 10.0	5 5.0	9 9.0	2 2.0	- -	132 100.0
斜面地	4 4.3	2 2.1	2 2.1	8 8.5	4 4.3	2 2.1	79 100.0
(斜面地下)	1 1.6	1 1.6	1 1.6	6 9.4	3 4.7	1 1.6	48 100.0
(斜面地上)	3 10.0	1 3.3	1 3.6	2 6.7	1 3.3	1 0.3	31 100.0

表4. 17は、回答者が(近隣以外の)友人に会う頻度を示したものである。ほぼ毎日5.6%、週に2、3回11.2%、週に1回程度14.5%、月に2回程度11.7%、月に1回程度11.7%、2ヶ月に1回程度8.9%、季節に1回程度10.6%、お盆やお正月2.2%、ほとんど会っていない20.1%、その他3.4%であった。このうちほぼ毎日、週に2、3回、週に1回程度の接触を合計すると、丸山地区の約3分の1の住民が、友人と頻繁に会っている状況が分かる。さらに月に2回程度、月に1回程度を加えれば、半数強の住民が月に1回以上近、友人と会っている状況が分かる。その一方で、2割強の住民が友人にほとんど会っていないと回答している。

立地別に見ると、週に1回以上の頻度で友人と頻繁に会うという回答は、平地29.2%、斜面地33.7%(斜面地下35.8%、斜面地上29.6%)で、斜面地下がわずかに斜面地上・平地を上回っている。月に1回以上の頻度で友人に会うという回答は、平地55.3%、斜面地下48.3%、斜面地上66.6%

で、斜面地上が平地・斜面地下を上回っている。また、ほとんど会っていないという回答は、平地 19.8%、斜面地下 25.0%、斜面地上 11.1%で、斜面地下・平地・斜面地上の順である。

表4. 17 近隣以外の友人との接触頻度

	ほぼ毎日、家 に来る	週に2、3回程 度、家に来る	週に1回程 度、家に来る	月に2回程 度、家に来る	月に1回程 度、家に来る	2ヶ月に1回程 度、家に来る
実数	10	20	26	21	21	16
百分率	5.6	11.2	14.5	11.7	11.7	8.9
平地	5 5.2	7 7.3	16 16.7	14 14.6	11 11.5	9 9.4
斜面地	5 6.0	13 15.7	10 12.0	7 8.4	10 12.0	7 8.4
(斜面地下)	3 5.4	9 16.1	8 14.3	3 5.4	4 7.1	4 7.1
(斜面地上)	2 7.4	4 14.8	2 7.4	4 14.8	6 22.2	3 11.1
	季節に1回程 度、家に来る	お盆や正月に 家に来る	ほとんど会っ ていない	その他	合計	
実数	19	4	36	6	179	
百分率	10.6	2.2	20.1	3.4	100.0	
平地	10 10.4	- -	19 19.8	5 5.2	96 100.0	
斜面地	9 10.8	4 4.8	17 20.5	1 1.2	83 100.0	
(斜面地下)	6 10.7	4 7.1	14 25.0	1 1.8	56 100.0	
(斜面地上)	3 11.1	- -	3 11.1	- -	27 100.0	

表4. 18 地区外の友人と会ったとき一緒にすること、手伝ってくれること (MA) (1)

	食事・飲酒	茶飲み話	買い物	掃除・洗濯	家の修理・ 点検	通勤・ 通所の介助	おすそわけ・ おみやげ
実数	69	74	24	1	1	1	31
百分率	5.6	38.1	12.4	0.5	0.5	0.5	16.0
平地	46 46.0	45 45.0	17 17.0	1 1.0	1 1.0	1 1.0	22 22.0
斜面地	23 24.5	29 30.9	7 7.4	- -	- -	- -	9 9.6
(斜面地下)	15 23.4	18 28.1	4 6.3	- -	- -	- -	4 6.3
(斜面地上)	8 26.7	11 36.7	3 10.0	- -	- -	- -	5 16.7

表4. 18 地区外の友人と会ったとき一緒にすること、手伝ってくれること (MA) (2)

	親戚・ 他の友人の訪	相談ごと	娯楽や ドライブ	趣味・教養	スポーツ	その他	合 計
実数	5	9	25	25	9	5	279
百分率	2.6	4.6	12.9	12.9	4.6	2.6	100.0
平地	3 3.0	6 6.0	16 16.0	13 13.0	4 4.0	3 3.0	178 100.0
斜面地	2 2.1	3 3.2	9 9.6	12 12.8	5 5.3	2 2.1	101 100.0
(斜面地下)	1 1.6	2 3.1	6 9.4	9 14.1	5 7.8	- -	64 100.0
(斜面地上)	1 3.3	1 3.3	3 10.0	3 10.0	- -	2 6.7	37 100.0

次に、表4. 18で、(近隣以外の) 友人と会った時の活動に関して、友人との交流・楽しみ(平地146.0%・斜面地下89.1%・斜面地上100.1%)、相談ごと(平地6.0%・斜面地下3.1%・斜面地上3.3%)、外出・外出介助(平地21.0%・斜面地下7.9%・斜面地上13.3%)、家事の手伝い(平地2.0%・斜面地下0.0%・斜面地上0.0%)で、いずれの活動でも平地が斜面地を上回っていること、斜面地の間では、家事手伝いをのぞき斜面地上が斜面地下を上回っていることが分かる。

表4. 19は、(近隣以外の) 友人との通信の頻度である。ほぼ毎日6.7%、週に1回以上21.3%、月に1回以上40.2%、半年に1回以上11.0%で、年に1回程度7.3%、ほとんど連絡を取り合わない13.4%であった。ほぼ毎日と週に1回以上を頻繁な連絡とすれば、友人と週に1回以上、頻繁に連絡をとっている住民が4分の1強いることが分かる。この数値に月に1回以上を加えれば、約7割の住民が友人と月に1回以上の連絡をとっていることが分かる。

表4. 19 近隣以外の友人との通信頻度

	ほぼ毎日	週に 1回以上	月に 1回以上	半年に 1回以上	年に 1回程度	ほとんど連 絡を取り合 わない	無回答	合 計
実数	11	35	66	18	12	22		164
百分率	6.7	21.3	40.2	11.0	7.3	13.4		100.0
平地	8 9.2	20 23.0	34 39.1	9 10.3	4 4.6	12 13.8		87 100.0
斜面地	3 3.9	15 19.5	32 41.6	9 11.7	8 10.4	10 13.0		77 100.0
(斜面地下)	3 5.8	8 15.4	21 40.4	6 11.5	6 11.5	8 15.4		52 100.0
(斜面地上)	- -	7 28.0	11 44.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0		25 100.0

立地別では、ほぼ毎日(平地9.2%・斜面地下5.8%・斜面地上0.0%)、週に1回以上(平地23.0%・斜面地下15.4%・斜面地上28.0%)、月に1回以上(平地39.1%・斜面地下40.4%・斜面地上44.0%)、半年に1回以上(平地10.3%・斜面地下11.5%・斜面地上12.0%)、年に1回程度(平地4.6%・斜面地下11.5%・斜面地上8.0%)、ほとんど連絡を取り合わない(平地13.8%・斜面地下15.4%・斜面地上8.0%)であった。このうち友人との頻繁な連絡(ほぼ毎日と週に1回以上の合計)は、平地32.2%、斜面地上21.2%、斜面地下28.0%の順で、平地・斜面地上に対して斜面地下の数値が低いことが分かる。この数値に月1回以上の通信を含めた場合、斜面地上72.0%、平地71.3%、斜面地下61.6%の順で、斜面地下が斜面地上・平地に比べて数値が低いことが分かる。

(5) 他出子・親戚・近隣の住民・(近隣以外の)友人の訪問と活動内容—親族・友人との社会関係

さらに、他出子・親戚・近隣住民・(近隣以外の)の友人との社会関係についてみていくことにしよう。

表4.20は、親戚・(近隣以外の)友人の居住地を示したものである。丸山地区の住民の4割弱に親戚が八幡東区内に居住、さらに住民の9割以上に親戚が北九州市内に居住していて、また、丸山地区の住民の3分の2に八幡東区内に居住する友人が居住し、北九州市内に居住する友人が丸山地区の住民一人当たり1.3人いて、丸山地区の住民が親戚・友人の網の目の中にいることが分かった。

表4.20 他出子・親戚・友人の居住地

		北九州市				福岡県内	九州	山口県	その他	八幡東区内合計	北九州市内合計
		八幡東区		北九州市内							
		地区	丸山		東区						
親戚	平地	9.4	29.2	64.6	33.3	30.2	4.2	22.9	38.6	103.2	
	斜面地下	6.8	20.3	44.1	32.2	35.6	1.7	15.3	27.1	71.2	
	斜面地上	17.4	47.8	47.8	21.7	30.4	-	-	65.2	113.0	
友人	平地	8.0	59.8	64.4	26.4	12.6	2.3	4.6	67.8	132.2	
	斜面地下	15.4	46.2	73.1	32.7	13.5	1.9	3.8	61.6	134.7	
	斜面地上	20.0	52.0	48.0	36.0	8.0	-	-	72.0	120.0	

立地別では、親戚に関して、斜面地上の住民の場合、住民の3分の2の親戚が八幡東区内に居住し、さらに住民の1人以上の親戚が北九州市内に居住していること、一方、斜面地下の住民の場合、住民の4分の1強の親戚が八幡東区内に居住し、住民の7割の北九州市内に居住している状況、そして、平地の場合、住民の5分の2弱の親戚が八幡東区内に居住し、1人の親戚が北旧市内に居住している。友人に関して、斜面地上の住民の7割、一方、斜面地下の住民の6割の友人が八幡東区内に居住し、さらに北九州市内に居住している友人がいる住民は、斜面地下・平地に比べて斜面地下が1割程度低くなっていることが分かった。

次に、表4. 21で、他出子・親戚・(近隣以外の)友人・近隣の訪問頻度について見ていきたい。全体では、月に1回以上の訪問は、他出の子ども半数強、親戚3割、友人3割、近隣3分の2で、6割強の住民が近隣住民、5割強の住民が他出の子ども、3割の住民が親戚と友人が月に1回以上訪問していると回答し、物理的距離の近い近隣との関係性に加えて、関係性(つながり)の強さ・深さが、他出の子ども、そして親戚・友人の間の訪問の頻度に表れているといえよう。

表4. 21 住民の社会関係

	他出の子ども		親戚		友人		近隣住民	
	月に 1回以上	ほとんど 訪問せず	月に 1回以上	ほとんど 訪問せず	月に 1回以上	ほとんど 訪問せず	月に 1回以上	ほとんど 訪問せず
全体	53.4	5.3	31.0	22.5	30.2	49.1	64.5	28.1
平地	56.2	1.8	33.5	22.9	27.4	47.4	65.6	28.1
斜面地下	50.0	10.0	25.5	20.3	27.3	58.2	60.6	29.5
斜面地上	52.9	5.9	26.0	26.1	48.0	36.0	68.0	25.0

立地別では、他出子に関して、月に1回以上の訪問が、平地・斜面地下・斜面地上いずれも5割代で、他出子の場合、月1回以上の訪問で、立地での大きな差は見られない。親戚に関して、月に1回以上の訪問が、平地3分の1、斜面地下・斜面地上が4分の1で、親戚の場合、月1回以上の訪問で、平地がやや斜面地を上回っている。友人に関して、月に1回以上訪問するが、平地3割、斜面地下4分の1、斜面地上約5割で、友人の場合、月1回以上の訪問で、斜面地上が平地・斜面地下を大きく上回っている。近隣住民に関して、月に1回以上訪問するが、平地・斜面地下・斜面地上いずれも6割台で、近隣住民の場合、月1回以上の訪問に関して、立地による大きな差異は見られない。

さらに、表4. 22は、他出子・親戚・地区外の友人、近隣住民が自宅を訪問した時の活動内容を整理し、立地別に示したものである。交流・楽しみの場合、いずれの立地も、他出子が多い。ついで平地と斜面地上で友人、斜面地下で親戚がつづき、さらに平地で、親戚・近隣住民、斜面地下で近隣住民・友人、斜面地上で近隣住民・親戚の順になっている。相談ごとは、近隣住民と友人のみへの質問で、数値は高くないものの平地と斜面地上で友人と近隣住民が同じ割合、斜面地下の場合、近隣住民・友人の順である。外出・外出介助の場合、いずれの立地も他出子、友人・近隣住民の順である。家事の手伝いの場合、いずれの立地も他出子が最も多い。ついで平地・斜面地上で親戚・近隣住民・友人の順である。

表4. 2 2 他出子・親戚・友人・近隣住民の訪問時の活動内容

	交流・楽しみ	相談ごと	外出・外出介助	家事の手伝い
平地	①他出子(163.2)②友人(109.0)③親戚(92.0)④近隣住民(89.0)	①友人(10.0) ①近隣住民(10.0)	①他出子(121.0)②親戚(38.0)③友人(12.0)④近隣住民(5.1)	①他出子(26.3)②親戚(7.0)③近隣住民(2.0)④友人(1.0)
斜面地下	①他出子(127.5)②親戚(97.0)③近隣住民(92.7)④友人(62.6)	①近隣住民(6.3)②友人(1.6)	①他出子(62.5)②親戚(29.7)③友人(7.9)④近隣住民(3.1)	①他出子(22.5)②親戚(6.3)③近隣住民(3.2)④友人(1.6)
斜面地上	①他出子(125.2)②友人(83.7)③近隣住民(66.6)④親戚(46.7)	①友人(3.3)①近隣住民(3.3)	①他出子(88.3)②親戚(28.3)③友人(13.3)④近隣住民(3.3)	①他出子(23.6)②親戚(-)友人(-)近隣住民(-)

注：数字はパーセント、回答が0%の項目は除く

表4. 2 3は、地域活動団体への参加率について示したものである。全体で見ると、一人あたりの平均は1.03であり、団体参加は一人平均1である。最も参加率が高いのは自治会の36.1%、次いで老人クラブ14.9%、文化・教養サークル9.3%である。地域住民の高齢化を反映しているためかPTAは2.6%である。

立地別に見れば、斜面地上の一人あたりの平均が1.27、平地1.02、斜面地下0.94で、斜面地上の参加率が最も高くなっている。いずれの立地においても参加率が高いのは「自治会」であり、平地34.0%、斜面地下40.6%、斜面地上33.3%である。次に多い老人クラブの場合、平地で14.0%、斜面地下で14.1%、斜面地上で20.0%、そして文化・教養サークルの場合、平地10.0%、斜面地下6.3%、斜面地上16.7%で、いずれも斜面に上の比率が高い。斜面地上の比率がこのように平地・斜面地下に比べて高い活動は、他にスポーツ団体、福祉ボランティア団体、美化・環境・リサイクルのボランティア団体、職場のOB会である。平地の比率が他の立地に比べて高いのは学校の同窓会である。こうした状況から、斜面地上が他の立地に比べて活動参加が多いことが分かる。

表4. 2 3 住民が参加している地域活動(MA) (1)

	自治会	老人クラブ	婦人会・婦人防火クラブ	PTA	青少年育成協議会	消防団	文化・教養サークル
実数	70	29	2	5	4	-	18
百分率	36.1	14.9	1.0	2.6	2.1	-	9.3
平地	34 34.0	14 14.0	1 1.0	2 2.0	4 4.0	-	10 10.0
斜面地	36 38.3	15 16.0	1 1.1	3 3.2	-	-	8 8.5
(斜面地下)	26 40.6	9 14.1	1 1.6	2 3.1	-	-	3 4.7
(斜面地上)	10 33.3	6 20.0	-	1 3.3	-	-	5 16.7

表4. 23 住民が参加している地域活動(MA) (2)

	スポーツ団体	学校の同窓会	職場のOB会	社会福祉 協議会	福祉ボランテ ィア団体	美化・環境・リ サイクルのボラ ンティア団体	青年会
実数	9	9	6	6	6	4	1
百分率	4.6	4.6	3.1	3.1	3.1	2.1	0.5
平地	2 2.0	6 6.0	3 3.0	3 3.0	3 3.0	2 2.0	1 1.0
斜面地	7 7.4	3 3.2	3 3.2	3 3.2	3 3.2	2 2.1	- -
(斜面地下)	4 6.3	2 3.1	1 1.6	1 1.6	- -	- -	- -
(斜面地上)	3 10.0	1 3.3	2 6.7	2 6.7	3 10.0	2 6.7	- -
	交通安全団体	防犯組織	まちづくり 団体	檀家・ 氏子組織	その他	合 計	
実数	2	3	9	9	8	200	
百分率	1.0	1.5	4.6	4.6	4.1	103.1	
平地	2 2.0	2 2.0	5 5.0	3 3.0	5 5.0	102 102.0	
斜面地	- -	1 1.1	4 4.3	6 6.4	3 3.2	98 104.3	
(斜面地下)	- -	1 1.6	4 6.3	4 6.3	2 3.1	60 93.8	
(斜面地上)	- -	- -	- -	2 6.7	1 3.3	38 126.7	

5 まとめ

本稿は、平成22年度・23年度の関門共同研究のテーマ（「関門地域における斜面地居住の課題と可能性」）の第二の関心である地域社会の高齢化や地方経済の衰退状況が見られる中、斜面地住民の生活と社会関係の状況を調査票調査の結果を通して把握することを目的とし、具体的には、本研究の調査事例地である下関市上新地地区および北九州市八幡東区丸山地区の地域生活状況を調査票調査の結果の分析によって明らかにすることであった。

本稿は、両調査対象地の地域状況を明らかにするために、第Ⅰ部を下関市上新地地区にあてて、地区住民（平地・斜面地）の生活の状況を第1節で、社会関係の内容を第2節で明らかにした。次に第Ⅱ部を北九州市八幡東区丸山地区にあてて、地区住民（平地・斜面地）の生活の状況を第3節で、社会関係の内容を第4節で明らかにした。

(1) 下関市上新地地区の住民生活と社会関係

まず第1部の下関市上新地地区の住民生活の特徴をまとめてみたい。

回答者の属性から見た下関市上新地地区の地域特性と住民生活の現状の主な特徴の第Iは、上新地地区の地区類型と地域特性に関するものである。

すなわち、平地、斜面地上・下の3つの地区類型ごとに、住民（回答者）の属性が大きく異なることがわかった。平地は、マンション形式の集合住宅に居住する新住民（平成期以降の転居者）が多く、他地区に比べると若年層、核家族世帯の比率が高い。住民の職業階層という点では、ホワイトカラー層と家計補助の主婦層、あるいは非正規就労層とが混在している地区だと見なすことができる。これに対して、斜面地上には一戸建持ち家層が圧倒的に多く、平地に比べると高齢化が進んでいるため、無職者と有職者、年金生活層と稼得収入生活層とが混在している。職業階層という点では、ホワイトカラー層と専業主婦層の多い地区だといえる。上新地で生まれた「地付き層」の割合も相対的に高く、それゆえ居住年数の長い人の割合も高くなっている。一方、斜面地下では借地・借家層が過半数を占め、長屋形式の棟続き住宅に居住している住民も他地区に比べて多い。高齢者率が最も高い地区（回答者の高齢者率は57.0%）で、高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯が集積しているため、年金生活を送る無職層が多い。職業従事者にはブルーカラー層が相対的に多いという特徴も見られる。高齢化が著しく進行しているせいもあってか、健康状態に不安や問題を抱えている者も多い。

このように、3地区の中では斜面地下が高齢化にともなう問題状況を最も抱えた地区であり、そうした特性が、以下に見るように、住民生活の現状と居住環境評価に大きな影響を及ぼしている。

本調査のデータでは、上新地の地理的特性に基づく地区類型が社会地区類型と重層する傾向を示しているが、その背景を解明するためには、地域の開発史や市街地形成・発展史に関する質的調査データを補足的に収集し分析する必要があるだろう。調査研究にかかわる今後の課題である。

下関市上新地地区の地域特性と住民生活の現状の主な特徴の第2は、地区ごとに見た日常生活の現状と居住環境評価に関するものである。一つは、斜面地においては坂道や階段の上り下りを負担に感じている人が多く、特に「病気や体調の悪い時」や「荷物を持っている時」に、斜面地居住者の負担感が重いようである。斜面地上よりもむしろ下で負担感が重い傾向が見られるが、これは、高齢化率が高く自家用車利用率が低い（徒歩に依存せざるをえない人が多い）という斜面地下の地域特性の反映であろう。次に、生活の利便性という点では、平地居住者が全般的に利便性を享受しているのに対して、斜面地居住者ではその割合が相対的に低くなる傾向が見られる。特に食料品購入（買い物）において便利だと感じる人の割合は、平地に比べ斜面地できわだって低くなっており、しかも10年前と比べて利便性が低下している。

次に下関市上新地地区の住民の社会関係の特徴をまとめてみたい。社会関係の実態について、血縁（他出子・親戚）と地縁（近隣関係）、選択縁（近隣以外の友人）に分けて調査結果を分析した。結論として、上新地地区における社会関係はあまり豊富であるとは言えない。

血縁の関係について見ると、他出子・親戚ともに訪問等による日常的な交流がある層とあまり交流がない層とに二極分化していることが明らかである。交流の内容は親睦や楽しみに関わるものが

ほとんどであり、生活支援などの機能的な役割をもつものは少ない。

地縁（近隣関係）について見ても、交流はあまり活発ではないといえよう。近隣住民同士の行き来は「ほとんどない」「ほとんど会わない」が4割にも上る。一方で、週1回以上の頻度で訪問したり会ったりする層も3割程度であり、ここでも交流頻度の二極化が見られる。また、立地別に近隣同士の交流を比較すると、斜面地よりも平地のほうが低調であることが明らかで、この意味では上新地地区において「斜面地」という地理的条件は近隣の交流にマイナスには作用していないことも分かる。

選択縁としての友人関係についても、お互いの訪問は低調であるとともに、ここでも「頻繁に交流がある」（週1回以上会う）層と「ほとんど会っていない」層との二極化が見られた。

地域活動団体への参加についても、自治会の参加率が3割程度にとどまっており、極めて低調である。

調査対象地である上新地地区は、高齢者層が斜面地に多く、平地は比較的若年層が多いという傾向にあり、そのことが平地住民の社会関係の乏しさとも関係していると思われる。

（2）北九州市八幡東区丸山地区の住民生活と社会関係

さらに、北九州市八幡東区丸山地区の住民の生活の特徴をまとめてみたい。

丸山では、高齢化が著しく進展している。今回の回答者の平均年齢は63.9歳であった。健康状態では、健康であるとする人が6割はあるものの、問題があるとする人も1割以上いる。また高齢化は、世帯類型に大きな影響を与えている。丸山では、高齢単身世帯・夫婦のみ世帯で暮らす人が4割を占めている。全回答者のうち7割には別居子がいるが、今後の同居予定がある人はその内の1割にも満たない。経済面でみれば、無職の人が5割で、収入を年金だけに頼る人が5割弱という状況である。住宅は7割が持ち家に住んでおり、形態としては一戸建てが大半で、安定的な居住確保ができていく地域であると言える。ただし、今回の調査票では敷地面積や建坪等は聞いていない。現地調査での印象に過ぎないが、特に斜面地では、一戸建てといっても狭小で、日当たりも十分確保できていないものが多い。本調査でも、転居意向の理由として、家屋老朽化や建て替えの困難を挙げる回答がみられた。

つぎに、斜面地での生活状況を中心に述べる。坂道や階段の上り下りの負担感は7割以上の人を感じている。病気や悪天候等の状況によって、負担感を感じる人は10ポイント程度増加する。また、平地住民であっても、斜面地住民と変わらないほどに負担感を感じていることも明らかになった。居住環境の快適性では、地区により評価項目に差がある。すなわち、利便性+心地よい環境が評価されるのはいずれの地区でも共通であるが、平地では前者に、斜面地では後者により高い評価がなされている。日常生活の利便性では、平地住民における「食料品購入」の利便性がこの10年で大幅に低下したことが分かった。この背景には、調査直前のスーパー閉店が影響していると考えられる。スーパーの閉店は、平地住民に、生活構造の変更を強い、彼らに相対的剥奪状況をもたらしたと推測される。実は長期的にみれば、この相対的剥奪状況は、丸山全体の状況でもある。同地区に隣接する中央町商店街は、八幡製鉄所のいわば城下町の中心であったが、1970年代に入ると急速に衰退

していった。今回の調査では、居住環境のマイナス評価の最上位に「市場・商店街衰退」が挙げられている。このような問題認識を持ちながらも、3/4 の人が住み心地がよいと感じており、また現在の家での居住継続を希望している。その背景には、丸山住民の地域性も考えられる。居住歴でみた場合、土着層は住民の2割程度に過ぎない。転入層は6割に上るが、そのうちの約7割は北九州市内を前住地としている。ここから、彼らは、大都市における若年転入層とは異なり、すでに近辺になんらかの地域的ネットワークを持つ人々と推測され、そのことが居住継続の意向にも影響していると考えられる。

最後に、斜面地下地区について簡単にまとめておく。調査に先立ち、われわれは、標高の高い地域ほど生活困難性が高いとの予測を持っていたが、本分析からはむしろ異なった結果が得られた。斜面地下は、3地区のうち高齢化がもっとも進んでおり、年金のみを収入とする人の比率も最も高い。世帯類型では、高齢単身世帯・夫婦のみ世帯で暮らす人の比率が最も高く5割を越えている。別居子との同居予定があるという人はいなかった。他地区に比べ、「棟続きの住宅」に暮らす人の比率がやや高いのもこの地区の特徴である。自家用車の利用が困難であるとする人が1/3を越え、これは他の2地区よりはるかに高い比率である。このことと関係すると考えられるのが、坂道の昇降がきついとするとする人の比率が7割と抜きん出て高いことである。ここから、単に標高の高さが問題なのではなく、道路へのアクセシビリティが重要であることが示唆される。住み心地については、マイナス評価をする人が3割で、これは他の2地区を10ポイント以上上回る値である。転居を考える人も他地区より多く、2割を越えている。このような状況の下、居住環境水準の向上が課題となるが、同地区の回答者の要望では、「階段に昇降機器取り付け」「空き家に新しい住民を招請」「道路整備」「石段や坂道に手すり取り付け」「平地に集合住宅建築」などが挙げられている。

次に北九州市八幡東区丸山地区の住民の社会関係の特徴をまとめてみたい。

丸山地区の住民の社会関係は、親戚・(近隣以外の)友人の居住地に関して、住民の4割弱に親戚が八幡東区内に居住、さらに住民の9割以上に親戚が北九州市内に居住し、また、丸山地区の住民の3分の2に八幡東区内に居住する友人が居住し、北九州市内に居住する友人が丸山地区の住民一人以上いて、丸山地区の住民が親戚・友人の網の目の中で生活をしている状況が明らかになった。立地別では、八幡東区内の親戚・友人に関して、斜面地上の住民がともに最も多く、斜面地下・平地の住民は類似の傾向を示している。一方、北九州市内の友人に関して、平地・斜面地下に対して斜面地上の数値が低くなっていることが明らかになった。

こうした他出子・親戚・(近隣以外の)友人・近隣の住民宅への訪問に関して、月に1回以上訪問しているのは、近隣住民の訪問が6割強の住民、他出の子どもの訪問が5割強、親戚や友人の訪問が3割で、物理的距離の近い近隣に加えて、他出の子ども、そして親戚・友人という関係性(つながり)の強さ・深さの順が訪問の頻度に表れている。

立地別では、他出子と近隣住民の月に1回以上の訪問は、立地での大きな差は見られない。親戚の月1回以上の訪問では、平地がやや斜面地を上回っている。一方、友人の月1回以上の訪問で、斜面地上が平地・斜面地下を大きく上回っている。

さらに、他出子・親戚・地区外の友人、近隣住民が自宅を訪問した時の活動内容に関して、交流・

楽しみの場合、いずれの立地でも他出子が多かった。ついで平地と斜面地上で友人、斜面地下で親戚がつづき、さらに平地で、親戚・近隣住民、斜面地下で近隣住民・友人、斜面地上で近隣住民・親戚の順になっている。家事の手伝いの場合もいずれの立地も他出子が最も多く、ついで平地・斜面地上で親戚・近隣住民・友人の順であった。

地域住民の地域活動への参加に関しては、斜面地上の住民の活動参加が平地・斜面地下に比べて多いことを特徴として指摘することができよう。

下関市上新地地区 住民生活調査

※北九州市でも同様の調査票を用いて調査を実施した。

平成23年1月実施

下関市立大学は、毎年、「関門共同研究」を実施しており、本年度は、両市における斜面地生活をテーマに研究を進めております。このたび、本研究の一環として、上新地地区で生活されている住民の方の生活調査を実施することになりました。

なお、本調査で得られたデータは、学術研究および斜面地等の生活に関する政策提言のためにのみに用います。また、個人情報の保護に十分に注意して、調査報告書に個人のお名前が出ないことをお約束いたします。

ご多忙のところ恐縮ですが、調査票の回収は 月 日頃に調査員がお宅に受け取りに参ります。お手数をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

調査票の回収方法

調査票の回収は、株式会社サーベイリサーチセンター九州事務所のスタッフが自宅に伺います。

調査主体 下関市立大学地域共創センター

研究員	下関市立大学経済学部	教授	叶堂 隆三
	下関市立大学経済学部	准教授	加来 和典
	山口大学人文学部	教授	横田 尚俊
	山口大学人文学部	准教授	速水 聖子

調査実施 株式会社 サーベイリサーチセンター 九州事務所
812-0011 福岡市博多区博多駅前 4-4-21 グリーンビル 2F
TEL 0120-218-333 FAX 092-411-8851

【問1】現在のあなたのことについて、お伺いします。

1. 最初に、あなたの年齢・性別・職業・収入についてご回答ください。

年齢	性別	職業	収入
満 ()歳	1 男性 2 女性	1. 仕事に従事している 2. 仕事に従事していない	1. 給与・自营等の収入のみ 2. 年金のみ 3. 給与等と年金 4. その他()

2. 仕事に従事している人は、あなたのご職業を教えてください。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- 1 専門・管理・経営 2 事務 3 生産労働（製造・建設などに従事）
4 販売・サービス 5 自営業 6 農林漁業
7 パート・アルバイト 8 無職・主婦 9 その他()

3. 仕事に従事していない人は、あなたの前職を教えてください。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- 1 専門・管理・経営 2 事務 3 生産労働（製造・建設などに従事）
4 販売・サービス 5 自営業 6 農林漁業
7 パート・アルバイト 8 無職・主婦 9 その他()

4. 現在のあなたの世帯の状況についてご回答ください。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- 1 一人暮らし（64歳以下） 2 一人暮らし（65歳以上）
3 夫婦のみ（ともに64歳以下） 4 夫婦のみ（少なくとも片方が65歳以上）
5 夫婦と親の同居（夫婦が64歳以下）
6 夫婦と親の同居（夫婦の少なくとも片方が65歳以上）
7 夫婦と未婚の子（父と子、母と子の世帯を含む）
8 三世帯同居 9 その他（具体的に)

5. あなたのお宅に同居されている方はいらっしゃいますか。また、別居されているお子さん（ご結婚して別居したお子さんも含みます）がいらっしゃいますか。

同居している人は、あなたを含めて()人
別居しているお子さんは 1 あり(=)人 2 なし

【問1 SQ】（お一人またはご夫婦のみでお暮らしで、別居しているお子さんがいらっしゃる方にお伺いします。それ以外の方は【問2】にお進み下さい。）お子さんの状況についてご回答下さい。続柄をご記入の上、それぞれについてあてはまる番号一つに○をつけてください。

1. 別居のお子さんについて（ご結婚して別居したお子さんも含みます）

	続柄をお書き下さい。	現在、お住まいの場所はどこですか。当てはまる番号一つに○をつけてください。	別居された理由を教えてください
1		1 新地地区 2 旧下関市内 3 平成の合併後の 下関市内 4 山口県内 5 中国地方 6 福岡県 7 その他（ ）	1 進学 2 就職・転勤 3 結婚 4 住宅事情 5 その他（ ）
2		1 新地地区 2 旧下関市内 3 平成の合併後の 下関市内 4 山口県内 5 中国地方 6 福岡県 7 その他（ ）	1 進学 2 就職・転勤 3 結婚 4 住宅事情 5 その他（ ）
3		1 新地地区 2 旧下関市内 3 平成の合併後の 下関市内 4 山口県内 5 中国地方 6 福岡県 7 その他（ ）	1 進学 2 就職・転勤 3 結婚 4 住宅事情 5 その他（ ）
4		1 新地地区 2 旧下関市内 3 平成の合併後の 下関市内 4 山口県内 5 中国地方 6 福岡県 7 その他（ ）	1 進学 2 就職・転勤 3 結婚 4 住宅事情 5 その他（ ）

2. 別居のお子さん（ご結婚して別居したお子さんも含みます）の中に、お一人でも今後同居される予定の方がいらっしゃいますか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- 1 予定がある 2 予定はない 3 分からない

【問2】あなたのお宅は、どの番地（街区）にありますか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. 4丁目1・2・3・4・7番地（街区）
2. 4丁目5・6・8番地（街区）
3. 4丁目9・15番地（街区）
4. 4丁目10・11・12・13・14・15番地（街区）
5. 5丁目1・2番地（街区）
6. 5丁目7・8・9・10・11・12番地（街区）
7. 5丁目3・4・5番地（街区）
8. 5丁目13番地（街区）

【問3】あなたご自身は、買い物などで日常的に外出される場合、どのような方法を用いていますか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. たいてい徒歩である。
2. たいてい自転車である。
3. たいていバイクである。
4. たいてい自家用車を利用している。
5. たいていバスを利用している
6. たいていタクシーを利用している。
7. その他（ ）

【問4】坂道や階段の上り下りについて、現在、あなたはどのようにお感じでしょうか。
それぞれについて当てはまる番号一つに○をつけてください。

(1)日常的な坂道の上り下りについて	1 上り下りとも負担だ 3 下りが特に負担だ 5 上り下りをしていない	2 上りが特に負担だ 4 負担に感じない
(2)天候の悪い時の坂道の上り下りについて	1 上り下りとも負担だ 3 下りが特に負担だ 5 上り下りをしていない	2 上りが特に負担だ 4 負担に感じない
(3)荷物を持っている時の坂道の上り下りについて	1 上り下りとも負担だ 3 下りが特に負担だ 5 上り下りをしていない	2 上りが特に負担だ 4 負担に感じない
(4)病気・体調の悪い時の坂道の上り下りについて	1 上り下りとも負担だ 3 下りが特に負担だ 5 上り下りをしていない	2 上りが特に負担だ 4 負担に感じない

【問5】日常生活であなたの世帯でご利用になるサービスについてお伺いします。下記の表の中の各項目に関してご回答をお願いします。それぞれについて当てはまる番号一つに○をつけてください。

	現在、主にご利用になっている店・施設・サービスについて教えてください	10年前に利用していた地域の店・施設・サービスについて教えてください
食料品の購入	1 便利である 2 不便である 3 どちらともいえない	1 便利であった 2 不便であった 3 どちらともいえない 4 住んでなかった、または利用していなかった
病院・診療所	1 便利である 2 不便である 3 どちらともいえない	1 便利であった 2 不便であった 3 どちらともいえない 4 住んでなかった、または利用していなかった
ディサービス(福祉)	1 便利である 2 不便である 3 どちらともいえない 4 利用していない	1 便利であった 2 不便であった 3 どちらともいえない 4 住んでなかった、または利用していなかった
お金の引き落とし(銀行・郵便局)	1 便利である 2 不便である 3 どちらともいえない	1 便利であった 2 不便であった 3 どちらともいえない 4 住んでなかった、または利用していなかった
保育所・幼稚園学校	1 便利である 2 不便である 3 どちらともいえない 4 利用していない	1 便利であった 2 不便であった 3 どちらともいえない 4 住んでなかった、または利用していなかった
ごみ出し	1 便利である 2 不便である 3 どちらともいえない	1 便利であった 2 不便であった 3 どちらともいえない 4 住んでなかった、または利用していなかった

【問6】現在お住まいの上新地地区の居住環境についてお伺いします。

1. 現在、上新地地区が快適とお感じになっているのは、どのような点でしょうか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 眺望のよさ | 2 閑静な環境 |
| 3 空気がきれいであること | 4 高台であること |
| 5 市の中心部であること | 6 商業施設・病院・金融機関等を利用しやすいこと |
| 7 交通の便がいいこと | 8 職場に近い（近かった）こと |
| 9 地域のことに住民が熱心にかかわろうとしていること | |
| 10 地域の間人関係がよく、地域がまとまっていること | |
| 11 教育熱心な雰囲気があること | |
| 12 地域の祭りやイベントが盛んであること | |
| 13 その他（具体的に | ） |

2. 現在、上新地地区にお住まいになって不便や不安などを感じておられるのは、どのような点でしょうか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 坂道や階段の昇降がきついこと | |
| 2 坂道や階段の昇降が危険なこと | |
| 3 地震・台風・火災等の災害が心配なこと | |
| 4 道路事情・駐車事情が悪く、自家用車を利用しにくいこと | |
| 5 道路事情が悪く、交通事故が心配なこと | |
| 6 タクシーやバスが利用しにくいこと | |
| 7 市場・商店街が衰退していること | |
| 8 子供や若い世代が少なく、住民が高齢化していること | |
| 9 小中学校が統廃合される心配があること | |
| 10 子供をとりまく環境が心配であること | |
| 11 空き家・空き地が増加していること | |
| 12 その他（具体的に | ） |

【問7】全体的に見て、上新地地区の住み心地はよい方ですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 大変よい | 2 どちらかといえば、よい |
| 3 どちらかといえば、よくない | 4 よくない |

【問8】上新地地区の居住環境を高めるために行政や地域が取り組むべき対応として、どのようなものが必要であるとお考えでしょうか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 階段の昇降を手助けする機器（リフト・エレベータ等）を取り付ける。 | |
| 2 石段や坂道に手すりを取り付ける。 | |
| 3 道路を整備し、自動車を利用しやすくする。 | |
| 4 平地に集合住宅を建築して、希望者が転居できるようにする。 | |
| 5 共同建て替えを推進する。 | |
| 6 防災活動を活発にして、災害に対応できるようにする。 | |
| 7 道路事情にあった消防・救急車両や機器を配備する。 | |
| 8 空き家に新しい住民が居住できるようにする。 | |
| 9 地区の魅力をアピールし、観光名所にする。 | |
| 10 地域住民のきずなを強めて、助け合いのまちづくりをめざす。 | |
| 11 住民の集会施設をつくる。 | |
| 12 その他（具体的に | ） |

【問9】現在の地区に入居された当時のことをお伺いします。

1. 現在の地区に入居された状況を教えてください。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- 1 現在住んでいる地区で生まれた。→ 4. に進んでください
- 2 子供の頃、今の地区に転居した。
- 3 成人後、現在の地区に住んだ。
- 4 結婚後、現在の地区に住んだ
- 5 その他（具体的に _____)

2. (1. で2～6に○をつけた方にお伺いします)現在の地区に住むことになった理由を教えてください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 親の仕事の都合 | 2 自分または配偶者の仕事の都合 |
| 3 親族が近くにいたため | 4 同郷の人が近くにいたため |
| 5 職場からの紹介 | 6 手ごろな価格で住宅が購入できたため |
| 7 家賃・地代が安かったため | 8 子供の教育環境がよかったため |
| 9 便利で暮らしやすかったため | 10 治安がよかったため |
| 11 静かで住み心地がよかったため | 12 地域のイメージがよかったため |
| 13 配偶者の家があったため | |
| 14 その他（具体的に _____) | |

3. (1. で2～6に○をつけた方にお伺いします)現在の地区に住まれる前は、どちらにいらっしゃいましたか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|---------|---------------|
| 1 新地地区 | 2 旧下関市内 | 3 平成の合併後の下関市内 |
| 4 山口県内 | 5 中国地方 | 6 福岡県 |
| 7 その他 (_____) | | |

4. (全員にお伺いします)現在の地区に住まわれたのはいつごろですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-----------|---------------|
| 1 第二次世界大戦前 | 2 昭和20年代 | 3 昭和30年代 |
| 4 昭和40年代 | 5 昭和50年代 | 6 昭和60年代～平成6年 |
| 7 平成7年～平成16年 | 8 平成17年以降 | |

【問10】現在、別居されているお子さん（結婚して他出されたお子さんを含みます）との交流についてお伺いします。なお、別居されているお子さんのいらっしゃらない方は【問10】に進んでください。

1. 別居されているお子さんは、どのくらいあなたのお宅を訪問していますか。すべてのお子さんの帰省を合計してご回答ください。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 週に1回以上、家に来る | 2 月に2、3回程度、家に来る |
| 3 月に1回程度、家に来る | 4 2ヶ月に1回程度、家に来る |
| 5 季節に1回程度、家に来る | 6 お盆や正月に家に来る |
| 7 家にほとんど来ない | |
| 8 その他（具体的に _____) | |

2. 別居されているお子さん（やお子さんの家族）があなたのお宅に来た時に、何か一緒に行なったり、手伝ってくれる事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1 食事・飲酒 | 2 孫との交流 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 通院・通所の介助 |
| 7 墓参り | 8 親戚・友人の訪問 | 9 近所への挨拶 |
| 10 娯楽やドライブ | 11 趣味・教養 | 12 スポーツ |
| 13 その他（具体的に | | ） |

3. 別居されているお子さんのお宅を、どの程度、あなたは訪問していますか。すべてのお子さんのお宅への訪問を合計して、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 週に1回以上、訪問する | 2 月に2、3回程度、訪問する |
| 3 月に1回程度、訪問する | 4 2ヶ月に1回程度、訪問する |
| 5 季節に1回程度、訪問する | 6 年に1、2回、訪問する |
| 7 ほとんど訪問しない | |
| 8 その他（具体的に | ） |

4. あなたが別居されているお子さん宅を訪問した時に、何か一緒に行なったり、手伝っている事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| 1 食事・飲酒 | 2 孫との交流 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 孫の通学・通園 |
| 7 近所への挨拶 | 8 娯楽やドライブ | 9 趣味・教養 |
| 10 スポーツ | 11 その他（具体的に | ） |

5. 別居されているお子さんと、どの程度、電話や手紙、電子メールで連絡を取り合っていますか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 ほぼ毎日連絡を取り合っている | 2 週1回以上連絡を取り合っている |
| 3 月1回以上連絡を取り合っている | 4 半年に1回以上連絡を取り合っている |
| 5 1年に1回程度連絡を取り合っている | 6 ほとんど連絡を取り合わない |

【問 11】お子さん以外のご親戚（別居している親御さんを含む）との交流についてお伺いします。

1. あなたのご親戚の方々はどこらにお住まいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------|---------|---------------|
| 1 新地地区 | 2 旧下関市内 | 3 平成の合併後の下関市内 |
| 4 山口県内 | 5 中国地方 | 6 福岡県 |
| 7 その他（ | | ） |

2. ご親戚の方々、あなたのお宅を訪問される回数を教えてください。すべてのご親戚の訪問を合計して、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 週に1回以上、訪問する | 2 月に2、3回程度、訪問する |
| 3 月に1回程度、訪問する | 4 2ヶ月に1回程度、訪問する |
| 5 季節に1回程度、訪問する | 6 年に1、2回、訪問する |
| 7 ほとんど訪問しない | |
| 8 その他（具体的に | ） |

3. ご親戚の方々が自宅を訪問した時に、何か一緒に行なったり、手伝ってくれる事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1 食事・飲酒 | 2 親戚の家族との交流 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 通院・通所の介助 |
| 7 墓参り | 8 他の親戚・友人の訪問 | 9 近所への挨拶 |
| 10 娯楽やドライブ | 11 趣味・教養 | |
| 12 スポーツ | 13 その他（具体的に | ） |

4. ご親戚の方々と、どの程度、電話や手紙、電子メールで連絡を取り合っているでしょうか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 ほぼ毎日連絡を取り合っている | 2 週1回以上連絡を取り合っている |
| 3 月1回以上連絡を取り合っている | 4 半年に1回以上連絡を取り合っている |
| 5 1年に1回程度連絡を取り合っている | 6 ほとんど連絡を取り合わない |

【問12】ご近所（上新地区内）との交流についてお伺いします。

1. ご近所の方が、あなたのお宅を訪問する回数を教えてください。すべてのご近所の方の訪問を合計して、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 ほぼ毎日、家に来る | 2 週に2、3回程度、家に来る |
| 3 週に1回程度、家に来る | 4 月に2回程度、家に来る |
| 5 月に1回程度、家に来る | 6 2ヶ月に1回程度、家に来る |
| 7 季節に1回程度、家に来る | 8 お盆や正月に家に来る |
| 9 ほとんど家に来ない | |
| 10 その他（具体的に | ） |

2. ご近所の方があなたのお宅を訪問した時に、何か一緒に行なったり、手伝ってくれる事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1 食事・飲酒 | 2 茶飲み話 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 通院・通所の介助 |
| 7 おすそわけ・おみやげ | 8 親戚・他の友人の訪問 | 9 相談ごと |
| 10 娯楽やドライブ | 11 趣味・教養 | 12 スポーツ |
| 13 その他（具体的に | | ） |

3. あなたは、自宅以外で、買い物のお店や道路、ばんこ、神社、各種施設でご近所の方と会ったり、ご近所の方に訪問したりなどして、どの程度、ご近所の方とお会いになっていますか。すべてを合計して、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 ほぼ毎日、会っている | 2 週に2、3回程度、会っている |
| 3 週に1回程度、会っている | 4 月に2回程度、会っている |
| 5 月に1回程度、会っている | 6 2ヶ月に1回程度、会っている |
| 7 季節に1回程度、会っている | 8 お盆や正月に会っている |
| 9 ほとんど会っていない | |
| 10 その他（具体的に | ） |

4. ご近所の方に自宅以外で会った時に、何か一緒に行なったり、手伝っている事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1 食事・飲酒 | 2 茶飲み話 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 通院・通所の介助 |
| 7 おすそわけ・おみやげ | 8 親戚・他の友人の訪問 | 9 相談ごと |
| 10 娯楽やドライブ | 11 趣味・教養 | 12 スポーツ |
| 13 その他（具体的に | | ） |

【問 13】 上新地地区外にお住まいのご友人との交流についてお伺いします。

1. 上新地地区以外のご友人はどちらにお住まいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|------------|---------|---------------|
| 1 新地地区 | 2 旧下関市内 | 3 平成の合併後の下関市内 |
| 4 山口県内 | 5 中国地方 | 6 福岡県 |
| 7 その他（具体的に | | ） |

2. 上新地地区以外のご友人が、あなたのお宅を訪問する回数を教えてください。すべてのご友人の訪問を合計して、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 ほぼ毎日、家に来る | 2 週に2、3回程度、家に来る |
| 3 週に1回程度、家に来る | 4 月に2回程度、家に来る |
| 5 月に1回程度、家に来る | 6 2ヶ月に1回程度、家に来る |
| 7 季節に1回程度、家に来る | 8 お盆や正月に家に来る |
| 9 ほとんど家に来ない | |
| 10 その他（具体的に | ） |

3. 上新地地区以外のご友人があなたのお宅を訪問する時に、何か一緒に行なったり、手伝ってくれる事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| 1 食事・飲酒 | 2 茶飲み話 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 通院・通所の介助 |
| 7 おすそわけ・おみやげ | 8 親戚・友人の訪問 | 9 相談ごと |
| 10 娯楽やドライブ | 11 趣味・教養 | 12 スポーツ |
| 13 その他（具体的に | | ） |

4. あなたは、上新地地区以外のご友人に、どの程度、お会いになっていますか。すべてを合計して、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 ほぼ毎日、会っている | 2 週に2、3回程度、会っている |
| 3 週に1回程度、会っている | 4 月に2回程度、会っている |
| 5 月に1回程度、会っている | 6 2ヶ月に1回程度、会っている |
| 7 季節に1回程度、会っている | 8 お盆や正月に会っている |
| 9 ほとんど会っていない | |
| 10 その他（具体的に | ） |

5. 上新地地区以外のご友人に会った時に、何か一緒に行なったり、手伝っている事柄がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| 1 食事・飲酒 | 2 茶飲み話 | 3 買い物 |
| 4 掃除・洗濯 | 5 家の修理・点検 | 6 通院・通所の介助 |
| 7 おすそわけ・おみやげ | 8 親戚・友人の訪問 | 9 相談ごと |
| 10 娯楽やドライブ | 11 趣味・教養 | 12 スポーツ |
| 13 その他（具体的に | | ） |

6. 上新地地区以外のご友人と、どの程度、電話や手紙、電子メールで連絡を取り合っているでしょうか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 ほぼ毎日連絡を取り合っている | 2 週1回以上連絡を取り合っている |
| 3 月1回以上連絡を取り合っている | 4 半年に1回以上連絡を取り合っている |
| 5 1年に1回程度連絡を取り合っている | 6 ほとんど連絡を取り合わない |

【問 14】あなたは、今後も、今のお宅で生活をつづけたいとお考えですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 現在の家で生活をつづけたい | → 【問15】に進んでください |
| 2. 新地地区内に転居したい | |
| 3. 下関市内の他地区に転居したい | |
| 4. 下関市外に転居したい | |
| 5. その他（具体的に | ） |

【問 14SQ】（【問 14】で2～5を回答した人にお伺いします）その理由を教えてください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 家屋の老朽化 | 2 住宅が狭い |
| 3 住居の設備に不満がある | 4 自家用車を利用しにくい |
| 5 家の建て替えが難しい | 6 災害の不安がある |
| 7 坂道・階段の上り下りが大変 | 8 身体が弱ってきた |
| 9 職場や学校に通うのに不便 | 10 買い物や通院等が不便 |
| 11 公共交通やタクシーを利用しにくい | |
| 12 別居中の子供や親族に同居を勧められた | |
| 13 治安や防犯に不安 | |
| 14 その他（具体的に | ） |

【問 15】あなたご自身が、現在、参加されている地域の活動についてお伺いします。参加されている団体があれば、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|-------------|---------------|
| 1 自治会 | 2 老人クラブ | 3 婦人会・婦人防火クラブ |
| 4 PTA | 5 青少年育成協議会 | 6 消防団 |
| 7 文化・教養サークル | 8 スポーツ団体 | 9 学校の同窓会 |
| 10 職場のOB会 | 11 社会福祉協議会 | 12 福祉ボランティア団体 |
| 13 美化・環境・リサイクルのボランティア団体 | 14 青年会 | |
| 15 交通安全団体 | 16 防犯組織 | 17 まちづくり団体 |
| 18 檀家・氏子組織 | 19 その他（具体的に | ） |

【問 16】現在お住まいのお宅は、次のいずれでしょうか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

(1) 住宅の所有の形態

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 土地・建物ともに所有している | 2 借地で建物を所有している |
| 3 借家である | 4 その他 () |

(2) 住宅の形態

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 一戸建て | 2 棟続きの住宅（長屋など） |
| 3 集合住宅（マンション） | 4 その他 () |

【問 17】あなたの健康状況についてお伺いします。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. 健康である
2. 健康に不安がある
3. 健康状態に問題がある
4. その他（具体的に)

【問 18】以下の質問について、A と B の2つの考え方があります。どちらの考え方にあなたは近いですか。波線で囲んだ選択肢のうち、あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. 上新地地区の人口について

- A 少子高齢化が進み、地域の人口が減少していくのは仕方がないことである。
B 地域の人口を維持するために、上新地地区で生まれ育った若者が戻ってきたり、新住民が転入できるように何か対策をとるべきだ。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 Aに近い | 2 どちらかというAに近い |
| 3 どちらかというBに近い | 4 Bに近い |

2. 上新地地区で空き家が増えていることについて

- A 上新地地区に住みたいと希望する地区外の人たちに、空き家の情報を提供したり、あっせんをしたりするようなしくみをつくるべきだ。
B 土地や地形などの条件から考えて、空き家が増えるのは仕方がないことであり、時代の流れにまかせるべきだ。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 Aに近い | 2 どちらかというAに近い |
| 3 どちらかというBに近い | 4 Bに近い |

3. 住みやすい地域にするために必要なことについて

- A 地域を住みやすくするためには、住民みんなが地域のことに関心を持ち、協力し合うことが大切だ。
B 地域を住みやすくするためには、地域のことをよく知っている熱心で有能な人たちにまかせておいた方がよい。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 Aに近い | 2 どちらかというAに近い |
| 3 どちらかというBに近い | 4 Bに近い |

以上で質問は終わりです。どうもありがとうございました。

地区の現状や将来について、何かご意見がありましたら、表紙下のスペースの記入欄
にお書き下さい。

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for writing comments or opinions. The box is centered on the page and occupies most of the lower half of the page.

